



滋賀県立大学
平成29（2017）年度
講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

目 次

1110011	英語	A (活性化コース)	(環境)	佐久間 思帆	前期	・ ・ ・	1
1110012	英語	B (活性化コース)	(環境)	佐久間 思帆	後期	・ ・ ・	3
1110021	英語	A (活性化コース)	(環境)	渡 寛法	前期	・ ・ ・	5
1110022	英語	B (活性化コース)	(環境)	渡 寛法	後期	・ ・ ・	7
1110031	英語	A (活性化コース)	(環境)	香山 恵美	前期	・ ・ ・	9
1110032	英語	B (活性化コース)	(環境)	香山 恵美	後期	・ ・ ・	11
1110041	英語	A (活性化コース)	(環境)	西澤 裕一	前期	・ ・ ・	13
1110042	英語	B (活性化コース)	(環境)	西澤 裕一	後期	・ ・ ・	15
1110051	英語	A (活性化コース)	(環境)	関 初海	前期	・ ・ ・	17
1110052	英語	B (活性化コース)	(環境)	関 初海	後期	・ ・ ・	19
1110061	英語	A (活性化コース)	(環境)	吉田 亞矢	前期	・ ・ ・	21
1110062	英語	B (活性化コース)	(環境)	吉田 亞矢	後期	・ ・ ・	23
1110221	英語	A (応用コース)	(環境)	Graham Jones	前期	・ ・ ・	25
1110222	英語	B (応用コース)	(環境)	Graham Jones	後期	・ ・ ・	27
1110231	英語	A (応用コース)	(環境)	Ashley Mark Stevens	前期	前期	29
1110232	英語	B (応用コース)	(環境)	Ashley Mark Stevens	後期	後期	31
1110241	英語	A (応用コース)	(環境)	Armando Duarte	前期	・ ・ ・	33
1110242	英語	B (応用コース)	(環境)	Armando Duarte	後期	・ ・ ・	35
1110251	英語	A (応用コース)	(環境)	Graham Jones	前期	・ ・ ・	37
1110252	英語	B (応用コース)	(環境)	Graham Jones	後期	・ ・ ・	39
1110261	英語	A (応用コース)	(環境)	Karl Hedberg	前期	・ ・ ・	41
1110262	英語	B (応用コース)	(環境)	Karl Hedberg	後期	・ ・ ・	43
1110271	英語	A (応用コース)	(環境)	Gordon Maclaren	前期	・ ・ ・	45
1110272	英語	B (応用コース)	(環境)	Gordon Maclaren	後期	・ ・ ・	47
1110421	英語	A (充実コース)	(環境)	市場 史哉	前期	・ ・ ・	49
1110422	英語	B (充実コース)	(環境)	市場 史哉	後期	・ ・ ・	51
1110431	英語	A (充実コース)	(環境)	西澤 裕一	前期	・ ・ ・	53
1110432	英語	B (充実コース)	(環境)	西澤 裕一	後期	・ ・ ・	55
1110441	英語	A (充実コース)	(環境)	真田 満	前期	・ ・ ・	57
1110442	英語	B (充実コース)	(環境)	真田 満	後期	・ ・ ・	59
1110451	英語	A (充実コース)	(環境)	Carl John Boland	前期	・ ・ ・	61
1110452	英語	B (充実コース)	(環境)	Carl John Boland	後期	・ ・ ・	63
1110461	英語	A (充実コース)	(環境)	佐久間 思帆	前期	・ ・ ・	65
1110462	英語	B (充実コース)	(環境)	佐久間 思帆	後期	・ ・ ・	67
1110471	英語	A (充実コース)	(環境)	Armando Duarte	前期	・ ・ ・	69
1110472	英語	B (充実コース)	(環境)	Armando Duarte	後期	・ ・ ・	71
1110631	英語	A (展開コース)	(環境)	坂元 敦子	前期	・ ・ ・	73
1110632	英語	B (展開コース)	(環境)	坂元 敦子	後期	・ ・ ・	75
1110641	英語	A (展開コース)	(環境)	坂本 輝世	前期	・ ・ ・	77
1110642	英語	B (展開コース)	(環境)	坂本 輝世	後期	・ ・ ・	79
1110651	英語	A (展開コース)	(環境)	吉田 亞矢	前期	・ ・ ・	81
1110652	英語	B (展開コース)	(環境)	吉田 亞矢	後期	・ ・ ・	83
1110661	英語	A (展開コース)	(環境)	坂元 敦子	前期	・ ・ ・	85
1110662	英語	B (展開コース)	(環境)	坂元 敦子	後期	・ ・ ・	87
1110671	英語	A (展開コース)	(環境)	坂本 輝世	前期	・ ・ ・	89
1110672	英語	B (展開コース)	(環境)	坂本 輝世	後期	・ ・ ・	91
1110681	英語	A (展開コース)	(環境)	渡 寛法	前期	・ ・ ・	93
1110682	英語	B (展開コース)	(環境)	渡 寛法	後期	・ ・ ・	95
1130010	情報リテラシー	(情報倫理を含む)	(環境a)	山本 洋紀	前期	前期	97
1130020	情報リテラシー	(情報倫理を含む)	(環境b)	亀田 彰喜	前期	前期	99
1130030	情報リテラシー	(情報倫理を含む)	(環境c)	山本 洋紀	前期	前期	101
1130040	情報リテラシー	(情報倫理を含む)	(環境d)	亀田 彰喜	前期	前期	103
1130140	情報科学概論	(環境a)	山本 洋紀	後期	・ ・ ・	105	
1130150	情報科学概論	(環境b)	亀田 彰喜	後期	・ ・ ・	107	
1130160	情報科学概論	(環境c)	山本 洋紀	後期	・ ・ ・	109	
1130170	情報科学概論	(環境d)	亀田 彰喜	後期	・ ・ ・	111	
1150050	環境行動論/ 迫田 正美			前期	・ ・ ・	113	
1150300	人間探求学 (環境政策・計画)			学科教員	前期	・ ・ ・	115
1200050	G I S演習 香川 雄一			後期	・ ・ ・	117	
1200101	イベント計画論・演習/ 瀧 健太郎			後期	・ ・ ・	119	
1200102	環境政策デザイン論・演習 瀧 健太郎			後期	・ ・ ・	121	
1200120	エコロジー経済学/ 村上 一真			後期	・ ・ ・	123	
1200150	応用数学 井手 慎司			後期	・ ・ ・	125	
1200160	応用統計学 白木 裕斗			前期	・ ・ ・	127	
1200170	応用統計学 村上 一真			後期	・ ・ ・	129	
1200300	環境アセスメント 錦澤 滋雄			前期集中	・ ・ ・	131	
1200330	環境会計 藤近 雅彦			前期	・ ・ ・	133	
1200370	環境化学 丸尾 雅啓			前期	・ ・ ・	135	
1200390	環境科学概論 小泉 尚嗣			前期	・ ・ ・	137	
1200400	環境科学概論 伊丹 清			後期	・ ・ ・	139	
1200440	環境学原論/ 村上 修一			前期	・ ・ ・	141	
1200480	環境監査 池北 實			前期集中	・ ・ ・	143	
1200550	環境経営論 高橋 卓也			後期	・ ・ ・	145	
1200560	環境計画学 瀧 健太郎			後期	・ ・ ・	147	
1200571	環境経済演習 林 宰司			後期	・ ・ ・	149	

1200580	環境経済学 林 宰司 後期	...	151
1200581	環境経済学入門 高橋 卓也 前期	...	153
1200582	環境財政 村上 一真 後期	...	155
1200620	環境シミュレーション 井手 慎司 後期	...	157
1200630	環境社会学 小野 奈々 後期	...	159
1200645	環境情報 白木 裕斗 後期	...	161
1200661	環境心理学 佐々木 和之 前期	...	163
1200665	環境水文学 大久保 卓也 前期	...	165
1200700	環境政策学 上河原 献二 後期	...	167
1200770	環境生物学 浦部 美佐子 後期	...	169
1200890	環境地球科学 堂満 華子 前期	...	171
1200960	環境フィールドワーク 学部教員 前期	...	173
1200970	環境フィールドワーク 学部教員 前期	...	175
1200980	環境フィールドワーク 学部教員 通年集中	...	177
1200990	環境物理学 小泉 尚嗣 後期	...	179
1201039	環境法 上河原 献二 前期	...	181
1201060	環境マネジメント演習 高橋 卓也 前期	...	183
1201080	環境倫理学/ 土屋 正春 前期集中	...	185
1201085	環境公正論 土屋 正春 前期集中	...	187
1201110	基礎数学 山崎 惣治郎 前期	...	189
1201120	基礎数学 山崎 惣治郎 後期	...	191
1201130	基礎統計 金谷 健 前期	...	193
1201160	景観計画 村上 修一 後期	...	195
1201170	経済学 林 宰司 後期	...	197
1201180	経済学 (国際経済を含む) 村上 一真 前期	...	199
1201331	合意形成支援技法・演習 金谷 健 後期	...	201
1201380	国際環境資源論 高橋 卓也 後期	...	203
1201410	コミュニティ計画論/ 芦澤 竜一 前期	...	205
1201465	サステイナブルデザイン論 芦澤 竜一 前期	...	207
1201470	資源経済学 高橋 卓也 前期	...	209
1201510	持続可能社会論/ 高橋 卓也 前期	...	211
1201550	市民参加論 小野 奈々 前期	...	213
1201560	社会学 小野 奈々 前期	...	215
1201621	社会システム分析設計・演習 和田 有朗 後期	...	217
1201630	社会調査実習(政策) 平山 奈央子 通年	...	219
1201790	森林環境学 野間 直彦 前期	...	221
1201930	政策計画演習 学科教員 前期	...	223
1201940	政策計画演習 学科教員 後期	...	225
1201950	政策計画演習 学科教員 前期	...	227
1201960	政策計画演習 学科教員 後期	...	229
1201961	政策計画基礎演習 学科教員 前期	...	231
1201962	政策計画基礎演習 学科教員 後期	...	233
1201970	政策形成・施設演習 学科教員 後期	...	235
1201980	政治学 望月 詩史 前期	...	237
1201990	政治学 (国際政治を含む) 望月 詩史 後期	...	239
1202440	卒業研究(環境政策・計画)/ 学科教員 通年研究	...	241
1202441	卒業研究(環境政策・計画) 学科教員 前期研究	...	243
1202442	卒業研究(環境政策・計画) 学科教員 後期研究	...	245
1202550	地域開発論 平山 奈央子 前期	...	247
1202580	地域環境政策論 香川 雄一 前期	...	249
1202610	地域再生システム論/ 鶴飼 修 前期集中	...	251
1202640	地域システム論 和田 有朗 前期	...	253
1202660	地域調査法 香川 雄一 前期	...	255
1202670	地域調査法演習 香川 雄一 後期	...	257
1202710	地球環境システム論 上河原 献二 後期	...	259
1202750	動物生態学 高倉 耕一 後期	...	261
1202950	廃棄物管理論 金谷 健 前期	...	263
1203061	ファシリテーション技法・演習 平山 奈央子 後期	...	265
1203110	法学概論(国際法を含む) 坂田 雅夫 前期	...	267
1203150	水環境政策論 井手 慎司 前期	...	269
1300040	エネルギー変換工学 河崎 澄 後期	...	271

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110011	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後に課題の提出が毎回あります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110012	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。英語を読み・聞きだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後に課題の提出が毎回あります。

到達目標

- (1) 語彙力の向上
- (2) リスニング力の向上
- (3) 読解力の向上
- (4) 英語での思考力の向上
- (5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	(1) 語彙力10% (2) リスニング力10% (3) 読解力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110021	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ (スマートフォンでも計測機能があればOK) を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110022	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110031	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキヤニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み
30% 授業内の課題
40% 到達度確認テスト (2回)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110031	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方説明、自己紹介
第2回	Unit 1	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 2	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 3	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 4	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 5	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 6	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 7	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 8	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 9	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 10	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	コミュニケーションスキルテスト	コミュニケーションスキルテストを行う
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う

担当者から一言

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110032	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキヤニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30% 授業内での取り組み
30% 授業内の課題
40% 到達度確認テスト (2回)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)						担当教員	香山 恵美	
講義コード	1110032	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方説明
第2回	Unit 11	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 12	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 13	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 14	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 15	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 16	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 17	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 18	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 19	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 20	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	コミュニケーションスキルテスト	コミュニケーションスキルテストを行う
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
担当者から一言		

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110041	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上を目標とします。語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点が狙えるような比較的短い時間で長文の内容を理解できる英語の読解力を身につけること。
2. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力（特に基本的なビジネス英語の知識）を身につけること。
3. TOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	30%	リスニングに関するレポート課題15% 語彙に関する小テスト15%
上記以外	20%	授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど）

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりとっていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Gear Up for the TOEIC Test	Mark D. Stafford, 妻島千鶴子	金星堂	9784764739581
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身！	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110041	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Events (1)	授業の進め方の説明とTOEIC問題演習
第2回	Events (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第3回	Eating Out (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第4回	Eating Out (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第5回	Shopping (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第6回	Shopping (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第7回	Housing(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第8回	Housing(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第9回	Employment (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第10回	Employment (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第11回	Personnel (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第12回	Personnel (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第13回	Office (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第14回	Office (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第15回	Finance and Banking (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第16回	Finance and Banking (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第17回	Management (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第18回	Management (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第19回	Transactions (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第20回	Transactions (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第21回	Documents (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第22回	Documents (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第23回	Public Announcements (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第24回	Public Announcements (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第25回	Commuting (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第26回	Commuting (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第27回	Travel (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第28回	Travel (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第29回	News (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第30回	News (2)/まとめ	語彙の確認とTOEIC問題演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。また学内TOEIC以降はTOEIC以外の内容も扱う予定です。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110042	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上を目標とします。語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1. TOEICで高得点が狙えるような比較的短い時間で長文の内容を理解できる英語の読解力を身につけること。
2. TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力（特に基本的なビジネス英語の知識）を身につけること。
3. TOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	30%	リスニングに関するレポート課題15% 語彙に関する小テスト15%
上記以外	20%	授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど）

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりとしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Gear Up for the TOEIC Test	Mark D. Stafford, 妻島千鶴子	金星堂	9784764739581
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身！	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)							担当教員	西澤 裕一
講義コード	1110042	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Events (1)	授業の進め方の説明とTOEIC問題演習
第2回	Events (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第3回	Eating Out (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第4回	Eating Out (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第5回	Shopping (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第6回	Shopping (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第7回	Housing(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第8回	Housing(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第9回	Employment (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第10回	Employment (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第11回	Personnel (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第12回	Personnel (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第13回	Office (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第14回	Office (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第15回	Finance and Banking (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第16回	Finance and Banking (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第17回	Management (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第18回	Management (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第19回	Transactions (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第20回	Transactions (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第21回	Documents (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第22回	Documents (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第23回	Public Announcements (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第24回	Public Announcements (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第25回	Commuting (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第26回	Commuting (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第27回	Travel (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第28回	Travel (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第29回	News (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第30回	News (2)/まとめ	語彙の確認とTOEIC問題演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。また学内TOEIC以降はTOEIC以外の内容も扱う予定です。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110051	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上
- (6) TOEICスコアをアップさせる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	40	到達目標(2), (6)について2回の到達確認テストで評価(30%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(10%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110051	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションとUnit 1	授業の進め方についての説明 Unit 1 教育とジェンダー
第2回	Unit 1(2)	Unit 1 教育とジェンダー (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第3回	Unit 2(1)	Unit 2 地球温暖化 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第4回	Unit 2(2)	Unit 2 地球温暖化 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第5回	Unit 3(1)	Unit 3 飲料水の確保 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第6回	Unit 3(2)	Unit 3 飲料水の確保 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第7回	Unit 4(1)	Unit 4 貧困と飢餓 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第8回	到達確認テスト とフィードバック Unit 4(2)	到達確認テスト 実施と解説 Unit 4 貧困と飢餓
第9回	Unit 5(1)	Unit 5 病との闘い (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第10回	Unit 5(2)	Unit 5 病との闘い (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第11回	Unit 6(1)	Unit 6 テロリズム (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第12回	Unit 6(2)	Unit 6 テロリズム (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第13回	Unit 7(1)	Unit 7 日本人強制収容所 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第14回	Unit 7(2)	Unit 7 日本人強制収容所 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第15回	到達確認テスト とフィードバック	到達確認テスト 実施と解説 前期の総復習
担当者から一言		

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)						担当教員	関 初海	
講義コード	1110052	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける
- (2) リスニング能力の向上
- (3) リーディング能力の向上
- (4) ライティング能力の向上
- (5) スピーキング能力の向上
- (6) TOEICスコアをアップさせる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1), (3), (4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	40	到達目標(2), (6)について2回の到達確認テストで評価(30%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(10%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	吉田 亞矢	
講義コード	1110061	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業は、『シャレード』(1963年、アメリカ)の鑑賞を通じて、英語ならびに英語圏以外の言語や文化についての理解を深めると同時に、本映画を題材にしたTOEIC形式のテキストを用いて、TOEICの問題形式に慣れることを主眼とする。TOEICで高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。パリを舞台とする本編を通じて、英語母語話者以外の人々による英語にも慣れ親しむことは、2006年以降の新TOEICのリスニング対策にも大変効果的であろう。また、どの場面でも見られるユーモアと皮肉に満ちた台詞は、暗唱するに値する。LL教室の設備を活用し、登場人物たちの台詞を練習・録音し、英語の美しいリズムと機知に富む表現を体得する。

到達目標

- (1) 本編の前半部分の見所を字幕なしで鑑賞する
- (2) TOEICや本編に関する課題に、ペアまたはグループで協調して取り組み、解答を導く
- (3) 予習・復習の習慣を定着させ、語彙知識と本編の内容理解を深める

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)について、期末テストで評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標(2)について、到達度確認テストを2回行い、全体の30%として評価。 到達目標(3)について、毎回小テストを行い、全体の30%として評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。よって、出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	名作映画でTOEIC(2) めざせ! 500 シャレード	Kay Nakagoほか	英宝社	978-4-269-66029-8
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	シャレード(名作映画完全セルフ集スクリーンプレイ・シリーズ)	曽根田 憲三	フォーインスクリーンプレイ事業部	978-4894074309
2	名作映画で英会話 3 シャレード	藤田 英時	宝島社	978-4796658249
3				

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 A (活性化コース) (環境)						担当教員	吉田 亜矢	
講義コード	1110061	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	・授業概要や方針についての説明 ・受講者同士の自己紹介
第2回	Unit 1 Secrecy (1) - Listening	【前半】 ・小テスト
第3回	Unit 1 Secrecy (1) - Reading	【前半】 ・小テスト
第4回	Unit 2 Secrecy (2) - Listening	【前半】 ・小テスト
第5回	Unit 2 Secrecy (2) - Reading	【前半】 ・小テスト
第6回	Unit 3 Danger (1) - Listening	【前半】 ・小テスト
第7回	Unit 3 Danger (1) - Reading	【前半】 ・小テスト
第8回	到達度確認テスト (1)	・Unit 1 - 3 の範囲の会話をペアで発表 (予定)
第9回	Unit 4 Danger (2) - Listening	【前半】 ・小テスト
第10回	Unit 4 Danger (2) - Reading	【前半】 ・小テスト
第11回	Unit 5 Best Spy (1) - Listening	【前半】 ・小テスト
第12回	Unit 5 Best Spy (1) - Reading	【前半】 ・小テスト
第13回	Unit 6 Best Spy (2) - Listening	【前半】 ・小テスト
第14回	Unit 6 Best Spy (2) - Reading	【前半】 ・小テスト
第15回	到達度確認テスト (2)	・Unit 4 - 6 の範囲の会話をペアで発表 (予定)

担当者から一言

映画の前半部分は、少し退屈に感じるかもしれませんが、後半部分をより一層楽しむためには不可欠です。オードリー・ヘップバーンとパリの美しさに身を任せよう！

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)						担当教員	吉田 亞矢	
講義コード	1110062	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業は、『シャレード』(1963年、アメリカ)の鑑賞を通じて、英語ならびに英語圏以外の言語や文化についての理解を深めると同時に、本映画を題材にしたTOEIC形式のテキストを用いて、TOEICの問題形式に慣れることを主眼とする。TOEICで高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。パリを舞台とする本編を通じて、英語母語話者以外の人々による英語にも慣れ親しむことは、2006年以降の新TOEICのリスニング対策にも大変効果的であろう。また、どの場面でも見られるユーモアと皮肉に満ちた台詞は、暗唱するに値する。LL教室の設備を活用し、登場人物たちの台詞を練習・録音し、英語の美しいリズムと機知に富む表現を体得する。

到達目標

- (1) 本編の後半部分の見所を字幕なしで鑑賞する
- (2) TOEICや本編に関する課題に、ペアまたはグループで協調して取り組み、解答を導く
- (3) 予習・復習の習慣を定着させ、語彙知識と本編の内容理解を深める

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)について、期末テスト(40%)で評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標(2)について、到達度確認テストを2回行い、全体の30%として評価。 到達目標(3)について、毎回小テストを行い、全体の30%として評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。よって、出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	名作映画でTOEIC(2) めざせ! 500 シャレード	Kay Nakagoほか	英宝社	978-4-269-66029-8
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	シャレード(名作映画完全セルフ集スクリーンプレイ・シリーズ)	曽根田 憲三	フォーインスクリーンプレイ事業部	978-4894074309
2	名作映画で英会話 3 シャレード	藤田 英時	宝島社	978-4796658249
3				

・適宜、授業中にプリント配布する。

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 B (活性化コース) (環境)						担当教員	吉田 亜矢	
講義コード	1110062	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	・前期の振り返り ・後期の目標確認
第2回	Unit 7 Who's Lying? (1) - Listening	【前半】 ・小テスト
第3回	Unit 7 Who's Lying? (1) - Reading	【前半】 ・小テスト
第4回	Unit 8 Who's Lying? (2) - Listening	【前半】 ・小テスト
第5回	Unit 8 Who's Lying? (2) - Reading	【前半】 ・小テスト
第6回	Unit 9 Still Hungry (1) - Listening	【前半】 ・小テスト
第7回	Unit 9 Still Hungry (1) - Reading	【前半】 ・小テスト
第8回	到達度確認テスト (1)	・Unit 7 - 9 の範囲の会話をペアで発表
第9回	Unit 10 Still Hungry (2) - Listening	【前半】 ・小テスト
第10回	Unit 10 Still Hungry (2) - Reading	【前半】 ・小テスト
第11回	Unit 11 Charade (1) - Listening	【前半】 ・小テスト
第12回	Unit 11 Charade (1) - Reading	【前半】 ・小テスト
第13回	Unit 12 Charade (2) - Listening	【前半】 ・小テスト
第14回	Unit 12 Charade (2) - Reading	【前半】 ・小テスト
第15回	到達度確認テスト (2)	・グループで総まとめ課題に取り組む (具体的な内容に関しては第14回目で告知)

担当者から一言

映画の後半部分は、目まぐるしく展開していきます。前期で得た背景知識をフル活用して、楽しみながら英語力を鍛えてください！

講義名	英語 A (応用コース) (環境)						担当教員	Graham Jones	
講義コード	1110221	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities including real-life videos from around the world. Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery. Their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	25	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 3 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外	50	Picture Test (4 pictures, each 25%). Each Speaking Objective is worth 25%. Students meet with the teacher one-by-one and describe what is happening in four Action English pictures (from the textbook) that we studied in the class.

授業外学習

One hour a week. Write and read aloud your story/essay (4 hours). Practice saying the Action English Pictures from the textbook (4 hours). Review and practice class material (7 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (環境)							担当教員	Graham Jones
講義コード	1110221	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	About you	Introduction: About you. (Explanation of schedule, grading, rubric.) For homework: Students start to write a one-page self-introduction.
第2回	Daily life around the world 1	Unit 1: Daily life around the world / everyday activities. (Simple present / adverbs of frequency.)
第3回	Daily life around the world 2	Unit 1 (cont): Daily life around the world / everyday activities. (Simple present / adverbs of frequency.) Advice re self-introduction writing.
第4回	Free time 1	Unit 2: Free time / sports and leisure activities. (Simple present / present continuous.)
第5回	Free time 2	Unit 2 (cont): Free time / sports and leisure activities. (Simple present / present continuous.)
第6回	Asking and responding 1	Unit 3: Asking and responding. (Requests and permission, phrasal verbs.) Students read aloud their self-introduction writing.
第7回	Asking and responding 2	Unit 3 (cont): Asking and responding. (Requests and permission, phrasal verbs.)
第8回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第9回	Activities and hobbies 1	Unit 4: Activities, hobbies and interests. (Simple past / time expressions.) Teacher continues grading speaking and writing, if necessary.
第10回	Activities and hobbies 2	Unit 4 (cont): Activities, hobbies and interests. (Simple past / time expressions.)
第11回	Past events 1	Unit 5: Past events / emotion. (Simple past / past continuous.)
第12回	Past events 2	Unit 5 (cont): Past events / emotion. (Simple past / past continuous.)
第13回	Festivals and celebrations 1	Unit 6: Festivals, special events and celebrations. (going to / will.) (Picture Test for some students.)
第14回	Festivals and celebrations 2	Unit 6 (cont): Festivals, special events and celebrations. (going to / will.) (Picture Test for some students.)
第15回	Review	Review and feedback: Your thoughts and ideas. (Picture Test for some students.)
担当者から一言		

講義名	英語 B (応用コース) (環境)							担当教員	Graham Jones
講義コード	1110222	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities including real-life videos from around the world. Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery. Their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	25	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 3 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外	50	Conversation Performance. Read aloud one of the Conversations we studied in class (from the textbook). Each Speaking Objective is worth 25%.

授業外学習

One hour a week. Write and read aloud your story/essay (4 hours). Practice saying a Conversation from the textbook (4 hours). Review and practice class material (7 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (環境)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110231	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final conversation test and a final writing test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Teacher supplied material.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (環境)							担当教員	Ashley Mark Stevens
講義コード	1110231	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction and Useful English	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page self-introduction.
第2回	Pronunciation: learning to speak English	Looking at key pronunciation areas. Teacher checks that students have begun to write their self-introductions.
第3回	Pronunciation: learning to speak English	Teacher looks at Students' self-introduction writing, gives advice on how to write better and more complex sentences.
第4回	Food and tastes	Learning key vocabulary and how to talk about food and drinks. Teacher continues advising and correcting Students' self-introduction writing.
第5回	At the restaurant	Role play on visiting a restaurant. Teacher continues advising and correcting Students' self-introduction writing.
第6回	Shopping: prices	Learning key vocabulary about prices and products. Students read aloud their self-introduction writing to Teacher.
第7回	Shopping: comparing and buying	Role play on visiting shops and comparing products. Teacher continues to correct pronunciation.
第8回	Directions	Focusing on giving and receiving directions. Teacher continues to correct pronunciation.
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第10回	At the movies	Focus on how to talk about movies, genres and key vocabulary.
第11回	At the movies	Role play discussing different types of movies and arranging a trip to the cinema.
第12回	A great conversation	Focus on how to make good conversations in English and the differences between language culture.
第13回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final conversation test and written exam.
第14回	Interview Tests	Students demonstrate conversations.
第15回	Interview Test	Students demonstrate conversations.

担当者から一言

講義名	英語 B (応用コース) (環境)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110232	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final presentation. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours). Topic-related writing (6 hours). Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Teacher supplied material.

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (環境)						担当教員	Ashley Mark Stevens	
講義コード	1110232	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay.
第2回	Looking at Pronunciation	Focusing on challenging areas of English pronunciation. Teacher checks that students have begun to write their stories/essays.
第3回	Family and friends	Focusing on key vocabulary for describing people. Teacher checks that students have begun to write their stories/essays.
第4回	Visiting a hotel	Role play on visiting hotels. Teacher continues advising and correcting Students' stories/essays.
第5回	At the doctors	Communicative activities learning key vocabulary about health. Teacher continues advising and correcting Students' stories/essays.
第6回	At the doctor	Role play about visiting a doctor. Students read aloud their stories/essays to Teacher and Teacher corrects pronunciation.
第7回	Jobs and the workplace	Focus on key vocabulary related to jobs. Teacher continues to correct pronunciation.
第8回	Jobs and the workplace	Role play about job interviews. Teacher continues to correct pronunciation.
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第10回	Sports and activities	Learning key sports vocabulary through communicative activities with a focus on verbs.
第11回	Sports and activities	Learning key sports vocabulary through communicative activities with a focus on verbs.
第12回	Pros and cons	Looking at current social issues and discussing the positive and negative aspects of them.
第13回	Making a good presentation	Looking at how to make good presentations in English.
第14回	Presentation Practice	Practicing final presentations. Teacher will correct grammar and check pronunciation.
第15回	Final Presentation	Students will give their final presentations.
担当者から一言		

講義名	英語 A (応用コース) (環境)							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110241	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Portfolio: Students write 8 textbook writing assignment essays.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	30	In-class final: Choose one of your 8 writings and orally present it to the class. You will be assessed according to the speaking and writing rubrics.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	20	Writing portfolio - Homework assignments from weeks 2-7 and 9-13. Total 8 essays. Show your essays to the teacher for corrections as you finish each essay. Show your collection of corrected essays to the teacher in weeks 14-15.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを3回以上欠席すると毎回欠席は採点から3点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (環境)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110241	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Explanation of schedule, grading, rubric	Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students. Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	Working and jobs What is a sentence, paragraph	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Giving and receiving gifts Topic sentences	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Giving and receiving gifts Using conjunctions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Travel and places Descriptive vocabulary	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Familiar places Conjunctions and adjectives	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Inspiring people Using adjectives, conclusions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Mid-term	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Inspiring people Punctuation	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Trends Freewriting	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	City or country life Peer reviewing	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Lying Facts and opinions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Lying Using opinions and examples	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	In-class final	Students will orally present their best writing to the class.
第15回	In-class final	Students will orally present their best writing to the class.

担当者から一言

It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語 B (応用コース) (環境)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110242	単位数	1	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class is an introduction to academic skills. You will develop all four of your English skills (listening, speaking, reading, and writing). You will read articles, listen to stories, watch videos, and talk about each topic. At the same time that you use English to learn about real-world content, you will apply it to your life and compare and contrast it with Japan.

In this class, we will start to develop skills that you need not only in English but also in Japanese. These include (1) Give, agree with, and politely disagree with opinions. (2) Analyze new facts and apply them to your life. (3) Decide when information is reliable and important. (4) Understand the basic structure of conversations, things you hear, and articles you read. (5) Provide support for your ideas. (6) Participate in pair and small group discussions.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary). Their English will also be (4) grammatically correct.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	Interview exam 20% Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade. Story Presentation 15%, Writing and Speaking Objectives 1,2, and 3 are worth 50% each of the total grade.
レポート課題	15	Research Paper 15% Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 2 is worth 50% of the total grade.
上記以外	25	Home work 15% and In Class participation 10%

Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading Adventures 2		Cengage National Geographic Learning	978-0-8400-3036-8
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (環境)							担当教員	Graham Jones
講義コード	1110251	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities including real-life videos from around the world. Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery. Their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	25	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 3 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外	50	Picture Test (4 pictures, each 25%). Each Speaking Objective is worth 25%. Students meet with the teacher one-by-one and describe what is happening in four Action English pictures (from the textbook) that we studied in the class.

授業外学習

One hour a week. Write and read aloud your story/essay (4 hours). Practice saying the Action English Pictures from the textbook (4 hours). Review and practice class material (7 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (環境)							担当教員	Graham Jones
講義コード	1110252	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities including real-life videos from around the world. Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives grades for writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery. Their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	25	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 3 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外	50	Conversation Performance. Read aloud one of the Conversations we studied in class (from the textbook). Each Speaking Objective is worth 25%.

授業外学習

One hour a week. Write and read aloud your story/essay (4 hours). Practice saying a Conversation from the textbook (4 hours). Review and practice class material (7 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (環境)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110261	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (環境)						担当教員	Karl Hedberg	
講義コード	1110262	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Living English II	Hedberg & Mauser	Keystone English Press	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (応用コース) (環境)							担当教員	Gordon MacLaren
講義コード	1110271	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3rd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times. In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the instructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total) Pairs rewrite 75-90% of a 'new' scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars[New Version]		Drama Works, 2009	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	英語 A (応用コース) (環境)						担当教員	Gordon Maclaren	
講義コード	1110271	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	INTRODUCTION	Class & Pair reading of Luggage Mix-Up; Accusation and Apology
第2回	Patching Things Up	Offering Help and Getting to Know a Stranger [II] 第2回-13回 PAIR-ACT DRAMA SCENE
第3回	Realization Of & Panic Over a Mistake	Calming Someone Down [III]
第4回	Calling For Assistance	Giving Information over the Phone [IV]
第5回	Upholding Household Rules	Receiving and Confirming Good News [V]
第6回	Getting Over Jet Lag	Talking About Sleepiness and One 's Job [VI]
第7回	A ' Thank You ' Coffee	Expressing Gratitude and Setting Up a Date [VII+VIII]
第8回	Sharing and Eliciting Wonderful News	Warning Over High Expectations [IX]
第9回	Relating a Tough Situation	Asking About Job Qualifications [X]
第10回	Returning to the Beginning	The Luggage Mix-Up Conflict [I]
第11回	First Date	Banter, Sharing Likes, Dislikes and Goals in Common [XI]
第12回	Under the Table	Sharing Suspicions and Teasing About Anxieties [XII]
第13回	Stand-In	Subbing For Someone ill at Work [XIII] ; NEW SCENE BRAINSTORMING
第14回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.
第15回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.

担当者から一言

講義名	英語 B (応用コース) (環境)							担当教員	Gordon Maclaren
講義コード	1110272	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

到達目標

- (1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
- (2) Students will be able to speak English with fluency.
- (3) Students will be able to speak English with good delivery.
- (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 2 scenes for pair performance (5 hours total) Study two or three Screen Plays for movie quiz (3 hours total) Write an extensive 350-550 word report on your life, an autobiography, in English (7 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars [New Version]		(Drama Works, 2009)	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (応用コース) (環境)						担当教員	Gordon Maclaren	
講義コード	1110272	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	INTRODUCTION	Review Scenes I-XIII; Class>> Pair reading of Doing Someone's Hair
第2回	Keeping Up With Friends' Lives	Shocking News Over the Phone [XV] 第2-8回PAIR-ACT DRAMA SCENE
第3回	Sharing Mixed Results	Celebrating, Evading and Consoling [XVI]
第4回	Adjusting to a Changed Situation	A Dream Future [XVII]
第5回	Breaking Some Bad News...But with a Silver Lining	Signing On [XVIII]
第6回	Working Out	Sharing Success; Asking a Big Favour [XIX]
第7回	The End'	The Drama's Resolution [XX]
第8回	Review Entire Story	Scene XIV Performance for any Excused Absence students
第9回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第10回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第11回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第12回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第13回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第14回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第15回	OFFICIAL EXAM DATE	Interviews for yet-to-be interviewed / late students & reports

担当者から一言

--

講義名	英語 A (充実コース) (環境)						担当教員	市場 史哉	
講義コード	1110421	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

アメリカのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。

到達目標

- (1) ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける
- (2) アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける
- (3) ニュースの内容を理解できる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	35	Unit 7 - 13までの範囲から語彙、リスニングに関する問題を出題する。
レポート課題		
上記以外	65	授業中に行う小テスト 35% 毎回各Unitのリスニング問題を行う。 中間テスト 30%

3分の1以上欠席した場合は評価対象としない。

授業外学習

学生にあてながら授業を行うので、単語を調べてくる必要がある。
中間テスト、期末テストまでにオンライン動画配信サービスを使って復習をする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane	金星堂	978-4-7647-4031-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (環境)						担当教員	市場 史哉	
講義コード	1110422	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

イギリスのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。

到達目標

- (1) ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける
- (2) アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける
- (3) ニュースの内容を理解できる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	35	Unit 7 - 13までの範囲から語彙、リスニングに関する問題を出題する。
レポート課題		
上記以外	65	授業中に行う小テスト 35% 毎回各ユニットのリスニング問題を行う。 中間テスト 30%

3分の1以上欠席した場合は評価対象としない。

授業外学習

学生にあてながら授業を行うので、単語を調べてくる必要がある。
中間テスト、期末テストまでに動画配信サービスを使って復習をする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Seeing the World through the News 4	Timothy Knowles	金星堂	978-4-7647-4032-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (環境)							担当教員	市場 史哉
講義コード	1110422	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	授業内容の説明
第2回	Unit 1	Wonky Vegetables
第3回	Unit 2	Money for Children's Sports
第4回	Unit 3	Living on a Houseboat in London
第5回	Unit 4	Tracking Down Dog Owners with DNA
第6回	Unit 5	A Hybrid Solar Balloon
第7回	Unit 6	The Freedom Tower in New York
第8回	中間テスト	Unit 1からUnit 6まで
第9回	Unit 7	Home-Schooling
第10回	Unit 8	Using SNS to Relieve Eating Disorders
第11回	Unit 9	Measuring Air Pollution
第12回	Unit 10	The UK's Rising Population
第13回	Unit 11	Gay Marriage in Ireland
第14回	Unit 12	New Guidelines for Alcohol
第15回	Unit 13	The Threat to Antarctic Penguins
担当者から一言		

講義名	英語 A (充実コース) (環境)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110431	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。 また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含まれます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	978010941751
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (環境)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110431	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力をつけて

講義名	英語 B (充実コース) (環境)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110432	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes, すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含まれます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	978010941751
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (環境)						担当教員	西澤 裕一	
講義コード	1110432	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力をつけて

講義名	英語 A (充実コース) (環境)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110441	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

文化、社会問題、科学など様々な分野のエッセイを読み、英語の理解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、リスニング教材を聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べるができる。
 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Connection 2	Milada Broukal	松柏社	978-4-88198-697-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (環境)						担当教員	真田 満	
講義コード	1110442	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

文化、社会問題、科学など様々な分野のエッセイを読み、英語の理解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、リスニング教材を聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。
 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べるができる。
 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。
 正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
 30分以上の遅刻は認めない。
 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかりと行うこと。
 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答していただくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Connection 2	Milada Broukal	松柏社	978-4-88198-697-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (環境)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110451	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Final Speaking Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (環境)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110451	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction and Useful English	Explanation of schedule and assignments. Useful English - question patterns for understanding. 1 page essay structure.
第2回	People Talk	Present simple tense and 'Wh' questions for introductions and small talk.
第3回	Describing Places and Objects/Expressive Speech.	There is/There are/Prepositions of place. Encoding and reproducing expressive speech qualities (Rhythm, Intonation, Stress, Gesture).
第4回	Habits and Routines	Adverbs of frequency, talking about time. Describing a typical day.
第5回	Actions I	Using the present progressive tense to describe current/ongoing actions and future plans.
第6回	Actions II	Mixing the past simple and past progressive forms. What is Mr. Bean doing? exercise.
第7回	Acting Expressively: Radio Play	Students will read, practice and perform a short detective mystery script focusing on expression and good pronunciation.
第8回	Buying and Selling	Shopping role-plays and common phrases. Review the usage of 'much/many, some/any'. Asking questions about products and services.
第9回	Mid Term Test	Students read aloud their essay project to the teacher.
第10回	Where am I?	Giving and asking for directions. Place and business vocabulary.
第11回	Travel and Vacations	Making comparisons between places, people and objects. Talking about travel and ideal destinations.
第12回	Picture Stories	Using past forms and time-order signals to make a narrative about the past. Talking about childhood and school days.
第13回	Modal Mastery	Using modal verbs in different contexts to express permission, obligation, advice and possibilities.
第14回	Food Culture/Speaking Tests	Restaurant English role-plays. Describing food and expressing preferences. Some students will have a short Q&A speaking test with the teacher.
第15回	Leisure and Entertainment/Speaking Tests	Expressing likes/dislikes with reasons. Some students will have a short Q&A speaking test with the teacher.

担当者から一言

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 B (充実コース) (環境)						担当教員	Carl John Boland	
講義コード	1110452	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Comedy Sketch Performance Test (50%).

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (環境)							担当教員	Carl John Boland
講義コード	1110452	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/Future Forms	Explanation of schedule and assignments. Using the 'will' future form. 10 years from now exercise.
第2回	How do I?	Use of verb-ing after prepositions to describe how something happens. Giving instructions, advice, making suggestions.
第3回	Interested or Interesting?	Using adjective forms to express feeling or describe object qualities. Talking about University studies. Adverbs of manner.
第4回	Simple Conditionals	Using the first conditional to ask and answer questions about realistic or probable outcomes.
第5回	Comedy Sketch I	Students will read, rehearse and perform a TV comedy sketch.
第6回	Facts, Figures and Money	Describing trends and patterns in data. How to say long numbers. Talking about prices and personal budgets.
第7回	Comedy Sketch II	Students will read, rehearse and perform a TV comedy sketch.
第8回	To-infinitive and beyond!	Review of the flexible to-infinitive form to express purpose, feelings, wishes and opinions. Combinations with relative clauses.
第9回	Mid Term Test	Students read aloud their essay project to the teacher.
第10回	Expressing Opinions	Review and practice of common phrases used to express nuanced opinions (strong, neutral, tentative). Discussions of Japanese advertising.
第11回	Careers and Personal Development	Usage of will and 'be going' forms to express plans and predictions about the future. Discussion of career plans.
第12回	If I were you...	Use of second conditionals to talk about unrealistic or unlikely future situations. The 'If you' game.
第13回	Tourist Troubles	Role playing tourist complaints in different service situations (Hotel, restaurants, repair shop). Review and practice key phrases.
第14回	Socialising/Comedy Sketch Test	Informal vs. formal introductions. Making extended small talk. Useful phrases for socialising. Some students perform comedy sketch test.
第15回	The English Games	Students compete in a round of different language games that test grammar/vocabulary skills. Some students perform comedy sketch test.

担当者から一言

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 A (充実コース) (環境)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110461	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

日本語字幕に頼らずに、アメリカで制作されたテレビドラマ"FULL HOUSE"を楽しみます。言語は他の人と情報を伝達しあうためのものですから、他の人と関わりあわないと英語運用能力は向上しません。ですから、ほかの学生とペアになつての演習や音読練習など、授業への積極的な参加が出席の必要条件となります。内容を確実に身につけているか確認するため小テストと台詞和訳の提出課題が毎回あります。必要であれば辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。

到達目標

(1) 語彙力の向上、(2) リスニング力の向上、(3) 読解力の向上、(4) 英語での思考力の向上、(5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%
レポート課題		
上記以外	50	小テスト等(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

セリフをすらすらと言いながら書けるまで復習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布。プリントおよび音声データ等はアスポにてダウンロード可能。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でもよいので辞書を持参のこと。

前提学力等

3 回生以上の特例処置で再履修を希望する学生は、本シラバスの内容に同意し、初回に出席しなければ受講を認めません。

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (環境)						担当教員	佐久間 思帆	
講義コード	1110461	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	第1話Our Very First Show その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第2回	第1話Our Very First Show その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第3回	第1話Our Very First Show その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第4回	第2話Our Very First Night その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第5回	第2話Our Very First Night その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第6回	第2話Our Very First Night その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第7回	第3話The First Day of School その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第8回	第3話The First Day of School その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第9回	第3話The First Day of School その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第10回	第4話The Return of Grandma その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第11回	第4話The Return of Grandma その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第12回	第4話The Return of Grandma その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第13回	第7話Knock Yourself Out その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第14回	第7話Knock Yourself Out その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第15回	第7話Knock Yourself Out その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
担当者から一言		
授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。		

講義名	英語 B (充実コース) (環境)							担当教員	佐久間 思帆
講義コード	1110462	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

日本語字幕に頼らずに、アメリカで制作されたテレビドラマ"FULL HOUSE"を楽しみます。言語は他の人と情報を伝達しあうためのものですから、他の人と関わりあわないと英語運用能力は向上しません。ですから、ほかの学生とペアになつての演習や音読練習など、授業への積極的な参加が出席の必要条件となります。内容を確実に身につけているか確認するため小テストと台詞和訳の提出課題が毎回あります。必要であれば辞書を持参し、不明な点は各自で調べる癖をつけてください。

到達目標

(1) 語彙力の向上、(2) リスニング力の向上、(3) 読解力の向上、(4) 英語での思考力の向上、(5) 英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%
レポート課題		
上記以外	50	小テスト等(1) 語彙力10%、(2) リスニング力10%、(3) 読解力10%、(4) 英語での思考力10%、(5) 英語での発信力10%

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

セリフをすらすらと言いながら書けるまで復習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布。プリントおよび音声データ等はアスポにてダウンロード可能。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でもよいので辞書を持参のこと。

前提学力等

3 回生以上の特例処置で再履修を希望する学生は、本シラバスの内容に同意し、初回に出席しなければ受講を認めません。

履修資格

講義名	英語 A (充実コース) (環境)							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110471	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Portfolio: Students write 8 textbook writing assignment essays.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	30	In-class final: Choose one of your 8 writings and orally present it to the class. You will be assessed according to the speaking and writing rubrics.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	20	Writing portfolio - Homework assignments from weeks 2-7 and 9-13. Total 8 essays. Show your essays to the teacher for corrections as you finish each essay. Show your collection of corrected essays to the teacher in weeks 14-15.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを3回以上欠席すると毎回欠席は採点から3点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (環境)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110472	単位数	1	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

In this communication skills course, you will develop all four of your English skills (listening, speaking, reading, and writing). You will also improve your ability to connect different ideas to one another when speaking and listening. Finally, you will gain an understanding of different countries and develop your ability to communicate with people from different cultures and languages.

Each week, you will study a different country or culture. You will then be asked to write and talk about that place in class. There will be weekly writing homework assignments. Although I don't expect perfect grammar or conversation skills, I do expect you to try your best.

到達目標

Students will be able to speak English with (1) good pronunciation), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary). Their English will also be (4) grammatically correct.

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	Interview exam 15% Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade.
レポート課題	25	Weekly Culture report 25% Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 2 is worth 50% of the total grade.
上記以外	25	Homework 10% and In Class participation 15%

Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Globe Trotters	Carmella Lieske	Cengage Learning	978-1-285-19750-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (充実コース) (環境)						担当教員	Armando Duarte	
講義コード	1110472	単位数	1	開講期	後期	授業種別			
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Class orientation	Introduce the course, self introductions, ice breaking activities
第2回	Spain	Talk about Spanish culture. Talk about customs and immigration.
第3回	China	Talk about Chinese culture. Talk about asking questions at a hotel reception desk.
第4回	Peru	Talk about Peruvian culture. Talk about checking-in at a hotel.
第5回	Pair interview test	In pairs, students will recite one of the units we have covered in class. Unit to be determined at random.
第6回	Japan	Talk about Japanese culture. Students will describe their home culture.
第7回	U.S.A, New York	Talk about American culture. Students will practice giving and receiving directions.
第8回	Antartica	Talk about Frozen, Karaoke, and the effects of understanding multiple languages.
第9回	India	Talk about Indian culture. Students will practice how to bargain and negotiate
第10回	New Zealand	Talk about New Zealand culture and extreme sports.
第11回	Africa	Talk about African culture. Students will practice describing items.
第12回	Culture research paper	Culture research paper is due. Students will talk about their paper in pairs and small groups in English. If time, talk about Cambodian culture.
第13回	Egypt	Talk about Egyptian and Italian culture. Talk about ordering at a restaurant. Explain Final presentation.
第14回	Review for Final	Give students time to prepare and practice for Final group presentation.
第15回	Final presentation	Students give final presentation in groups.

担当者から一言

You must do your homework before class each week so that you can fully participate in the classroom activities. Please bring a dictionary to class.

講義名	英語 A (展開コース) (環境)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110631	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、旅行に関する英語表現を学びながら総合的な英語力をつけ、世界の人とコミュニケーションができるような力をつけることを目指します。テキストは出入国や機内での会話、現地で道を聞く、掲示を読む、書類に記入する、ホテルにチェック・インする、レストランで食事をする・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することにより基本的な表現を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、授業で行うTOEIC模擬試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (環境)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110632	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に学習した旅行に関する英語表現をさらに発展させて学び、総合的な英語力をつけ、世界の人とよりスムーズにコミュニケーションできる力をつけることを目指します。テキストは現地で電話をかける、買い物をする、ホテルのチェック・アウトをする、問題を解決する・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することによりよりスムーズに表現できる力を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、よりスムーズに使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、12月に実施されるTOEIC試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (環境)							担当教員	坂本 輝世
講義コード	1110641	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、さまざまなアクティビティーによって、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、英語力を伸ばしていただきたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (環境)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110642	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に引き続き、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていただいたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (環境)						担当教員	吉田 亞矢	
講義コード	1110651	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

文理の如何に関わらず、TOEICに慣れ親しみ、高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。本授業では、TOEICのテスト形式を十全に理解するとともに、オーバーラッピングやシャドーイングなどの音読訓練法を積極的に導入し、発音の強化を目指す。前期は特にオーバーラッピングの練習を習慣づける。毎回授業冒頭で、予復習状況を確認するための小テストが実施される。ペアでの音読練習、TOEIC問題の解答作業や、各ユニットのテーマに関連した映画のワンシーンを参考に会話練習を行ったりするため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。また語彙力増強のため、隔週で単語帳作成の課題が出され、前期中2回提出する。

到達目標

- (1) オーバーラッピングの練習を行う習慣を身につけ、英語らしいリズム・発音に慣れる
- (2) 予習・復習の習慣を定着させ、専門分野やビジネス関連の語彙・表現力を習得
- (3) TOEICの性質を十分に理解し、制限時間内に正答率の高い解答を導く

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 (3) について、期末テスト(40%)で評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 (1) について、到達度確認テストを2回行い、全体の30%として評価。 到達目標 (2) について、各回の小テスト(20%)および単語帳作成課題提出(10%)にて全体の30%として評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。よって、出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

授業の入念な復習・予習が毎回宿題として課される。その際、オーバーラッピングやシャドーイングの技法を用いること。授業冒頭に実施する小テストは、通常前回授業の内容と単語帳から出題される語彙・表現理解テストである。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TOEIC Test: On Target Book 2	大賀 リエ	南雲堂	4-523-17672-5
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (環境)						担当教員	吉田 亜矢	
講義コード	1110651	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	・授業概要や方針について説明 ・音読法紹介&練習
第2回	Unit 1 Airport Security - Listening	【前半】 ・単語帳から小テスト
第3回	Unit 1 Airport Security - Reading	【前半】 ・オーバーラッピング練習
第4回	Unit 2 Weekend Activities - Listening	【前半】 ・単語帳から小テスト
第5回	Unit 2 Weekend Activities - Reading	前半] ・オーバーラッピング練習
第6回	Unit 3 Ecology - Listening	【前半】 ・単語帳から小テスト
第7回	Unit 3 Ecology - Reading	前半] ・オーバーラッピング練習
第8回	到達度確認テスト(1)	・オーバーラッピングの成果発表 (Unit 2・3のダイアログのどちらかをペアで発表)
第9回	Unit 4 Housing and Property	【前半】 ・単語帳から小テスト
第10回	Unit 4 Housing and Property	前半] ・オーバーラッピング練習
第11回	Unit 5 Health and Welfare - Listening	【前半】 ・単語帳から小テスト
第12回	Unit 5 Health and Welfare - Reading	前半] ・オーバーラッピング練習
第13回	Unit 6 Communications - Listening	【前半】 ・単語帳から小テスト
第14回	Unit 6 Communications - Reading	前半] ・オーバーラッピング練習
第15回	到達度確認テスト(2)	・オーバーラッピングの成果発表 (Unit 4・5のダイアログのうちのどちらかをペアで発表)

担当者から一言

前期はオーバーラッピングを通して、英語のリズムをどんどん吸収していきましょう！

講義名	英語 B (展開コース) (環境)							担当教員	吉田 亞矢
講義コード	1110652	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

文理の如何に関わらず、TOEICに慣れ親しみ、高スコアを取得しておくことは、将来の就職活動において有利となるばかりではなく、自身の英語学習の上達度を知るうえで参考かつ励みとなる。本授業では、TOEICのテスト形式を十全に理解するとともに、オーバーラッピングやシャドーイングなどの音読訓練法を積極的に導入し、発音の強化を目指す。後期は特にシャドーイングの練習を習慣づける。毎回授業冒頭で、予復習状況を確認するための小テストが実施される。ペアでの音読練習、TOEIC問題の解答作業や、各ユニットのテーマに関連した映画のワンシーンを参考に会話練習を行ったため、受講者の積極的な授業参加が必要不可欠となる。また語彙力増強のため、隔週で単語帳作成の課題が出され、後期中2回提出する。

到達目標

- (1) シャドーイングの練習を行う習慣を身につけ、英語らしいリズム・発音に慣れる
- (2) 予習・復習の習慣を定着させ、専門分野やビジネス関連の語彙・表現力を習得
- (3) TOEICの性質を十分に理解し、制限時間内に正答率の高い解答を導く

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 (3) について、期末テスト(30%)および12月に学内で実施されるTOEIC IP試験結果(10%)で評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 (1) について、到達度確認テストを2回行い、全体の30%として評価。 到達目標 (2) について、各回の小テスト(20%)および単語帳作成課題提出(10%)にて全体の30%として評価。

<出席について>

授業への積極的な参加は前提である。よって、出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

授業外学習

授業の入念な復習・予習が毎回宿題として課される。その際、オーバーラッピングやシャドーイングの技法を用いること。授業冒頭に実施する小テストは、通常前回授業の内容と単語帳から出題される語彙・表現理解テストである。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TOEIC Test: On Target Book 2	大賀 リエ	南雲堂	4-523-17672-5
2				
3				

前期と同様の教科書を用いる。後期の初回授業でテキストを使うため、忘れずに持参すること。なお、後期から受講する場合も、必ず新しいものを

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (環境)						担当教員	吉田 亞矢	
講義コード	1110652	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	・授業概要や方針について説明 ・音読法紹介&練習
第2回	Unit 7 Careers and Employment	【前半】 ・単語帳から小テスト
第3回	Unit 7 Careers and Employment	【前半】 ・シャドーイング練習
第4回	Unit 8 Office Procedures	【前半】 ・単語帳から小テスト
第5回	Unit 8 Office Procedures and Protocol	【前半】 ・シャドーイング練習
第6回	Unit 9 Current Event & Public Affair	【前半】 ・単語帳から小テスト
第7回	Unit 9 Current Event & Public Affair	【前半】 ・シャドーイング練習
第8回	到達度確認テスト(1)	・シャドーイングの成果発表 (Unit 8・9 のダイアログのどちらかをペアで発表)
第9回	Unit 10 Marketing & Sales Campaigns	【前半】 ・単語帳から小テスト
第10回	Unit 10 Marketing & Sales Campaigns	【前半】 ・シャドーイング練習
第11回	Unit 11 Complaints	【前半】 ・単語帳から小テスト
第12回	Unit 11 Complaints & Troubleshootings	【前半】 ・シャドーイング練習
第13回	Unit 12 Innovations & Technology	【前半】 ・単語帳から小テスト
第14回	Unit 12 Innovations & Technology	【前半】 ・シャドーイング練習
第15回	到達度確認テスト(2)	・シャドーイングの成果発表 (Unit 10・11 のダイアログのどちらかをペアで発表)
担当者から一言		
後期はシャドーイング練習に徹して、前期でインプットした英語の自然なリズムをアウトプットしていきましょう!		

講義名	英語 A (展開コース) (環境)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110661	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、旅行に関する英語表現を学びながら総合的な英語力をつけ、世界の人とコミュニケーションができるような力をつけることを目指します。テキストは出入国や機内での会話、現地で道を聞く、掲示を読む、書類に記入する、ホテルにチェック・インする、レストランで食事をする・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することにより基本的な表現を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、授業で行うTOEIC模擬試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (環境)							担当教員	坂元 敦子
講義コード	1110662	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に学習した旅行に関する英語表現をさらに発展させて学び、総合的な英語力をつけ、世界の人とよりスムーズにコミュニケーションできる力をつけることを目指します。テキストは現地で電話をかける、買い物をする、ホテルのチェック・アウトをする、問題を解決する・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することによりよりスムーズに表現できる力を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取り組み、高得点取得を目指します。

到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、よりスムーズに使えるようになる。
- (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。
- (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。
- (4) TOEICのスコアをのばす。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、12月に実施されるTOEIC試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それをを用いて学習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641
2				
3				

辞書を毎回持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (環境)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110671	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、さまざまなアクティビティーによって、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、英語力を伸ばしていただきたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (環境)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110672	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、前期に引き続き、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていただいたい。

到達目標

- (1) スピーキング力を向上させる
- (2) リスニング力を向上させる
- (3) 積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む
- (4) 時事問題への理解を深める

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	25%	到達目標 (1) について、期末英語スピーチによって評価
レポート課題		
上記以外	75%	到達目標 (1) について、単語クイズによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、リスニング・ジャーナルによって評価 (15%) 到達目標 (2) について、聞き取りクイズによって評価 (15%)

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (環境)						担当教員	坂本 輝世	
講義コード	1110672	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	Unit 8 Yelp! Reviewer Beware	テキスト内容の確認と発展、English activities
第2回	Unit 8 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 9 Bridge Dangers	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 9 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 10 Sky High Bills	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 10 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 11 Big Change	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 11 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 13 Major Abortion Case	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 13 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 14 On Alert: Faith and Fear	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 14 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 15 Breaking Point	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第14回	Unit 15 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第15回	English speech preparation	クイズ、期末スピーチ準備、English activities

担当者から一言

実際に放映されたTVニュースを視聴し、その後の経過について調べることで、日本語だけでは入手できない情報やものの見方を手に入れることができます。リスニング力とスピーキング力を向上させながら、刻一刻と変化する世界の情勢についても学んでいきましょう。

講義名	英語 A (展開コース) (環境)							担当教員	渡 寛法
講義コード	1110681	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC頻出のテーマごとに、語彙や文法を学びながら、問題演習を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

(1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。(2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。(3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『LIGHTING UP THE TOEIC TEST』	植木美千子ほか	金星堂	978-4-7647-4025-9
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ (スマートフォンでも計測機能があればOK) を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「意味順」で学ぶ英会話	田地野彰 (監修)	日本能率協会マネジメントセンター	978-4820749592
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 A (展開コース) (環境)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110681	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。
第2回	Unit 1 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 1 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 2 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 2 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 3 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 3 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 4 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 4 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 5 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 5 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 6 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 6 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。

担当者から一言

「飛行機はいつも遅れ、頼んだ荷物は届かず、職場のコピー機はしょっちゅうインク切れ...」、そんなハードなTOEICワールドを楽しみつつ、英語力を磨いていきましょう！

講義名	英語 B (展開コース) (環境)							担当教員	渡 寛法
講義コード	1110682	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC頻出のテーマごとに、語彙や文法を学びながら、問題演習を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

- (1) TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
- (2) TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
- (3) TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標 (1) に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します (40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標 (2) に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し (30%)、到達目標 (3) に関しては、各回の小テストで評価します (30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『LIGHTING UP THE TOEIC TEST』	植木美千子ほか	金星堂	978-4-7647-4025-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「意味順」で学ぶ英会話	田地野彰 (監修)	日本能率協会マネジメントセンター	978-4820749592
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語 B (展開コース) (環境)						担当教員	渡 寛法	
講義コード	1110682	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	前期の振り返り、および後期の目標設定。
第2回	Unit 7 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 7 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 8 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 8 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 9 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 9 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 10 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 10 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 11 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 12 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。

担当者から一言

音読活動には慣れてきたでしょうか。「英文は舌で味わうもの!」と私の師匠はよく言っていました。今学期もさらに音読に磨きをかけていきましょう!

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境a）							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130010	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境b）							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130020	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要な情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学术论文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学术论文発表の手法を習得する。

到達目標

(1) 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。
(2) 学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても取得すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）（環境c）							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130030	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。

到達目標

- (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。
- (2) 情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。
- (3) 情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。
- (4) ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。
- (5) 表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席および演習課題の提出(80%)と最終課題の達成度(20%)。

授業外学習

各回の演習課題が授業時間内に提出できなかった場合は、必ず、次回までに提出すること。また、進度に応じて宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初回講義時に指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境d)							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130040	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF102								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学术论文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学术论文発表の手法を習得する。

到達目標

(1) 情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても取得すること。
(2) 学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学术论文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学术论文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることとともに、情報倫理についても取得すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境d)						担当教員	亀田 彰喜	
講義コード	1130040	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	101NF102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	基本構成と操作	コンピュータの基本構成と操作
第2回	アカウントの設定	情報ネットワークの理論とアカウントの設定
第3回	システムの操作	情報システムとOSおよびファイル操作
第4回	情報検索	Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ
第5回	情報収集	インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウェア
第6回	文献情報検索	図書情報検索と論文および著作等の情報検索
第7回	情報倫理	電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー
第8回	文書作成	文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得
第9回	レポートの基本	レポートと学术论文の概念と論文作成の基本
第10回	情報収集と加工	レポートと学术论文の書式と情報収集と加工の基本
第11回	画像等の処理	レポートと学术论文の書式と画像等の処理の基本
第12回	統計データ処理	レポートと学术论文の書式と統計データ処理の基本
第13回	論文の作成のまとめ	レポートと学术论文の作成のまとめ
第14回	課題の作成	レポート課題の作成
第15回	課題のまとめ	レポート課題と学术论文発表のまとめ
担当者から一言		

講義名	情報科学概論（環境a）							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130140	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出（80%）と最終課題の達成度（20%）

授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

履修資格

講義名	情報科学概論（環境a）							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130140	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計
第4回	データの抽出・集計2	自動集計 クロス表
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ2乗値 統計検定
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習
担当者から一言		

講義名	情報科学概論（環境b）							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論（環境c）							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130160	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

コンピュータによる文章作成やインターネット操作などの基礎的な情報技術の習得の下に、さらに高年次での演習及び学術論文作成で必要となるデータ処理の基本的手法について学ぶ。特に、インターネットなどから得られる各種統計データを表計算ソフトを利用して加工し、関数による計算処理や基礎的な統計手法などを用いて解析する技法について学ぶ。さらに、これらデータを活用した学術論文作成のための基本的な手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) 表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各回の出席及び演習課題の提出（80%）と最終課題の達成度（20%）

授業外学習

毎回行う演習課題が授業時間内に終了しない場合、必ず、次回までに提出すること。また、適宜、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Excelで学ぶ統計・データ解析入門	中村永友・山田智哉・金明哲	丸善出版	978-4-621-08297-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

Excelを用いた初歩的な表計算とグラフ作成能力。

履修資格

講義名	情報科学概論（環境c）							担当教員	山本 洋紀
講義コード	1130160	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	エクセルの基本操作1	計算、数式
第2回	エクセルの基本操作2	グラフ
第3回	データの抽出・集計1	データの並べ替え 集計
第4回	データの抽出・集計2	自動集計 クロス表
第5回	データの特徴をつかむ1	合計 比率
第6回	データの特徴をつかむ2	平均 モード
第7回	データの特徴をつかむ3	分散 標準偏差
第8回	量的データの関連性を見る1	散布図 相関係数
第9回	量的データの関連性を見る2	相関係数の定義 類似度
第10回	量的データの関連性を見る3	相関解析演習
第11回	質的データの関連性を見る1	クロス表とその視覚化 期待度数
第12回	質的データの関連性を見る2	カイ2乗値 統計検定
第13回	回帰分析と予測1	単回帰分析 残差と決定係数
第14回	回帰分析と予測2	時系列データの分析 回帰係数の計算
第15回	最終課題	実データを用いたクロス表分析、相関解析、回帰分析の演習
担当者から一言		

講義名	情報科学概論（環境d）							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130170	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
- (2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得しレポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論（環境d）							担当教員	亀田 彰喜
講義コード	1130170	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	1011NF101								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダ作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ
担当者から一言		

講義名	環境行動論/							担当教員	迫田 正美
講義コード	1150050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL302-C, 313ARC208								

授業概要

本講義では、前半は基礎的学習として、人間の行動と空間、身体と環境との関係について考察するために必要な基本的な知識を習得するとともに、人間行動と環境との密接な関連性について講述する。後半では行動の場所としての環境、行動的実践の結果としての環境の形成、及び行為の規範としての慣習や文化の形成と風土性、風景との相互連関について講述する。

到達目標

- (1) 人間の行動と環境（社会・文化的コンテキスト）の相互作用について事例を挙げて述べるができる。
- (2) 環境と行動に関する基礎的な知識について説明することができる。
- (3) 毎回の講義のテーマについて適切な質問または意見を述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	55	(1) (2)
レポート課題	45	(3)
上記以外		

授業外学習

講義で示した参考文献・資料について目を通すこと

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境と人間-生態学的であることについて	滋賀県立大学環境ブックレット4	サンライズ出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	かくれた次元	E.T.ホール	みすず書房	
2	発生的認識論	J.ピアジェ	白水社	
3	生きた隠喩	P.リクール	岩波書店	

資料、参考書は適宜講義の中で配布、提示する。『視覚ワールドの知覚』J.J.ギブソン、『精神科学における歴史的世界の構成』W.ディルタイ、

前提学力等

履修資格

講義名	環境行動論/							担当教員	迫田 正美
講義コード	1150050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL302-C,313ARC208								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	概説 1	環境行動論の概観 1 認知と行為
第2回	概説 2	環境行動論の概観 2 - 身体と環境
第3回	概説 3	環境行動論の概観 3 - 行為と環境
第4回	環境の意味 1	現象学的見解 (環境世界と生活世界)
第5回	環境の意味 2	解釈学的見解 (生の構造連関とテキスト世界)
第6回	環境の意味 3	いくつかの心理学的立場について クオリア問題について (ニュートンの「光学」とゲーテの「色彩論」)
第7回	環境世界の構造 1	なわばり・パーソナルスペース 生命 (個性) と距離
第8回	環境世界の構造 2	パーソナルスペースと社会的距離
第9回	行為と環境世界 1	J.ピアジェの発生的認識論 行為のスキーマ (図式) の概念、ワロンの立場 (場面の知)
第10回	行為と環境世界 2	ゲシュタルト心理学と環境認知
第11回	行為と環境世界 3	生態学的視覚論から見た行為と環境の意味 - アフォーダンスの概念
第12回	自己と環境の自己生成	オートポイエーシスシステム論における自己・環境及び社会システム
第13回	行為の実践と環境・社会システム	実践的相互行為と環境・社会システムの変容
第14回	行為の表現と環境・社会システム	行為の表現的側面と生活 (居住) 形式及び社会システムの変容
第15回	行為環境と景観・風土・自然	世界に住まうことと自然

担当者から一言

講義名	人間探求学（環境政策・計画）						担当教員 学科教員／井手 慎司／小野 奈々／ 香川 雄一／金谷 健／上河原 献二／ 白木 裕斗／高橋 卓也／瀧 健太郎／ 林 宰司／平山 奈央子／村上 一真／ 和田 有朗	
講義コード	1150300	単位数	2	開講期	前期	授業種別		講義
ナンバリング番号	101HUM101							

授業概要

この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。授業形態は各学部により異なるが、学部毎に1年生を少人数グループ（5～6名）に分け、担当教員が割り当てられる。

- 各教員が、以下のことをねらいとして独自のプログラムを工夫する。
- ・大学で学ぶことの意義付け、人生における位置付け等について考えさせる機会とする。
 - ・高校の教育課程から大学の教育課程にスムーズに移行できるようにする（受け身的な教育 自発的に学ぶ姿勢）。
 - ・教員や他の学生のもの見方、考え方に直接触れ、触発される機会を提供する。
 - ・教育の原点である人間と人間のふれあいの機会をつくる。
 - ・人権感覚を磨く。

到達目標

(1)自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養う、(2)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける、(3)人権感覚を磨く。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	55%	到達目標の(1) , (2) 45% 到達目標の(3) 10%
上記以外	45%	プレゼンテーション 到達目標の(1) , (2) 45%

到達目標の(1)～(2)はレポート（45%）およびプレゼンテーション（45%）、(3)はレポート（10%）で各担当教員が評価を行う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

指導教員より適宜指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	GIS演習							担当教員	香川 雄一
講義コード	1200050	単位数	1	開講期	後期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	212ETR303								

授業概要

GIS（地理情報システム）は現在計画分野で活用されつつある。その基本を学び、GISを環境計画に応用するためのデータ作成方法、データ解析および表示方法について課題演習を通して学習する。

到達目標

- ・GISの仕組みについて理解することができる。
- ・GISソフトを操作することができる。
- ・GISを利用するためのデジタル地図を選択することができる。
- ・GISを用いてオリジナル主題図を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	・GISを利用するためのデジタル地図を選択することができる。(10%) ・GISを用いてオリジナル主題図を作成することができる。(50%)
上記以外	40	・GISの仕組みについて理解することができる。(10%) ・GISソフトを操作することができる。(30%)

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
4回以上欠席した場合は、課題をすべて提出しないと評価の対象としない。

授業外学習

授業の進度にしたがって小レポートを数回提出する。課題に必要な作業を宿題として出す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	図解！ArcGIS 10 Part1 身近な事例で学ぼう	佐土原聡編 稲垣景子著	吉田聡・古屋貴司・ 古今書院	9784772241564
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ArcGIS Desktop 逆引きガイド	Esriジャパン株式会社著	Esriジャパン株式会社	9784902294880
2				
3				

前提学力等

Windowsを扱えること。

履修資格

講義名	イベント計画論・演習/							担当教員	瀧 健太郎
講義コード	1200101	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業概要

環境政策デザインの具体的な手法について演習を通じて身につける。フィールド調査も交えながら身近な環境問題の特徴や取り巻く諸制度を理解し、適切な課題設定を行うとともに、政策（事業・イベントなど）の立案から実施に至るプロセスについて実践演習を行う中で、環境政策デザインの基本的な手法・手順を体得する。演習はグループワークが中心となる。

到達目標

- (1) 客観的根拠に基づき政策課題を提案するプロセスを身につける。
- (2) 課題解決に向け、実行可能な道筋を見出すプロセスを身につける。
- (3) 計画をまとめ実施するプロセスを身につける。
- (4) 政策評価を行い、改善点を整理するプロセスを身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標(1)(2)(3)(4)について、課題提出（各25%）により評価する。

政策実施に参加できないものは履修不可。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜提示または配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜提示または配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	イベント計画論・演習/						担当教員	瀧 健太郎	
講義コード	1200101	単位数	3	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概論	全体スケジュールを確認するとともに、各種事例を通じて環境政策デザインの手法を概観する。
第2回	基礎調査	身近な地域においてフィールド・文献調査を行い、それぞれの視点から地域の課題を発見する。
第3回	課題整理	各自が発掘した課題を持ち寄り、さまざまな視点から類型化する。
第4回	追加調査	優先度の高い課題を絞り込み、追加調査により問題構造を明らかにする。
第5回	政策の抽出と分類	問題構造を踏まえて、解決策のアイデア出しを行う。
第6回	概略デザイン	課題に対して実現可能性を踏まえた目標設定を行い、政策の概略を検討する。
第7回	概略デザイン	実施する政策（事業・イベント等）の概略を決定する。
第8回	政策立案 1	政策実施計画（案）を作成する。
第9回	政策立案 2	政策実施計画（案）を発表し、意見聴取を行う。
第10回	政策立案 3	政策実施計画を決定する。
第11回	政策実施 / プロポーザル 1	立案した政策を試行または対外的にプロポーザルを行う。
第12回	政策実施 / プロポーザル 2	立案した政策を試行または対外的にプロポーザルを行う。
第13回	政策評価	実施した政策を振り返り、効果等を評価したうえで、改善すべき点を明らかにする。
第14回	政策提言	実施結果を踏まえて、次に展開すべき政策について検討する。
第15回	成果発表	政策の実施報告、政策提言の報告を行うとともに、全体を総括する。
担当者から一言		

講義名	環境政策デザイン論・演習							担当教員	瀧 健太郎
講義コード	1200102	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	312ETR302-C								

授業概要

環境政策デザインの具体的な手法について演習を通じて身につける。フィールド調査も交えながら身近な環境問題の特徴や取り巻く諸制度を理解し、適切な課題設定を行うとともに、政策（事業・イベントなど）の立案から実施に至るプロセスについて実践演習を行う中で、環境政策デザインの基本的な手法・手順を体得する。演習はグループワークが中心となる。

到達目標

- (1) 客観的根拠に基づき政策課題を提案するプロセスを身につける。
- (2) 課題解決に向け、実行可能な道筋を見出すプロセスを身につける。
- (3) 計画をまとめ実施するプロセスを身につける。
- (4) 政策評価を行い、改善点を整理するプロセスを身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標(1)(2)(3)(4)について、課題提出（各25%）により評価する。

政策実施に参加できないものは履修不可。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜提示または配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜提示または配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境政策デザイン論・演習							担当教員	瀧 健太郎
講義コード	1200102	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	312ETR302-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概論	全体スケジュールを確認するとともに、各種事例を通じて環境政策デザインの手法を概観する。
第2回	基礎調査	身近な地域においてフィールド・文献調査を行い、それぞれの視点から地域の課題を発見する。
第3回	課題整理	各自が発掘した課題を持ち寄り、さまざまな視点から類型化する。
第4回	追加調査	優先度の高い課題を絞り込み、追加調査により問題構造を明らかにする。
第5回	政策の抽出と分類	問題構造を踏まえて、解決策のアイデア出しを行う。
第6回	概略デザイン	課題に対して実現可能性を踏まえた目標設定を行い、政策の概略を検討する。
第7回	概略デザイン	実施する政策（事業・イベント等）の概略を決定する。
第8回	政策立案 1	政策実施計画（案）を作成する。
第9回	政策立案 2	政策実施計画（案）を発表し、意見聴取を行う。
第10回	政策立案 3	政策実施計画を決定する。
第11回	政策実施 / プロポーザル 1	立案した政策を試行または対外的にプロポーザルを行う。
第12回	政策実施 / プロポーザル 2	立案した政策を試行または対外的にプロポーザルを行う。
第13回	政策評価	実施した政策を振り返り、効果等を評価したうえで、改善すべき点を明らかにする。
第14回	政策提言	実施結果を踏まえて、次に展開すべき政策について検討する。
第15回	成果発表	政策の実施報告、政策提言の報告を行うとともに、全体を総括する。
担当者から一言		

講義名	エコロジー経済学/							担当教員	村上 一真
講義コード	1200120	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

環境問題の多様化・複雑化による環境保全経費増加に対する負担構造のあり方や実際についての理解を目指す。講義では、環境政策を担う組織や制度、権限や予算等の移譲と役割・機能分担、政策立案や予算編成、行政評価、財政のしくみや現状とともに、費用負担（汚染者負担、受益者負担、共同負担）と受益の関係の違いなどにより設計された、国際レベル・国レベル・地方レベルの様々な環境政策手段の理論と実際について学ぶ。

到達目標

(1)国・地方自治体の役割・機能に基づく行政・公共政策のしくみと現状、(2)国・地方自治体の政策実施等の原資となる財政のしくみと現状、(3)国・地方自治体の環境政策の手段や組み合わせのしくみと現状、(4)エネルギー・地球温暖化、森林政策の経済的手法のしくみと現状を理解し、説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標の(1)～(4)のそれぞれについて、毎回の授業中に課すレポートを12.5(50/4)％、期末試験12.5(50/4)％で評価する。
レポート課題	50	到達目標の(1)～(4)のそれぞれについて、毎回の授業中に課すレポートを12.5(50/4)％、期末試験12.5(50/4)％で評価する。
上記以外		

授業外学習

毎回の授業中にレポートを課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	水と森の財政学	諸富徹・沼尾波子	日本経済評論社	
2	環境政策のポリシーミックス	諸富徹	ミネルヴァ書房	
3				

適宜、資料を配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	応用数学							担当教員	井手 慎司
講義コード	1200150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112BTR202								

授業概要

数式化された問題をいかに解くかを、技術士試験問題を例題として解説する。

到達目標

- (1) 逆三角・複素関数の問題が解ける。
- (2) 微分・高次微分・偏微分の問題が解ける。
- (3) 極限と級数の問題が解ける。
- (4) 積分・微分方程式の問題が解ける。
- (5) ベクトル・行列の問題が解ける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標で示す(1)(2)(3)については、定期試験(30%:(1)10%,(2)10%,(3)10%)、(4)については定期試験(20%)、(5)については定期試験(20%)で評価する。
レポート課題		
上記以外	30	到達目標で示す(1)(2)(3)については、中間試験(15%:(1)5%,(2)5%,(3)5%)、(4)については中間試験(5%)、(5)については中間試験(10%)で評価する。

中間試験を実施する。中間テストでは、H15-24の問題1から10の100問の中から10問だす。
定期試験はH15-24の全200問から20問だす。

授業外学習

毎週、グループ毎に次週までに解いてくる課題を1題ずつ課す。
おそらく授業では100問前後を解くのがやっとだろう。授業中に解説している問題が解ける者は授業を聞いている必要はない。自分で新しい問題を

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	科学技術者のための基礎数学	矢野健太郎・石原繁	裳華房	978-4-7853-1035-6
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

高校数学で数・Bまでの基礎学力をもつこと。
高校で数 までやっていない学生は、基礎数学 と を履修することが望ましい。

履修資格

講義名	応用数学							担当教員	井手 慎司
講義コード	1200150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112BTR202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	曲線・曲面	授業では技術士第一試験のH24年の問題から過去の問題に遡って1題ずつ解いていく。
第2回	逆三角関数	
第3回	微分	
第4回	高次微分	
第5回	極限	
第6回	級数	
第7回	積分	
第8回	微分方程式	
第9回	偏微分	
第10回	二重積分	
第11回	ベクトル	
第12回	行列	
第13回	行列式	
第14回	固有値（ベクトル）	
第15回	まとめ復習	
担当者から一言		

講義名	応用統計学							担当教員	白木 裕斗
講義コード	1200160	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR301								

授業概要

社会現象における状況認識や問題発見、そしてその解決には、地域・社会調査により得られた情報、あるいは既存の統計資料を用いたデータ分析が重要となる。本授業では、講義により統計学の知識を習得するとともに、統計解析ソフトを用いたデータ分析の演習を行う。統計学に関する用語を理解した上で、推定や検定などの統計データの扱い方に進む。また、統計分析の解釈に必要な相関関係や回帰分析についても自ら実施できるようにする。

キーワード：基本統計量、回帰分析、確率・分布、検定・推定

この科目は社会調査士資格・地域調査士資格を取得する際に必要となる認定科目である。

到達目標

- (1) 統計学的手法（特に検定・推定）について理解できるようになる。
- (2) 実際の問題・データに対して統計学的手法を応用し、分析できるようになる。
- (3) 分析した問題を考察し、レポートとしてまとめることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	到達目標(2)・(3)については最終レポート((2)30%、(3)30%)により評価する
上記以外	40%	到達目標(1)については毎回の課題で評価する

授業外学習

配布資料や参考書などを用いて予習・復習をすることが望ましい。
また、毎回の課題を行う際に、授業内容についてしっかり復習すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	入門統計学	栗原伸一	オーム社	978-4274068553
2	統計学が最強の学問である	西内啓	ダイヤモンド社	978-4478022214
3				

上記以外の統計関連書籍も参考になります。

前提学力等

「基礎統計」の内容を十分理解していること。
MS Excelの基本的な操作ができること(入力・演算・関数の利用など)。

履修資格

講義名	応用統計学							担当教員	村上 一真
講義コード	1200170	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR302								

授業概要

この授業では、応用統計学 で取得した統計学についての基礎知識を踏まえ、より高度な統計技法、具体的には多変量解析（多変量解析の概要、重回帰分析、判別分析、因子分析、主成分分析、クラスター分析）の方法を理解すること、および多変量解析の環境問題の調査研究への適用事例概要を理解することを、ねらいとする。授業は、講義およびパソコン演習（統計ソフト使用）形式で行う。

到達目標

(1)統計学の基礎理論を理解し、応用分析に用いることができるようになる、(2)基本統計量を理解し、統計的思考・判断ができるようになる、(3)統計分析のソフトウェアを使用することができ、応用分析ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標の(1)～(3)について、それぞれ平常点5(15/3)％、レポ - ト11.7(35/3)％、中間まとめ8.3(25/3)％、期末試験8.3(25/3)％で評価する。
レポート課題	50	到達目標の(1)～(3)について、それぞれ平常点5(15/3)％、レポ - ト11.7(35/3)％、中間まとめ8.3(25/3)％、期末試験8.3(25/3)％で評価する。
上記以外		

授業外学習

レポ - ト12回

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	RとRコマンダーではじめる多変量解析	荒木孝治	日科技連	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	入門はじめての多変量解析	石村貞夫・石村光資郎	東京図書	
2				
3				

前提学力等

応用統計学 の内容をほぼ理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	環境アセスメント							担当教員	錦澤 滋雄 / 柴田 裕希 / 杉本 卓也
講義コード	1200300	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM207, 312ETR305, 313ARC305, 314BRM394								

授業概要

環境アセスメントは、開発行為などに伴う環境・社会影響に配慮し、社会とのコミュニケーションを通じて、行政による最適な意思決定を支援する重要な手段である。本講義では、その制度体系と適用事例に基づく実際を論じる。具体的には、アセスの意義や方法論を法や条例の規定内容、それらが導出されるに至った歴史的経緯を踏まえて解説する。方法論については、調査・予測・評価の方法について、大気環境、動植物、景観などを題材に学ぶ。コミュニケーションの観点からは、市民参加や社会的な合意形成の問題も解説する。国内の状況だけでなく、欧米諸国の先進的な制度や実施状況について、新しいアセスである戦略アセスや持続可能性アセスの考え方について、米国における取り組みを中心に紹介する。

到達目標

- (1) 環境アセスメントとは何か、アセスの目的と要件を説明できる。
- (2) 調査・予測・評価の具体的手法とその問題点について説明できる。
- (3) 国内外のアセス法制度の概要、日本の制度の位置づけや課題を説明できる。
- (4) SEA / SAの意義や特徴を説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	期末レポートを課す。
上記以外	75	授業中の課題・当日ブリーフレポートなどを課す。

授業外学習

環境アセスメントに関する本や論文の他に具体事業で作成された環境アセスメントの図書（方法書、準備書、評価書）を読むことでアセスの実際をより深く学ぶことができる。下記の環境省が提供するアセス支援ネットのページなどで閲覧できる。これらの情報はレポート執筆にも役立つ。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	改訂版・環境アセスメント	原科幸彦	放送大学教育振興会	
2	都市・地域の持続可能性アセスメント	原科幸彦・柴田裕希他	学芸出版社	
3				

授業中にプリント配布する

前提学力等

履修資格

講義名	環境アセスメント						担当教員	錦澤 滋雄 / 柴田 裕希 / 杉本 卓也	
講義コード	1200300	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別			講義
ナンバリング番号	211FFM207, 312ETR305, 313ARC305, 314BRM394								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション、アセスの要件と手続き	シラバスの内容の解説をした上で、環境アセスメントの目的、要件、手続概要について説明する。
第2回	スクリーニングとスコーピング	環境アセスメントを実施するかどうかを判断するスクリーニング手続、及び、アセスの方法を決定するスコーピング手続について説明する。
第3回	調査・予測・評価の方法(1) : 大気質	大気質の調査・予測・評価の方法を説明する。滋賀県立大学整備事業を具体事例として取り上げる。
第4回	調査・予測・評価の方法(2) : 動物	動物の調査・予測・評価の方法を説明する。滋賀県立大学整備事業を具体事例として取り上げる。
第5回	調査・予測・評価の方法(3) : 景観	景観の調査・予測・評価の方法を説明する。滋賀県立大学整備事業を具体事例として取り上げる。
第6回	アセス制度の歴史	環境アセスメント制度の創設経緯、制度の変遷について説明する。
第7回	現行制度	わが国の環境アセスメントの現行制度について法アセスを中心に説明する。
第8回	自治体によるアセスの現状と課題	わが国の自治体による条例アセスの制度、実施実態や課題について説明する。
第9回	市民参加とコミュニケーション	アセスにおける市民参加手続やコミュニケーションの方法について説明する。
第10回	意思決定とアセス	アセスに係る許認可や意思決定の問題について解説する。
第11回	アセスの事例	アセスの具体事例を紹介し、アセスの実際と課題について説明する。
第12回	諸外国の制度(1) : 米国NEPA	米国の国家環境政策法にもとづくアセスの取り組みを説明する。
第13回	諸外国の制度(2) : 英国、EU	欧州諸国におけるアセスの取り組み(特に英国)を説明する。
第14回	ミニアセスメント	小規模事業に適用される基礎自治体によるアセス、事業者が任意に行う自主アセス、あるいは簡易アセスについて説明する。
第15回	戦略的環境アセスメント(SEA)、SA	意思決定の上位段階に適用される戦略的環境アセスメントや、経済面・社会面なども含めて包括的に評価する持続可能性アセスメントについて説明する。

担当者から一言

環境アセス制度は環境行政の基本的手段の一つであり、公務員を目指す者にとっては特に深い理解が求められる。また、アセスの適用範囲は近年より広がっており民間企業が関与する機会も増えてきた。広い視野を持って学んでほしい。

講義名	環境会計							担当教員	藤近 雅彦
講義コード	1200330	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC302,314BRM391								

授業概要

環境会計とは、企業の環境問題に対する取り組みを会計的に分析・開示することを目的とする比較的新しい学問領域です。企業は様々な事業活動を通じて地球環境の悪化に関与する一方で、その解決に向けても大きな役割を果たしている存在です。本講義では企業経営と環境との関係を理解したうえで、環境会計の理論及び環境管理などの実務について概略的な理解を深めることを目的とします。とくに企業の事業活動については、初歩的なことから理解できるように努めます。さらに後半では、近年注目されている企業の社会的責任（CSR）論についても、議論してゆきます。

到達目標

- (1) 環境会計の理論的枠組みが説明できる。
- (2) 環境報告の理論的・実務的背景が説明できる。
- (3) 環境報告書の読解を通じて、企業の環境保全への取り組みが理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	「到達目標」の(1)～(3)について、講義全体を通じての達成度を評価するために筆記試験を実施します。
レポート課題	40	6回目と12回目の講義終了後にレポートを課します。
上記以外		

授業外学習

環境会計の入門書として最適の書籍をテキストに選定しています。講義の前に読んでおいてください。また、インターネットなどを利用して、関心のある企業の環境報告書（CSR報告書、サステナビリティ報告書を含む）を入手して読んでおけば、授業に対する興味がより高まるでしょう。ぜひ

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境経営・会計（第2版）	國部克彦・伊坪徳宏・水口剛	有斐閣	978-4-641-12469-1
2				
3				

【注意】一部の書店やネットなどでは上記テキストの初版本（『環境経営・会計』（2007））も販売されているので、注意してください。講義に際

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	BLUE EARTH COLLEGE ようこそ「地球経済大学」へ。	東京都市大学環境学部	東急エージェンシー	978-4-88497-123-6
2	CSRの基礎 企業と社会の新しい関係	國部克彦 + 神戸CSR研究会	日本経済社	未定
3				

「CSRの基礎 企業と社会の新しい環境」は2017年3月末発行予定です。講義中に詳細を案内します。

前提学力等

履修資格

講義名	環境会計							担当教員	藤近 雅彦
講義コード	1200330	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC302, 314BRM391								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション 企業活動と環境問題	地球環境問題に企業の活動がどのような影響を及ぼしているのか。また、それに対して「会計」という機能がどう関与しているのかについて概観します。
第2回	環境経営と会計システム	テキスト第1章「環境経営と会計システム」に基づいて、環境経営の考え方と3つの要件について学びます。
第3回	環境管理会計(1)	テキスト第2章「環境管理会計」に基づいて、環境管理会計の概要、対象範囲と体系について学びます。
第4回	環境管理会計(2)	テキスト第2章「環境管理会計」に基づいて、投資意思決定や原価企画など環境に配慮した管理会計の手法について学びます。
第5回	マテリアルフローコスト会計(1)	「マテリアルフローコスト会計」は、2011年に国際規格化された資源生産性向上を目的とする環境管理の手法です。テキスト第3章「マテリアルフローコスト会計」に基づいて、その概要と意義を学びます。
第6回	マテリアルフローコスト会計(2)	「マテリアルフローコスト会計」の導入事例をもとに、その効果を学びます。「ライフサイクルアセスメント」は、製品等の環境影響についてライフサイクルの視点から定量的に
第7回	環境情報開示と環境報告書(1)	環境経営を進めるにあたっては、環境情報の開示が重要です。テキスト第8章「環境情報開示と環境報告書」に基づいて、環境アカウンタビリティの考え方と開示手法について学びます。
第8回	環境情報開示と環境報告書(2)	前回に引き続き、テキスト第8章「環境情報開示と環境報告書」に基づいて、環境アカウンタビリティの中心的手法である環境報告書について学びます。また企業情報の新しい開示手法である統合
第9回	環境イノベーションと環境マーケティング	環境を軸とした付加価値創造の手法として、環境イノベーションと環境マーケティングについて概観し、故国内企業における事例を通じてその実践を確認します。
第10回	外部環境会計	「外部環境会計」は、環境保全活動の内容と効果について、社外に向けて定量的に報告する手法です。テキスト第9章「外部環境会計」に基づいて、その概要を学びます。
第11回	資本市場と環境問題(1)	環境経営の促進に対して、資本市場の動きは大きな影響を与えます。テキスト第11章「資本市場と環境問題」に基づいて、社会・環境に配慮した投資(SRI)の概要を学びます。
第12回	コクヨ工業滋賀の環境経営	滋賀県を代表する環境配慮企業の一つ、コクヨ工業滋賀の方をお招きし、同社の環境経営の実践についてご講演いただきます。
第13回	資本市場と環境問題(2)	第11回に引き続き、テキスト第11章「資本市場と環境問題」に基づいて、国連責任投資原則や赤道原則などより進化したSRIについて学びます。
第14回	環境経営からCSR経営へ(1)	「CSR」とは、企業の社会的責任を意味します。、テキスト第12章「環境経営からCSR経営へ」に基づいて、環境、社会、経済の3面に配慮した「CSR経営」の考え方を学びます。
第15回	環境経営からCSR経営へ(2) まとめ	前回に引き続き、「CSR経営」について学びます。最後に講義全体を振り返って、企業と社会課題との接点について考えます。
担当者から一言		

講義名	環境化学							担当教員	丸尾 雅啓
講義コード	1200370	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111DFM109,312PEL304,114BRM121								

授業概要

環境科学の学習、および教員を目標とするにあたり、必要な化学の基礎知識について、物理化学、無機化学を中心に講義する。高等学校で現象のみ扱っていた事項に関し、原理・法則に基づいた理解を深める。また実際の環境での化学物質の形態や変化に適用するための考え方について学ぶ。

到達目標

- 1) 化学で用いる基本的法則・表記法を理解し、適用できる。
- 2) 物質の三態と各々の構造、実在気体における状態方程式を理解する。
- 3) 化学平衡を理解し、酸塩基、溶解、酸化還元平衡の概念を実際の系に適用できる。
- 4) 反応速度、反応機構における律速段階を理解する。各到達目標の達成を目的とした小試験・宿題を課す(40%)。これに定期試験の成績(60%)をあわせて評価する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	
レポート課題	40	
上記以外		

授業外学習

テキスト：新版 大学生の化学（大野惇吉著：三共出版）

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新版 大学生の化学	大野惇吉	三共出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	メイン大学の化学 第2版（絶版：図書館にあり）	メイン	広川書店	
2	元素発見の歴史 1・2・3	大沼正則 訳	朝倉書店	
3				

前提学力等

高等学校「化学基礎」・「化学」を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	環境化学							担当教員	丸尾 雅啓
講義コード	1200370	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111DFM109, 312PEL304, 114BRM121								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	物質の成り立ちと原子(同位体)	物質の構成要素、分離法、原子(同位体)について述べる
第2回	元素の周期律と原子構造	元素の性質の周期性、原子の構造について述べる
第3回	原子模型と量子数	ボーアの原子模型と4種の量子数について述べる
第4回	電子配置と周期表	原子軌道上の電子配置の法則性と元素の周期についてのべる
第5回	混成軌道と分子構造	分子軌道を成立させる混成軌道について述べる
第6回	分子間の引力・溶媒和	分子間に作用する引力、水による溶媒和について述べる
第7回	気体の性質	理想気体、実在気体の持つ性質についてのべる
第8回	液体(水)の性質	水の持つ特殊な性質、化学熱力学に基づいた二相間の相互作用(沸点上昇など)について述べる
第9回	化学平衡	化学反応の動的平衡について述べる
第10回	反応速度	反応速度の考え方、反応律速段階について述べる
第11回	溶解平衡	化学平衡の基本的な事例である溶解平衡について述べる
第12回	酸塩基平衡	水圏の化学を学ぶための基本である酸塩基平衡についてのべる
第13回	緩衝溶液とpH	生体内、環境水での事例を基に、pHの緩衝作用について述べる
第14回	酸化と還元	生命現象、環境変化にかかわる酸化還元反応について述べる
第15回	酸化還元電位	酸化還元反応の量的扱いを理解するために、Nernst式、酸化還元電位と平衡定数の関係について述べる

担当者から一言

担当者から一言

講義名	環境科学概論							担当教員	小泉 尚嗣 / 泉 泰弘 / 大久保 卓也 / 籠谷 泰行 / 後藤 直成
講義コード	1200390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM103, 112BTR101, 113ARC102, 114BRM101								

授業概要

地球環境を構成する要素と環境変化の時空間スケールを把握した上で、土壌環境ならびに陸域・水域生態系の基本的構造とこれらに見られる今日的な諸問題について学ぶとともに、これからの食料確保と環境保全のあり方を展望する。

到達目標

環境変動の仕組みについて基本的な理解を得るとともに、自然環境と人間活動の関わり方について深く考察できる能力を身につける。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	60	期末試験の成績により評価する。
レポート課題	40	各担当教員の実施する小テストの結果を積算して評価する。
上記以外		

毎回出欠を確認する。各担当教員は授業内容について小テストを実施する。

授業外学習

授業をきっかけにして自分で参考書類を読むなどしてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：使用しない。プリントした資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：講義の中で必要に応じて紹介する。

前提学力等

高校理科習得程度。

履修資格

講義名	環境科学概論							担当教員	伊丹 清 / 芦澤 竜一 / 井手 慎司 / 上河原 献二 / 瀧 健太郎 / 増田 佳昭
講義コード	1200400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM104, 112BTR102, 113ARC103, 114BRM102								

授業概要

多様な形で生じる環境問題は、社会的仕組みや制度と密接な関係を持っている。環境問題の解明と解決のために必要な社会的な視点やアプローチ方法について、具体的問題を取り上げながら教授する。

到達目標

次に例示するような環境問題の社会的側面について多面的に理解し説明できること。

- A 環境問題を解決することの難しさを社会的ジレンマ構造によって説明できる。
- B すまっという行為と環境との関わりを多面的に説明できる。
- C 農業の環境に対する正負の影響と政策対応について説明できる。
- D 地球環境問題と持続可能な開発の基本的な事項について説明できる。
- E 流域社会で顕在化する課題、および減災の考え方について説明できる。
- F 建築と環境との関わりを多角的に説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50%	環境問題の社会的側面について多面的に理解し説明できること
レポート課題		
上記以外	50%	各回の小テスト

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は講義の中で紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境学原論/							担当教員	村上 修一
講義コード	1200440	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR201								

授業概要

本科目は、専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる、川の問題をとりあげる。まず、国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に、川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で、川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

到達目標

- (1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。
- (2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。
- (3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標 (1) : ワークシート1 (30%) 到達目標 (2) : ワークシート2 (30%) 到達目標 (3) : ワークシート3 (40%)

ワークシート1, 2, 3は、それぞれ第5, 10, 14回の授業時間内に履修生が記述し、回収される。第6, 11, 15回に解説が行われ、履修生は理解を深める。

授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第十堰日誌	姫野雅義	七つ森書館	978-4822811426
2	吉野川住民投票 市民参加のレシピ	武田真一郎	東信堂	978-4798911922
3	再帰的近代の政治社会学 吉野川可動堰問題と民主主義の実験	久保田滋 他	ミネルヴァ書房	978-4623050826

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境学原論/							担当教員	村上 修一
講義コード	1200440	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR201								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	あなたにとって川とは？	川との関わりを再認識し、川の未来を考えることの重要性を意識ようになる。
第2回	川の未来像を決める5W1H	国内における川の未来像の決め方について基本を理解する。
第3回	川の未来像を決める最初の一步	河川整備基本方針の内容を理解する。
第4回	川の未来像を決める具体的な内容とは？	河川整備計画の内容を理解する。
第5回	ワークシート1	国内における川の未来像の決め方について理解したことを書いてみる。
第6回	ワークシート1の解説	国内における川の未来像の決め方について理解を深める。
第7回	これだけは変えられない？	川の未来像を決める二重構造 - 河川整備基本方針と河川整備計画との間に存在する問題点を理解する。
第8回	川は「溝」なのか？	河道主義にもとづく川の未来像の決め方について現状と問題点を理解する。
第9回	川の未来像を決める「みんな」とは？	流域委員会の現状と問題点を理解する。
第10回	ワークシート2	川の未来像の決め方における問題点を特定し書いてみる。
第11回	ワークシート2の解説	川の未来像の決め方における問題点について理解を深める。
第12回	国内の事例にはどのようなヒントがある？	川の未来像の決め方はどうあるべきか、新たな方向を示す国内の事例について理解しヒントを得る。
第13回	海外の事例にはどのようなヒントがある？	川の未来像の決め方はどうあるべきか、新たな方向を示す海外の事例について理解しヒントを得る。
第14回	ワークシート3	川の未来像の決め方に対して改善策を案出し書いてみる。
第15回	ワークシート3の解説	川の未来像の決め方に対する改善策について理解を深める。
担当者から一言		

講義名	環境監査							担当教員	池北 實
講義コード	1200480	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM204, 312ETR303, 313ARC304, 314BRM392								

授業概要

地球温暖化防止をはじめとした環境問題の解決には、各組織の継続的な取り組みが欠かせない。このためには、経営に環境マネジメントシステムを導入することが不可欠とされ、多くの組織で導入されている。一方、マネジメントシステムには公正性と透明性が必要である。その健全性を確保し運用の実態を検証するために監査が必要となる。

本講では、環境マネジメントシステム（ISO14001）及び環境監査（ISO19011）を中心に学び、環境マネジメントシステム及びそのチェック機能としての環境監査のあり方や手法を理解する。更に、環境政策、企業の環境対応の現状、森林認証など監査（認証）の多様性を学ぶ。

キーワード：環境監査、内部監査、環境マネジメントシステム、ISO14001、ISO19011

到達目標

- (1) 地球環境問題及び対応する取り組み並びに環境管理に関する国際規格について概要を説明できる。
- (2) 環境監査の基準となるISO14001環境マネジメントシステム規格について、全体構築を含めて説明できる。
- (3) ISO19011マネジメントシステム監査のための指針に準拠した内部環境監査の運用を説明できる。
- (4) 多様な分野における各種マネジメントシステムの特徴や政策科学の視座での手法を説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1) 第1回～第2回：各1回の演習5%、小テスト5% (2) 第3回～第6回：各1回の演習15%、小テスト15% (3) 第7回～第12回：各1回の演習20%、小テスト20%

授業外学習

小テストの一つは、内部環境監査の理解度テストとして位置づけて、「内部環境監査員養成講座修了証」授与の条件にもなります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは、毎回講義でプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

鈴木敏央著「新・よくわかるISO環境法」(ダイヤモンド社)

前提学力等

履修資格

講義名	環境監査							担当教員	池北 實
講義コード	1200480	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM204, 312ETR303, 313ARC304, 314BRM392								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス 授業方針	・地球環境問題とISO14001環境マネジメントシステム規格の制定 ・BS7750環境管理・監査システムの概要
第2回	ISO14001支援ツール規格と概要	・環境監査/ISO19011 ・環境パフォーマンス評価/ISO14031
第3回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の解説(1)	・規格要求事項 / ISO14001:2015とISO14001:2004の比較
第4回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の解説(2)	・規格要求事項 / ISO14001:2015とISO14001:2004の比較
第5回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の解説(3)	・規格要求事項 / ISO14001:2015とISO14001:2004の比較
第6回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の解説(4)	・規格要求事項 / ISO14001:2015とISO14001:2004の比較
第7回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の運用(1)	・環境側面集計と環境影響評価の手法、環境不適合の管理
第8回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の運用(2)	・環境法規の体系、主要環境法規の概要
第9回	環境監査(1)	・環境監査の種類、環境監査のシステム、環境監査の実施プロセス ・ISO19011マネジメントシステム監査のための指針の解説
第10回	環境監査(2)	・監査計画と監査チェックリストの作成
第11回	環境監査(3)	・内部監査/是正処置報告書の作成、演習とレビュー(1)
第12回	環境監査(4)	・演習とレビュー(2)
第13回	中小事業者向け環境マネジメントシステム	・エコアクション2.1、KES、エコステージ ・ISO14005段階的实施環境マネジメントシステム規格
第14回	監査の多様性	・品質、情報セキュリティ、食品安全、森林認証
第15回	政策科学から見た環境マネジメントシステム	・政策手法、政策事例、企業の対応
担当者から一言		

講義名	環境経営論							担当教員	高橋 卓也
講義コード	1200550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC310, 214BRM292								

授業概要

企業は環境破壊について多大な責任を有する一方、そのダイナミックな革新能力によって問題解決への貢献をなしうる。この授業では、企業経営者または所有者の視点に限定されることなく、従業員、政府、社会全体の視点からも、企業と自然環境の関係をいかに改善するかについて考えていきたい。その枠組みとして、経済学、経営学、政治学、社会学といった社会科学の諸分野を援用する。

到達目標

(1)環境経営の実践と理論について理解し、明快地説明できるようになる。(2)環境経営の実践と理論の理解に基づいて、環境経営の課題を発見できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標で示す(1)環境経営の実践と理論について理解し、明快地説明できるようになる、および(2)環境経営の実践と理論の理解に基づいて、環境経営の課題を発見できるようになる、については、期末筆記試験(50%:(1)25%,(2)25%)で評価する。
レポート課題		
上記以外	50	到達目標で示す(1)環境経営の実践と理論について理解し、明快地説明できるようになる、および(2)環境経営の実践と理論の理解に基づいて、環境経営の課題を発見できるようになる、については、各回の参加および課題作業内容(20%:(1)10%,(2)10%)、事例報告(30%:(1)15%,(2)15%)で評価する。

授業外学習

指定図書、参考図書の指定部分の予習復習。事例研究報告のための準備。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境経営入門(日経文庫)	足達 英一郎	日本経済新聞出版社	978-4532112042
2	CSR入門 「企業の社会的責任」とは何か(日経文庫)	岡本 享二	日本経済新聞出版社	978-4532110406
3	グリーン・トゥ・ゴールド 企業に高収益をもたらす「環境マネジメント」戦略	ダニエル・C. エステイ	アспект	978-4757214927

授業中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境経営論						担当教員	高橋 卓也	
講義コード	1200550	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	212ETC310,214BRM292								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	導入 なぜ環境経営を考えるのか	環境経営とは何か、環境経営について考える意義について論ずる。
第2回	環境マネジメントシステム：その経緯、本質、可能性	ISO14001などの環境マネジメントシステムの実態、効果、課題について講義をおこなう。
第3回	環境と金融・財務：お金と環境はどう関係するのか	金融・財務がどのように環境問題の解決に貢献できるのか講義をおこなう。
第4回	環境効率、ファクター：ファクター4、ファクター10は可能か	環境効率という概念および応用例について解説する。
第5回	環境マーケティング：どのようにすれば環境配慮製品・サービス	環境配慮をマーケティング概念を用いて売り込む手法について学ぶ。環境配慮行動を普及する方法についてもマーケティングの考え方を応用してみる。
第6回	環境ビジネス、環境産業：その意義と可能性	環境ビジネス、環境産業の定義、分類と実態。成功のためのヒントについて学ぶ。
第7回	リーダーシップ・企業文化の変革	環境配慮型企業にどのようにすれば転換できるのか、企業変革論を参考にして考える。
第8回	環境経営の意義（１）：経営戦略としての環境経営（その１）	環境経営を実践する意義について、利益に貢献するという経営戦略面から考察する。（その１）
第9回	環境経営の意義（２）：経営戦略としての環境経営（その２）	環境経営を実践する意義について、利益に貢献するという経営戦略面から考察する。（その２）
第10回	環境経営の意義（３）：企業の社会的責任としての環境経営（その	環境経営を実践する意義について、企業の社会的責任、企業市民としての役割りという面から考察する。（その１）
第11回	環境経営の意義（４）：企業の社会的責任としての環境経営（その	環境経営を実践する意義について、企業の社会的責任、企業市民としての役割りという面から考察する。（その２）
第12回	環境経営最前線、まとめと事例研究についての指示、助言	受講生が興味を持っている環境経営の話題について講義する。事例研究報告について指示、助言を行う。
第13回	事例研究報告 1	受講生が各人1テーマについて報告する。お互いに評価をおこなう。
第14回	事例研究報告 2	受講生が各人1テーマについて報告する。お互いに評価をおこなう。
第15回	事例研究報告 3	受講生が各人1テーマについて報告する。お互いに評価をおこなう。
担当者から一言		

講義名	環境計画学							担当教員	瀧 健太郎
講義コード	1200560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR203,313ARC206								

授業概要

自然環境と社会経済活動との関係性に着目しながら、歴史的変遷を学ぶとともに、環境計画の意義・分類・手法・実例を体系的に解説し、研究・実務を行ううえでの基本的な知識・見識を習得する。講義内容に関連する公務員試験や技術士試験等の過去問を用いた小テストを2回実施し習得度を確認する。

到達目標

- (1) 国内の主要な環境計画の変遷と目的・内容について体系的に説明できる。
- (2) 環境計画の手法、策定プロセスについて体系的に説明できる。
- (3) 今後の環境計画のあり方について自分自身の見解を持ち対外的に説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)(3)について、定期試験で評価する。 (1) 15% (2) 15%
レポート課題		
上記以外	40	到達目標(1)(2)について、小テストで評価する。 (1) 15% (2) 15%

授業外学習

レポート課題を1回、予定している。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義ごとに配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境計画・政策研究の展開 - 持続可能な社会づくりへの合意形成	原科幸彦	岩波書店	978-4-00-022473-4
2	環境システム - その理念と基礎手法 -	土木学会環境システム委員会・編	共立出版	4-320-07379-7
3	環境ガバナンス - 市民・企業・自治体・政府の役割	松下和夫	岩波書店	4-00-006812-1

前提学力等

履修資格

講義名	環境計画学							担当教員	瀧 健太郎
講義コード	1200560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR203,313ARC206								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	概論	環境社会システムの基本的な考え方について理解するとともに、持続可能な社会の構築に向けた環境計画の意義や分類について解説する。
第2回	環境計画の歴史・変遷	各時代の社会問題に着目しながら、環境計画の歴史・変遷を解説する。
第3回	環境計画の体系	国内の主要な環境計画について、その根拠法や国・自治体・事業者などの役割分担を理解するとともに、あわせて欧米諸国との制度比較を行う。
第4回	環境計画の傾向	国内の主要な計画を概観しながら、最近10年間の重要課題の変化を解説する。
第5回	気候変動と人口減少	近年の環境計画の前提となる重要な課題として、気候変動と人口減少を取り上げ、環境計画の果たすべき役割についてディスカッションする。
第6回	生態系サービス，GI，Eco-DRR	生態系サービスやGI（グリーンインフラストラクチャー）、Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）など、近年注目されている考え方を解説する。
第7回	計画手法	基礎調査から環境社会システムのモデリング手法について解説する。
第8回	計画手法	基礎調査から環境社会システムのモデリング手法について解説する。
第9回	琵琶湖流域の計画体系	琵琶湖流域における森林、農地、都市（上下水道）、河川・湖沼、水産、環境分野に関する計画体系を解説する。
第10回	琵琶湖・淀川流域の計画体系	琵琶湖・淀川流域の諸計画の歴史の変遷について、上下流関係に着目して解説する。
第11回	統合的流域管理と流域ガバナンス	新しい概念のひとつとして、統合的流域管理の考え方について解説する。
第12回	計画策定プロセス	策定プロセスのことなる過去の環境計画についていくつか取り上げ、事例比較を通じて望ましい計画策定プロセスについて明らかにする。
第13回	住民参加による計画づくり	戦後から高度経済成長、現代に至る住民ニーズの変化、および、参加型計画の歴史および現状について解説する。
第14回	計画の実効性	いくつかの計画について、策定プロセス、フォローアップの状況などを比較しながら、実効性を伴った計画のあり方について明らかにしていく。
第15回	環境共生型社会の実現アプローチ	持続可能な社会を実現するための環境計画のあり方について、ディスカッションを通じて受講者の基本的な考え方を確立する。
担当者から一言		

講義名	環境経済演習							担当教員	林 宰司
講義コード	1200571	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	112ETR202								

授業概要

本科目では経済学の基本的な考え方、思考方法を身につけ、環境を経済学的に分析できるようになることを目的とする。経済学は他の学問分野に比べて、独特な思考方法や概念、専門用語、論理構成が多く、初学者にとっては近づきたい側面があるかもしれない。本科目ではこのような経済学独特の考え方について解説するとともに、環境分析の際に経済学的思考ができるための準備をする。

到達目標

(1)経済学の基本的な考え方・思考方法を身につけ、環境問題を経済学的に分析・説明できるようになること。(2)経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、環境問題について、定性的・定量的分析ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60%	到達目標 (1)30% , (2)30%
レポート課題	20%	到達目標 (1)10% , (2)10%
上記以外	20%	講義時間中に実施する小テスト 到達目標 (1)10% , (2)10%

授業外学習

毎回、予復習をしっかりと行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	公務員試験過去問新クイックマスターミクロ経済学 第6版	東京リーガルマインド LEC総合研究所 公務員試験部	東京リーガルマインド	9784844905882
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境経済演習							担当教員	林 宰司
講義コード	1200571	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	112ETR202								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	経済学的思考方法とは	トレードオフ、インセンティブ、交換、情報、分配
第2回	市場機構、科学としての経済学、規範と実証	
第3回	費用と便益、需要と供給	
第4回	合理的消費者と利潤極大化企業	
第5回	機会集合とトレードオフ	予算制約と時間制約、生産可能性曲線
第6回	経済効率性と市場	
第7回	価格弾力性	
第8回	第8回 中間まとめ	
第9回	市場の失敗(1)	外部性
第10回	市場の失敗(2)	公共財
第11回	市場の失敗(3)	独占・寡占
第12回	経済政策の評価基準	
第13回	環境政策(1)	直接規制
第14回	環境政策(2)	経済的手法 - 課税と補助金
第15回	第15回 まとめ	

担当者から一言

講義名	環境経済学							担当教員	林 宰司
講義コード	1200580	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC303, 214BRM291								

授業概要

環境経済学の基礎理論と、その環境政策への応用を学ぶ。環境経済学は応用経済学の一分野であり、経済学的な思考方法を習得することが前提となる。そのための基本的な経済学概念の理解は避けて通れない。ひとつの理論体系を習得することがねらいであるので、毎回の予習・復習、講義時のノート・テイキングは不可欠である。毎回の講義内容の理解の積み重ねが重要なので、理解不十分な点に関しては放置せず、各回ごとに必ず質問し、解決すること。

到達目標

- (1) 経済学の基礎理論を理解し、環境問題の現象が起きるメカニズムを説明できること。
- (2) 環境問題を理論的に分析でき、環境政策の評価を定量的・定性的に行うことができること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70%	到達目標 (1)35%, (2)35%
レポート課題	30%	到達目標 (1)15%, (2)15%
上記以外		

授業外学習

毎回、予復習をしっかりと行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	グラフィック環境経済学	浅子和美, 落合勝昭, 落合由紀子	新世社	978-4-88384-221-6
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

環境経済学入門および経済学 の内容を理解していることが望ましい。

履修資格

講義名	環境経済学							担当教員	林 宰司
講義コード	1200580	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC303, 214BRM291								

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	環境問題とは	環境問題の種類
第2回	環境経済学とは	環境経済学の目的と課題
第3回	資源配分と所得分配	効率性と衡平性
第4回	余剰分析	消費者余剰と生産者余剰、
第5回	厚生経済学の基本定理	市場機構と効率性、エッジワースのボックスダイアグラム
第6回	市場の失敗(1)	公共財
第7回	市場の失敗(2)	外部性
第8回	市場の失敗(3)	費用逓減産業と自然独占
第9回	政府の失敗	
第10回	直接規制	
第11回	経済的手法(1)	ピグー的手法：環境税と補助金
第12回	経済的手法(2)	排出権取引
第13回	交渉による解決手法	コースの定理
第14回	環境評価手法	費用便益分析、環境経済・統合勘定、持続可能性指標
第15回	地球環境問題と持続可能性	

担当者から一言		

講義名	環境経済学入門							担当教員	高橋 卓也 / 林 宰司
講義コード	1200581	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM203, 112ETC101, 113ARC203, 114BRM194								

授業概要

人間社会にとっての環境問題を考察、解決するうえで、経済学的思考は強力なツールとなりえる。また、現代社会に生きる市民として、経済学は必要不可欠な一般教養でもある。本講義では、環境問題、資源問題を具体的に紹介し、経済学的思考に触れ、今後、どのような学びが必要かについて自覚してもらうことを目標とする。具体的問題としては、公害、地球温暖化、廃棄物、再生可能天然資源（森林、水産業）、非再生天然資源（鉱業）、土地利用などを取り扱う。それぞれの問題を中心の話題として講義を進める。この授業は、環境経済、環境経営系の一連の授業の導入にあたる。

到達目標

- (1) 環境・資源問題に応用される経済的政策手法のうち、簡単な事例について説明できるようになる。
(2) 経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、環境・資源問題について定性的・定量的な予測・評価ができるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標で示す(1)および(2)について、試験（50%：(1)25%、(2)25%）で評価する。
レポート課題		
上記以外	50	到達目標で示す(1)および(2)について、各回の課題作業（50%：(1)25%、(2)25%）で評価する。

授業外学習

林：課題、小テストを適宜行う。試験を実施する。
高橋：課題、小テストを適宜行う。試験を実施する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	環境経済学をつかむ【第3版】	栗山浩一・馬奈木俊介	有斐閣	978-4641177246
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境経済学入門						担当教員	高橋 卓也 / 林 宰司	
講義コード	1200581	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	211FFM203, 112ETC101, 113ARC203, 114BRM194								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス -授業方針。環境問題と経済学。	授業の進め方についての説明、および環境問題を分析する際の経済学的思考方法について
第2回	外部性と市場の失敗	外部不経済の発生により市場の失敗が生じるメカニズムについて理解する。
第3回	公共財とフリーライダー	公共財の性質と、フリーライダー問題発生構造を理解する。
第4回	直接規制と経済的手法	直接規制による環境政策と市場機構を活用した経済的手法による環境政策を比較し、経済的手法の効率性について理解する。
第5回	環境税と補助金	経済的手法を用いた環境政策のうち、環境税と補助金の効率性と両者の対称性、および分配影響の違いを理解する。
第6回	排出量取引	経済的手法を用いた環境政策のうち、排出量取引のしくみとその効率性について理解する。
第7回	直接交渉による解決	直接交渉により市場が形成された場合の環境問題解決のしくみについて理解する。
第8回	中間まとめ	第1回から第7回までの講義について振り返り、疑問点について解決をする。
第9回	資源問題と経済学： 導入	資源経済学の紹介。適用分野の概観。需要供給曲線による分析方法、余剰概念の復習。
第10回	非再生資源の経済学（１）	シェールガス、オイルサンドという事例から、地代という概念について理解する。
第11回	非再生資源の経済学（２）	レアメタル資源という事例から、価格弾力性という概念について理解する。
第12回	理解度の確認	小テストによって、理解度を確認する。
第13回	再生資源の経済学（１）	森林の利用、保全のバランスという事例から、生産可能フロンティア、最適配分について理解する。
第14回	再生資源の経済学（２）	水資源、水環境という事例から、非市場価値評価について理解する。
第15回	まとめ	第9回から第14回までの講義について振り返り、疑問点について解決をする。

担当者から一言

講義名	環境財政							担当教員	村上 一真
講義コード	1200582	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM205, 212ETC311, 313ARC306, 214BRM293								

授業概要

環境問題の多様化・複雑化による環境保全経費増加に対する負担構造のあり方や実際についての理解を目指す。講義では、環境政策を担う組織や制度、権限や予算等の移譲と役割・機能分担、政策立案や予算編成、行政評価、財政のしくみや現状とともに、費用負担（汚染者負担、受益者負担、共同負担）と受益の関係の違いなどにより設計された、国際レベル・国レベル・地方レベルの様々な環境政策手段の理論と実際について学ぶ。

到達目標

(1)国・地方自治体の役割・機能に基づく行政・公共政策のしくみと現状、(2)国・地方自治体の政策実施等の原資となる財政のしくみと現状、(3)国・地方自治体の環境政策の手段や組み合わせのしくみと現状、(4)エネルギー・地球温暖化、森林政策の経済的手法のしくみと現状を理解し、説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標の(1)～(4)のそれぞれについて、毎回の授業中に課すレポートを12.5(50/4)％、期末試験12.5(50/4)％で評価する。
レポート課題	50	到達目標の(1)～(4)のそれぞれについて、毎回の授業中に課すレポートを12.5(50/4)％、期末試験12.5(50/4)％で評価する。
上記以外		

授業外学習

毎回の授業中にレポートを課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	水と森の財政学	諸富徹・沼尾波子	日本経済評論社	
2	環境政策のポリシーミックス	諸富徹	ミネルヴァ書房	
3				

適宜、資料を配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境財政							担当教員	村上 一真
講義コード	1200582	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM205, 212ETC311, 313ARC306, 214BRM293								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、環境財政に係る政策、組織の概要	ガイダンス、環境財政に係る政策、組織の概要
第2回	環境政策に係る国・地方自治体の役割と直接規制	環境政策に係る国・地方自治体の役割と直接規制
第3回	公共政策のかたちと策定・実施プロセス	公共政策のかたちと策定・実施プロセス
第4回	地方自治体の役割	地方自治体の役割
第5回	地方財政のしくみと現状	地方財政のしくみと現状
第6回	財政と政策評価	財政と政策評価
第7回	環境政策の役割分担（分権化とグローバル化）	環境政策の役割分担（分権化とグローバル化）
第8回	環境政策における費用負担原理	環境政策における費用負担原理
第9回	環境税、排出権取引の機能（インセンティブ税、財源調達）	環境税、排出権取引の機能（インセンティブ税、財源調達）
第10回	地球温暖化、水資源、廃棄物分野での取組み	地球温暖化、水資源、廃棄物分野での取組み
第11回	排出権取引に係る取組み1	排出権取引に係る取組み1
第12回	排出権取引に係る取組み2	排出権取引に係る取組み2
第13回	森林環境税に係る取組み1	森林環境税に係る取組み1
第14回	森林環境税に係る取組み2	森林環境税に係る取組み2
第15回	まとめ	まとめ
担当者から一言		

講義名	環境シミュレーション							担当教員	井手 慎司
講義コード	1200620	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETR306,314BRM395								

授業概要

環境の諸現象を再現、分析、予測するための数学モデリングおよびコンピュータ・シミュレーション技法の基礎を学ぶ。授業ではモデリングの基本的な考え方（物質収支・反応速度論）、モデルの構築手順、コンピュータ・シミュレーションとそのため数値解析（プログラミング）、シミュレーション結果のグラフィカル・プレゼンテーションなどについて解説する。

到達目標

- (1) モデルが表している現象を説明できる。
- (2) 物質収支を計算することができる。
- (3) 簡単な数値計算ができる。
- (4) VBAを用いてプログラムを作成できる。
- (5) Excelの表計算機能やVBAを用いて、シミュレーションプログラムを作成できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標で示す(1)については定期試験(10%)、(2)(3)については定期試験(10%:(2)5%、(3)5%)、(4)(5)については定期試験(30%:(4)15%、(5)15%)で評価する。
レポート課題		
上記以外	50	到達目標で示す(1)については課題(10%)、(2)(3)については課題(10%:(2)5%、(3)5%)、(4)(5)については課題(30%:(4)15%、(5)15%)で評価する。

課題を5回出す。

授業外学習

課題にまじめに取り組み、ExcelやVBAによるシミュレーションプログラムの作成に習熟すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	新 Excel コンピュータシミュレーション	三井 和男	森北出版	978-4-627-84871-9
2				
3				

毎回プリントを配付

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

ワープロと表計算ソフトの基礎知識をもつこと。

履修資格

講義名	環境社会学							担当教員	小野 奈々
講義コード	1200630	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112ETC203								

授業概要

今日の環境問題は、自然災害などによる自然そのものの荒廃だけでなく、人間活動の結果としてもたらされているものもある。環境社会学を学ぶことは、そのような今の環境問題を理解するひとつの手段となりうる。本授業では、グループワークや講義をつうじて、自然と人間社会との関わりを理解する、環境社会的な考え方を学習する。

到達目標

- (1) 環境社会学の考え方の理解
- (2) 環境社会的にものごを理解する意識・能力の獲得
- (3) グループワークをつうじて環境問題を総合的に把握するスキル
- (4) 課題認識力の獲得

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	定期試験は配付資料・ノート持込可、40点満点とし、 (1) 環境社会学の考え方の理解 15% (2) 環境社会的にものごを理解する意識・能力の獲得 15%
レポート課題	30	講義期間中に3回のレポート課題を課し、 (1) 環境社会的な考え方の習得につながる課題に自主的に取り組んだ 15% (2) 他人に理解される形式で課題を作成できた 15%
上記以外	30	講義期間中の授業において、ワークシート2点×9回と事例紹介とディスカッションのワークシート4点×3回を課し、 (1) 環境社会学の考え方の理解 3% (2) 環境社会的にものごを理解する意識・能力の獲得 12%

3分の1以上欠席した場合には、特別な事情がある場合を除いて、評価の対象としない。
ワークシートやレポート課題において誤字脱字、おかしな文章表現が多数見受けられる場合は減点の対象になる。
遅刻も減点の対象になる可能性がある。

授業外学習

講義期間中に3度のレポート課題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境社会学－生活者の立場から考える	鳥越皓之	東京大学出版会	
2				
3				

教科書は購入不要。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜配布します。

前提学力等

履修資格

講義名	環境情報							担当教員	白木 裕斗
講義コード	1200645	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETR302								

授業概要

環境・社会問題に関わる情報を取り扱う際の基礎を学ぶ。情報の収集・整理・保存・検索、また取得した情報の要約・分析・統合のための包括的な方法論を身につける。また、収集した情報を元にしたデータベースの構築方法を学ぶ。この授業では、単に環境分野を対象とするだけでなく、関連する社会経済分野も対象としてとらえる。

キーワード：統計データ、グラフ、データベース、環境、社会経済

到達目標

- (1) 社会経済と環境に関するデータを収集し、それらを適切に説明・グラフ化できるようになる。
- (2) データベースの基礎知識を習得する。
- (3) 収集したデータを用いて、簡単なデータベースを構築できるようになる。
- (4) 構築したデータベースの分析・説明ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30%	最終レポートにより到達目標(3)(10%)と(4)(20%)を、それぞれ評価する。
上記以外	70%	各回の課題により到達目標(1)(15%)と(2)(15%)を評価する。演習発表により到達目標(3)(30%)と(4)(10%)を評価する。

授業外学習

Web上の動画を用いて予習することが望ましい。
最終課題の提出に向けて授業外での作業が必要となる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

2014年度以前入学生で、「環境情報演習」を履修済みの学生は履修不可。

履修資格

講義名	環境心理学							担当教員	佐々木 和之
講義コード	1200661	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC302-C								

授業概要

本講義では、環境心理学を二つの側面から扱う。
 一つめの側面は、物理的な空間と人間の行動との関係性を解明し、実際の建築・建設等のデザインへの寄与を目指す、空間的課題への取り組みである。
 二つめの側面は、環境問題における人々の意志決定の要因を解明し、環境問題の解消に繋がる行動促進等を目指す、社会的課題への取り組みである。
 これら二つの側面を踏まえつつ、人々がどのように行動しているかを解き明かす方法の一つとして、環境心理調査手法を本講義では学ぶ。

到達目標

- (1)環境心理学の基礎が理解できている。
 (2)社会的課題、空間的課題について、環境心理調査手法を用いることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す(1)環境心理学の基礎が理解できているについては、講義計画 印時のミニレポート(4%×10回)、(2)社会的課題、空間的課題について、環境心理調査手法を用いることができるについては講義計画 印の講義時間中に作成するレポート(30%)、講義計画 印の講義時間中に作成するレポート(30%)で評価する。100点満点で採点し、60

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義において適宜提示または配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義において適宜提示または配布する

前提学力等

履修資格

講義名	環境心理学							担当教員	佐々木 和之
講義コード	1200661	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC302-C								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	環境心理学についての基礎知識 1	環境心理学の定義、空間的課題
第2回	環境心理学についての基礎知識 2	社会的課題
第3回	環境心理学についての基礎知識 3	データの集め方、結果と考察
第4回	行為 (behavior) と行動 (activity)	人間行動の捉え方
第5回	行動観察法 1	試行
第6回	行動観察法 2	観察結果の分析
第7回	行動観察法 3	作業
第8回	行動観察法 4	まとめ
第9回	行為を演じる	ケーススタディとしてのパフォーマンスの視聴、演技を観る側からの考察
第10回	社会課題と意志決定 1	研究事例の紹介
第11回	社会課題と意志決定 2	まちづくりでの実践事例の紹介
第12回	心理評価法 1	研究事例の紹介
第13回	心理評価法 2	試行
第14回	心理評価法 3	作業
第15回	心理評価法 4	まとめ

担当者から一言

環境心理学の調査手法は、環境問題のような社会的課題だけではなく、物理的な空間と人間の行動との関係性を対象とする空間的課題にも用いることができる。

講義名	環境水文学							担当教員	大久保 卓也
講義コード	1200665	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM210, 212PEL306, 214BRM232								

授業概要

森林、河川等の環境における水の動きとそれを支配するメカニズムについて解説する。また、その水の動きと連動する栄養塩、土砂等の物質の動き、および、それらの動きと生物との関わりについて解説する。日本および滋賀県における水利用の歴史、水害の歴史についても解説する。

到達目標

- (1) 水の動きの基礎的知識と理論を習得する
- (2) 水利用の歴史、水害対策の歴史から先人たちの創意工夫を学ぶ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	水文学に関する用語、理論、現象の理解度、計算方法の理解度を40問程度の問題で評価する。
レポート課題		
上記以外	50	毎回の小テスト

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

毎回、講義の終わり(または、はじめ)に10分間程度の小テストを行う。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特定の教科書は使用しないが、下記の参考書を主に引用しながら説明する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	エース水文学	池淵周一ほか	朝倉書店	4-254-26478-X
2	例題で学ぶ水文学	椎葉充晴ほか	森北出版	978-4-627-49631-6
3	地域環境水文学	丸山利輔ほか	朝倉書店	978-4-254-44022-5

前提学力等

履修資格

講義名	環境水文学							担当教員	大久保 卓也
講義コード	1200665	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM210, 212PEL306, 214BRM232								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	概論	水の動きと人間による水利用
第2回	水の循環と放射	水の循環の駆動力となっている太陽放射とそれに関わるエネルギー収支について解説する。
第3回	降水	降水のメカニズムについて解説する。
第4回	蒸発散	蒸発散のメカニズムについて解説する。
第5回	積雪、融雪	積雪、融雪のメカニズムについて解説する。
第6回	降水遮断、浸透	降水遮断、浸透のメカニズムについて解説する。
第7回	斜面流出	斜面流出のメカニズムについて解説する。
第8回	地下水水文学	地下水と人間との関わりについて解説する。
第9回	河川水文学	河川における水の動き、土砂の動き、生物の分布等の関わりについて解説する。
第10回	湖沼・ため池水文学	湖沼・ため池における水・物質の動態と生物との関わりについて解説する。
第11回	森林水文学	森林における水と物質の動態について解説する。
第12回	農地水文学	農地における水と物質の動態について解説する。
第13回	水害の歴史と対策	日本での台風や梅雨前線による水害の歴史と洪水対策の歴史について解説する。
第14回	計算問題演習 1	水文学の計算問題の演習を行う。
第15回	計算問題演習 2	水文学の計算問題の演習を行う。
担当者から一言		

講義名	環境政策学							担当教員	上河原 献二 / 和田 有朗
講義コード	1200700	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM206, 212BTR202, 213ARC205, 214BRM295								

授業概要

環境政策が成立する背景、環境政策に関わる組織と制度、環境政策の目標と手段など、環境政策の体系に関する理解を目指す。環境政策は、環境問題を解決するために実践された様々な試みが成立の根拠となっている。現在では、汚染管理、自然環境保全、地球環境保全、さらには放射性汚染対策まで拡大している。ここでは主要な政策の形成過程にとどまらず、その実施過程と成果を概観して、当該政策の意義と問題点を説明する。さらに、政策の実効性を高めるためには、政府だけではなく多元的な主体が関与する必要があるため、環境ガバナンスを巡る課題について解説する。

到達目標

- (1) 環境問題と環境政策の関連について説明できる
- (2) 環境政策の性格と機能を理解できる
- (3) 環境政策の目標と手段を説明できる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	20	到達目標(2)について10% 到達目標(3)について10%
レポート課題	50	各授業中に作成するレポート 到達目標(1)について10% 到達目標(2)について10%
上記以外	30	中間試験 到達目標(2)について10% 到達目標(3)について10%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境社会検定試験ECO検定公式テキスト	東京商工会議所編	日本能率協会マネジメントセンター	ISBN978-4-8207-4924-0
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境政策学							担当教員	上河原 献二 / 和田 有朗
講義コード	1200700	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM206, 212BTR202, 213ARC205, 214BRM295								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	環境政策とは	環境問題とは、政策とは、環境問題・環境政策の性格、環境政策の主要な枠組み、環境政策の過程と主要な参加者、環境政策の手法
第2回	環境問題の性格	環境問題、公害、環境規制、公共の利益
第3回	環境問題の歴史(1)	戦後復興と高度経済成長前半期（激甚公害の発生）、高度経済成長後半期（環境政策形成期）
第4回	環境問題の歴史(2)	低成長期と都市化・生活型公害（環境立法・政策の停滞）、環境問題の国際化と環境政策の新展開、環境基本法の制定
第5回	環境政策の主体	政策形成過程における多様な主体の役割、環境政策の形成と実施における政府の役割、環境の保全に関する基本的施策
第6回	環境政策の目標と手段	環境目標・基準の背後にある考え方、環境目標・基準設定の実際、環境政策の費用負担に関する原則
第7回	政策統合の必要性と方法	環境政策の手段と執行、政策手段の活用と組み合わせ - ポリシー・ミックスへ
第8回	環境ガバナンス	環境保全の権利と責務、政府機構改革、政策決定プロセスの改革、財政システムの改革、統合的環境政策手段の導入を推進する主体の強化
第9回	生物多様性保全	生物多様性とは、生物多様性の分布の一般的傾向、生物多様性の役割（生態系サービス）、生物多様性という概念の背景、日本における4つの危機、どうやって国際的に制度化されたか、
第10回	気候変動対策	気候変動に関する科学的知見、国際交渉の歩み、国内の温暖化対策
第11回	化学物質対策	化学物質と環境問題、基本的考え方、主要な国内法制度、主要な国際条約、石綿の事例
第12回	廃棄物対策	廃棄物問題とその対策、災害廃棄物対策、循環型社会の形成、国際的な資源循環とパーゼル条約
第13回	大気・水環境管理	大気汚染の状況、工場大気汚染対策、自動車排ガス対策、光化学オキシダント・PM2.5、ヒートアイランド対策、越境大気汚染対策、水質汚濁の状況、排水規制対策、水質保全事
第14回	原子力汚染対策（発表資料作成）	福島第一原発事故の影響、その後の汚染対策に関する法整備を学んだ上で、各班ごとに原子力発電所運転再開の賛否に関する議論を調べ、自分たちの主張とその根拠を、発表資料の形にまとめ
第15回	原子力汚染対策（発表会）	第14回で作成した発表資料を、各班毎に発表し、質疑応答を行う。
担当者から一言		

講義名	環境生物学							担当教員	浦部 美佐子
講義コード	1200770	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111DFM108, 112PEL204, 114BRM120								

授業概要

環境と生物のかかわりを理解するために必須である生物学の基礎事項、すなわち生物の体を形作る基本となつている細胞の構造と働き、有機高分子（タンパク質、脂質、炭水化物、核酸）の構造とそれらの主な働き、エネルギー交代・物質交代のしくみ、遺伝と進化のしくみについて説明する。

到達目標

- (1)生物体の構造と機能について基礎的な用語と概念を理解すること。
- (2)生体内で起こっている現象について、論理的に推論できること。
- (3)講義で学んだ知識を用いて、一般社会および自己の生活の中でみられる生物学的事象を科学的に理解できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	小テストの得点と合計して60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優、90点以上を秀とする。
レポート課題		
上記以外	40	小テストの評価とする。

5回以上無断欠席した者は原則として定期試験の受験を認めない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学生生物学の教科書 第1巻「細胞生物学」		講談社ブルーバックス	
2	大学生生物学の教科書 第2巻「分子遺伝学」		講談社ブルーバックス	
3				

期末試験において「章末問題」から一部出題をする。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	細胞の分子生物学 第5版	Albertほか	ニュートンプレス	
2	進化 分子・個体・生態系	パートンほか	メディカルサイエンスインターナショナル	
3				

前提学力等

高校で化学あるいは生物を履修していること

履修資格

講義名	環境地球科学							担当教員	堂満 華子
講義コード	1200890	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211DFM205, 212PEL303, 214BRM123								

授業概要

地球は46億年前に誕生してからさまざまな変遷を経て今日に至っている。本講義ではおもに、動く大地についての考え方や地球の環境がどのようにしてつくられてきたのかについて解説する。これをもとに、現在の地球環境の成立について学ぶ。

到達目標

地球とその歴史に関する基礎知識を修得し、現在の地球環境の成り立ちを理解する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	
レポート課題		
上記以外		

授業計画と成績評価方法は多少なりとも変更があり得ます。たとえば、なんらかの理由で休講になる場合、レポートを課すことがあるかもしれません。受講生の理解度を確認しながら進むため、授業計画を見直すかもしれません。したがって、シラバス上の授業計画と成績評価方法はめやすと受け取ってください。授業計画と成績評価方法を変更する際は授業中に説明します。

授業外学習

教科書や課題を用いた予習を前提とした授業の進め方をします。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	図解・プレートテクトニクス入門 (ブルーバックス)	木村 学・大木勇人	講談社	4062578344
2	地学のツボ 地球と宇宙の不思議をさぐる (ちくまプリマー新書)	鎌田浩毅	筑摩書房	4480688048
3				

毎回授業に持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地震・プレート・陸と海 地学入門 (岩波ジュニア新書92)	深尾良夫	岩波書店	4005000924
2	ニューステージ新地学図表		浜島書店	4834340120
3				

プリント配布

前提学力等

履修資格

講義名	環境地球科学							担当教員	堂満 華子
講義コード	1200890	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211DFM205, 212PEL303, 214BRM123								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	固体地球の層構造	地球の形, 地球の内部構造, 地殻の構造について学ぶ.
第2回	陸と海のちがい	アイソスタシーの原理について学ぶ.
第3回	大陸移動説	後々のプレートテクトニクスという考え方につながる, 大陸移動説の成り立ちについて学ぶ.
第4回	海洋底拡大説 1	大陸移動説はのちに海洋底拡大説へと発展する. その背景には, 地球科学のさまざまな分野で研究の進展があった. 地磁気, 岩石の残留磁気, 海底地形について学ぶ.
第5回	海洋底拡大説 2	ホットスポット, 磁気異常の縞模様, 年代測定法について学ぶ.
第6回	前半まとめ	第1~5回の補足と力だめしテストによって学習内容の定着をはかる.
第7回	プレートテクトニクス 1	海洋底拡大説はプレートテクトニクスへと発展する. プレートの構造 (リソスフェアとアセノスフェア), とり合うプレートどうしの境界について学ぶ.
第8回	プレートテクトニクス 2	プレート境界と, 地震や火山活動, 造山運動など地球表面でのさまざまな現象との関係について学ぶ.
第9回	地球と生命の歴史 1 : 冥王代・始生代	地質時代の区分, 冥王代 (46億~40億年前) と始生代 (40億~25億年前) のおもなできごとについて学ぶ.
第10回	地球と生命の歴史 2 : 原生代	原生代 (25億~5.4億年前) のおもなできごとについて学ぶ.
第11回	中間まとめ	第7~10回の補足と力だめしテストによって学習内容の定着をはかる.
第12回	地球と生命の歴史 3 : 古生代	古生代 (5.4億~2.5億年前) のおもなできごとについて学ぶ.
第13回	地球と生命の歴史 4 : 古生代の終わり	ペルム紀末 (2.5億年前) の大量絶滅とそのシナリオについて学ぶ.
第14回	地球と生命の歴史 5 : プルームテクトニクス	ペルム紀末の大量絶滅事件はスーパープルームの活動と関連すると考えられている. プルームテクトニクスという新しい考え方について学ぶ.
第15回	後半まとめ	第12~14回の補足と力だめしテストによって学習内容の定着をはかる.

担当者から一言

受講にあたっての心構え

講義名	環境フィールドワーク							担当教員	学部教員
講義コード	1200960	単位数	3	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	111FFM102-C, 112BTC101-C, 113ARC101-C, 114BRM100-C								

授業概要

実際の地域環境問題が生起するフィールドに足を運び、自分自身の五感を通して環境問題に触れ、それを図、文字、数値データに記録する方法を学ぶ。また、自分自身で記述した記録から、地域環境問題がどのような問題構造をもったものであるか、グループ討議を通して組み立てる演習をおこなう。実際には4つのテーマで授業を行う。1テーマあたり3～4週を1クールとし、各クールで別テーマの授業を受ける。

4つのグループに分かれて、3～4週（1週は3、4、5時限の合計3時限）でひとつのテーマ、合計4つのテーマについてフィールド実習・演習をおこなう。テーマは「水系と生活空間」、「愛知川周辺の農村地域の自然・社会環境」、「エコキャンパス・バイオロジー」、「流域環境の構造と機能」である。各グループ実習・演習の中で1週は学外に出かけ、フィールド観察、施設・機関の見学などをおこなう。また、4回のグループ実習・演習ごとにその観察結果をまとめ、グループでプレゼンテーションを行うとともに、各個人がレポートを提出する。各テーマでの授業計画については、各テーマ開始時に示される。

到達目標

- (1) フィールドワークに必要な基本的スキルを身につける。
- (2) 指定された項目について、文章で表現できる。
- (3) 調査結果を考察し、その内容を他者に説明できる基礎力をつける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	(項目1) フィールドワークの基本スキルの修得: 40% (項目2) 指定された項目に対する文章表現: 30% (項目3) 調査結果を考察し、それを他者に説明する能力: 30%

各項目についての成績評価方法は各テーマで異なるので、各テーマの授業開始時に説明をうけること。

授業外学習

各テーマの実習・演習終了時あるいは実施中にレポート等が課されることが原則である。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	フィールドワーク心得帖 新版	滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会	サンライズ出版	978-4883255627
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境フィールドワーク							担当教員	学部教員
講義コード	1200970	単位数	3	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	211FFM202-C, 212BTC201-C, 213ARC201-C, 214BRM200-C								

授業概要

地域環境にかかわる情報は多分野にまたがり、性質も多様である。これらの環境情報を収集し解析するために、対象地域あるいは問題対象を特定し、フィールドワークを通じて、自然調査や社会調査の基本的な手法を学んでいく。ねらいは、フィールドワークの手法を地域の環境問題の解析に適用することにより、現場に即した調査態度と解析手法、レポートに作成、発表の方法を学ぶことである。実際には9つのテーマに分かれ、その1つのテーマについて15週の授業を受ける。

学生はAからIまでの9グループに分かれる。グループ編成は学生の希望にもとづき、教員側で決定する。前期を通じて同じグループで授業を受ける。授業の成果を報告集として作成することを目標とする。各テーマでの授業計画については、授業開始時に示される。

到達目標

- (1) なんらかの課題に対し、教員の指導の下でフィールドデータを取ることができる。
- (2) 取得したデータに対し、基礎的な分析を行うことができる。
- (3) データの分析結果に基づき、論理的に議論できる。
- (4) データの分析結果を適切な文章で表現できる。
- (5) 初歩的な報告書を書くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	(項目1) フィールドワークのパフォーマンス: 60% (項目2) データ分析のパフォーマンス: 10% (項目3) プレゼンテーションのパフォーマンス: 10%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境フィールドワーク						担当教員	学部教員	
講義コード	1200970	単位数	3	開講期	前期	授業種別			実習
ナンバリング番号	211FFM202-C, 212BTC201-C, 213ARC201-C, 214BRM200-C								

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	個別クラス	各テーマでの授業計画については、授業開始時に示される。
第2回	個別クラス	
第3回	個別クラス	
第4回	個別クラス	
第5回	個別クラス	
第6回	個別クラス	
第7回	個別クラス	
第8回	個別クラス	
第9回	個別クラス	
第10回	個別クラス	
第11回	個別クラス	
第12回	個別クラス	
第13回	個別クラス	
第14回	個別クラス	
第15回	個別クラス	

担当者から一言

講義名	環境フィールドワーク							担当教員	学部教員
講義コード	1200980	単位数	3	開講期	通年集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	311FFM302-C, 312PEL301-C, 313ARC301-C, 314BRM310-C								

授業概要

各教員が提示するテーマごとのグループに分かれ、その教員の指導のもとで15週45講分の時間を用い、フィールドワークを主体とした調査を行ない、調査報告書を作成する。

授業計画は、各教員によって異なる。
4月に環境フィールドワーク委員会から配布される「各グループのテーマおよび内容」を参照のこと。そのうえで、環境フィールドワーク委員会の指示にしたがい、どのテーマのグループに所属したいかを記した希望票を提出すること。

到達目標

- (1) 特定の課題に対し、教員の指導を受けつつ自発的にフィールドデータを取ることができる。
- (2) 取得したデータに対し、専門的知見を交えた分析を行うことができる。
- (3) データの考察を行い、その結果を適切な文章で表現できる。
- (4) 考察を交えた報告書を書くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	(項目1) フィールドワークのパフォーマンス: 60% (項目2) データ分析のパフォーマンス: 20% (項目3、4) 報告書作成のパフォーマンスおよび文章の質: 20%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境物理学							担当教員	小泉 尚嗣
講義コード	1200990	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111DFM110, 112PEL203, 114BRM122								

授業概要

この講義では、物理学の基本である力学を扱う。大学レベルの物理学の基本を扱うので、微分・積分・ベクトル代数を使用する。特に、微分・積分については前期に開講している「基礎数学I」程度の内容は理解していることを前提とする。ただし、必要な数学的知識について最小限の復習を行う。また新たな数学的手続きを使用する場合、丁寧な解説を行う。この講義では、力学の基本的現象を理解したうえで、それを数式化して解析することを学ぶ。物理学を「道具」として使えるように、物理法則適用の前提を明らかにした上で、基本的な演習問題を解くと共に、身近な現象に物理学がどのように適用できるかも考える。

到達目標

- (1) 基礎的な力学を理解する。
- (2) 微分積分およびベクトルの基礎を用いて、力学の基礎的問題を解けるようになる。
- (3) 基本的な物理現象について、力学の用語を正確に用いて説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	
レポート課題		
上記以外	60	演習問題(宿題)

授業外学習

15回の授業期間中に、12回程度の演習問題を課す。授業内にできなかったものが宿題となる。演習問題(宿題)は毎回添削のうえ返却する。宿題は2週間以内に提出を原則とする。出席状況も加味した毎回の演習問題(宿題)の点数が、成績評価の7割をしめる。なお、授業中の演習問題への取

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	理工系の基礎物理 力学	原 康夫	学術図書出版社	
2	自然科学の基礎としての物理学	原 康夫	学術図書出版社	
3	工科系のための基礎力学	井上光 ほか	東京数学社	

授業中にプリントを配布する。

前提学力等

高校程度の微分積分およびベクトルを理解していること。微分積分の知識が不足している場合は、前期の「基礎数学」を履修していること。また、平行して「環境数学・演習」あるいは「応用数学」を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	環境法							担当教員	上河原 献二 / 小林 泉
講義コード	1201039	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	311FFM211, 312ETC306, 314BRM297								

授業概要

1970年代に整備された環境法は、公害・自然破壊から環境保全へ、更に地球環境問題と対象とする問題が変化するにつれて対応する法体系も大きく変容してきている。この講義では、法と社会という広い観点に立って、国の法律をはじめ関連する地方自治体の条例、企業における取組など、社会全体での環境を守るルールについて概観する。そして環境と法、市民・企業レベルの参加のあり方などについて理解を深める。

到達目標

(1) 環境法全体の歴史、性格、行政主体の役割の基本的事項を理解するとともに説明できる。(2) 個別分野の環境問題に関する法律の対象問題、基本的構造及び課題について理解するとともに、説明できる。(3) 環境法に関する横断的事項・手法を理解するとともに、それらを説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)について15% 到達目標(2)について30% 到達目標(3)について15%
レポート課題	40	宿題のレポートを2回課す。 到達目標(1)について10% 到達目標(2)について20%
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境法のフロンティア	黒川・奥田編	成文堂	ISBN978-4-7923-3331-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境マネジメント演習							担当教員	高橋 卓也
講義コード	1201060	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	312ETR304								

授業概要

企業または組織の自然環境との関係についての事例から作成された演習課題に取り組むことによって、組織の多面性、組織環境、財務管理、ステークホルダーとの関係管理などの概念および実際について学ぶ。

到達目標

(1)環境経営について体系的に分析し、問題解決方法を提案できるようになる。(2)環境経営における課題の解決方法を、説得力をもって説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す(1)環境経営について体系的に分析し、問題解決方法を提案できるようになる、および(2)環境経営における課題の解決方法を、説得力をもって説明できるようになる、について、演習作業状況(20%:(1)10%,(2)10%)、成果報告(80%:(1)40%,(2)40%)で評価する。

4回以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

講義の復習及び報告のための準備

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	自然資本の経済 「成長の限界」を突破する新産業革命	ポール・ホーケン、L.ハンター・ロピンス、エイモリー・B.ロ	日本経済新聞社	978-4532148713
2	ディープエコノミー 生命を育む経済へ	ビル・マッキベン	英治出版	978-4862760296
3	グリーン・トゥ・ゴールド 企業に高収益をもたらす「環境マネジメント」戦略	ダニエル・C. エスティ	アспект	978-4757214927

授業中にプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境マネジメント演習							担当教員	高橋 卓也
講義コード	1201060	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	312ETR304								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	導入、環境マーケティング分析 1：講義	全体の進め方についてのオリエンテーション。 環境マーケティングについての講義。
第2回	環境マーケティング分析2：実 習	環境マーケティングについての実習。
第3回	環境マーケティング分析3：報 告	環境マーケティングについての実習成果の報告。
第4回	環境関連会計財務分析と意思決定 1：講義	環境に関連する会計、財務分析についての講義。
第5回	環境関連会計財務分析と意思決定 2：実習	環境に関連する会計、財務分析についての実習。
第6回	環境関連会計財務分析と意思決定 3：報告	環境に関連する会計、財務分析についての実習成果の報告。
第7回	環境報告書を読む（環境コミュニ ケーション）1：講義	環境報告書についての講義。
第8回	環境報告書を読む（環境コミュニ ケーション）2：実習	環境報告書の分析実習。
第9回	環境報告書を読む（環境コミュニ ケーション）3：報告	環境報告書の分析結果の報告。
第10回	C S R 経営・ステークホルダーと の関係1：講義	CSR経営についての講義。
第11回	C S R 経営・ステークホルダーと の関係2：実習	CSR経営についての実習。
第12回	C S R 経営・ステークホルダーと の関係3：報告	CSR経営についての実習成果の報告。
第13回	環境経営の事例研究1：講義	環境経営全般についての講義。
第14回	環境経営の事例研究2：実習	自主的に選択した課題についての実習。
第15回	環境経営の事例研究3：報告	自主的に選択した課題についての実習成果の報告。
担当者から一言		

講義名	環境倫理学/							担当教員	土屋 正春
講義コード	1201080	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

今や小学生でさえ「地球環境問題」という言葉を知っています。この時代に生きる私たちには歴史的にも前例のない努力と配慮を求められていますが、その内実は極めて複雑な状況にあります。

一例を挙げると、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）ではこれまでにない資源提供国と利用国との激しい対立が展開されたことは知られている通りです。それでも2015年12月にパリ協定として全ての国が協調して温暖化問題に取り組む枠組みが採択されたのは、問題の深刻さが広く国際社会で広く共有されたためだと言えるでしょう。

ところがアメリカのトランプ大統領はアメリカの国益に沿わないという立場からパリ協定からの脱退を宣言したことから、アメリカ国内でも国際社会でも状況は混乱しています。

これら一連の出来事は、「権利」と「義務」とで成り立つ「制度」には、避けることができない「仕組み」としての限界が潜んでいることを示しています。このため、今や地球規模にまで拡大した環境問題を考えるためには、これとは別のチャネルの共有が強く求められるようになりました。人間の行動をより広い正義や公正の観点から見直そうとする動きがそれであり、すでに40年ほど前から研究成果の蓄積を得てきています。

到達目標

- ・これまでの環境思想の流れの理解を通じて時代認識を得ること。
- ・また、生命倫理との関係を理解できること。そして、自分の考えを持てるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標について記述式試験、および穴埋め問題などによる試験を行う。(70%)
レポート課題		
上記以外	30	講義の進度に応じて記述式小テストを行う。(30%)

- ・3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

- ・今後の予習課題掲載ページに注意願います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

- ・教科書は使用しません。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

- ・今後の予習課題掲載ページに注意願います。

前提学力等

- ・前提とする学力内容が多岐にわたるので3年次以上の履修としています。

履修資格

--

講義名	環境倫理学/							担当教員	土屋 正春
講義コード	1201080	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	環境公正論の基本テーマ	深刻化と拡大化をたどる環境問題について、先進国を中心として新しい思潮が登場したのは1970年代の初期であった。それまでの考え方の枠組みのどこが批判されたのか、それに代わり必要とされ強
第2回	水俣からの問い	1956年は現代日本社会にとって時代を画するものとなりました。「もはや戦後ではない」と経済白書が戦後復興経済の立ち上がり宣言し、同時に「奇病」が九州水俣で公式発見されたのがこの年な
第3回	社会変化のバランスシート	水俣を代表とする公害問題は「公害日本」にまでなりましたが、その背景には経済成長と便利生活を求める社会の動きがありました。その後、公害の性質が汚染から開発に転じた過程を通じても問題
第4回	現代開発論SDGs	さまざまな外的環境に働きかけて人間は文明をより強力なものにしてきましたが、これまでに明らかにされたようにその限界ははっきり見てとれるようになっています。これに対して2015年に国連が
第5回	功利主義と環境問題	日本から眼を上げてみましょう。現在の社会のあり方をこれまで方向づけてきたのは功利主義だとされています。であるとすれば、最大多数の最大幸福というその原理が地球環境問題というような人
第6回	共時性と通時性というツール	視野を広げて考えると、もはや一時的で、かつ、一地域的な性格を大きく超える問題については共時性と通時性というツールで整理することが大いに貢献します。利害が大きく傾いた問題についての
第7回	世代間責任について	共時性の観点に立つ場合は国際的な相互支援の体制づくりに行き着きますが、通時性の場合にはどうなるのでしょうか。そもそも将来世代に対する現世代の責任そのものの有無はどう議論されているの
第8回	前半中間まとめ	ここまでは人間世界の内側をいくつかのポイントを通じて考察してきました。実際の場面では現実問題の複雑さを反映して入り組んだ議論が展開してきています。この回では各回の内容よりはこれま
第9回	保全と保存という考え方	この回からは人間世界と外側について考えて行きます。「子、孫の代まで漁が続けられるように」とする意見広告を長崎県壱岐市の漁業団体が世に問うたのは一昨年のごとでした。私達の回りに
第10回	共生論と共同体論	USPの初代学長であった日高先生は「自然との共生」という言葉には批判的でした。人間も自然の一部だということです。人間と自然とを別個の存在として考えることの限界を突破し、人間も自然の
第11回	自然の権利、動物の権利	人間と自然とが平等であるとすれば次の議論は必然となります。真の平等を実現するには自然の側にも人間に対して自らを守る権利があって当然だ、という考え方です。自然に、そして動物に権利は
第12回	「種の差別」という議論	すべての生き物は平等な配慮を受けて当然だとする考え方は更に分析的な様相を呈して、ヒトであるとかイヌであるとかの「種」を超えた配慮にまで及ぶこととなります。ヒトはヒト並みの、イヌは
第13回	動物の権利論と人格論	すべての生き物を平等視するなら、極限的には一本の水平直線上に配置されることとなりますが、この考え方が社会的に受け入れられるには難しさがあります。では「実質的な平等」のための条件
第14回	人格論の展開	ヒトはいつまでヒトであり、どうなったらヒトではなくなるのか。私たちは一体何を守ろうとしているのか。極めて大きな枠組である「環境」でスタートした講義が「ヒト」をめぐるピンポイントの
第15回	講義全体のまとめ	私たちはもっと周りに対する見方をソフトにし、多様化し、将来へのチョイスの幅を広げるように努めねばなりません。学んできたように成長が社会にもたらす魅力が尽きないものだとすれば、その
担当者から一言		
・今後の予習課題掲載ページに注意願います。		

講義名	環境公正論							担当教員	土屋 正春
講義コード	1201085	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC304, 313ARC207								

授業概要

今や小学生でさえ「地球環境問題」という言葉を知っています。この時代に生きる私たちには歴史的にも前例のない努力と配慮を求められていますが、その内実は極めて複雑な状況にあります。

一例を挙げると、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）ではこれまでにない資源提供国と利用国との激しい対立が展開されたことは知られている通りです。それでも2015年12月にパリ協定として全ての国が協調して温暖化問題に取り組む枠組みが採択されたのは、問題の深刻さが広く国際社会で広く共有されたためだと言えるでしょう。

ところがアメリカのトランプ大統領はアメリカの国益に沿わないという立場からパリ協定からの脱退を宣言したことから、アメリカ国内でも国際社会でも状況は混乱しています。

これら一連の出来事は、「権利」と「義務」とで成り立つ「制度」には、避けることができない「仕組み」としての限界が潜んでいることを示しています。このため、今や地球規模にまで拡大した環境問題を考えるためには、これとは別のチャネルの共有が強く求められるようになりました。人間の行動をより広い正義や公正の観点から見直そうとする動きがそれであり、すでに40年ほど前から研究成果の蓄積を得てきています。

到達目標

- ・これまでの環境思想の流れの理解を通じて時代認識を得ること。
- ・また、生命倫理との関係を理解できること。そして、自分の考えを持てるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標について記述式試験、および穴埋め問題などによる試験を行う。(70%)
レポート課題		
上記以外	30	講義の進度に応じて記述式小テストを行う。(30%)

- ・3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

- ・今後の予習課題掲載ページに注意願います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

- ・教科書は使用しません。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

- ・今後の予習課題掲載ページに注意願います。

前提学力等

- ・前提とする学力内容が多岐にわたるので3年次以上の履修としています。

履修資格

講義名	環境公正論							担当教員	土屋 正春
講義コード	1201085	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC304,313ARC207								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	環境公正論の基本テーマ	深刻化と拡大化をたどる環境問題について、先進国を中心として新しい思潮が登場したのは1970年代の初期であった。それまでの考え方の枠組みのどこが批判されたのか、それに代わり必要とされ強
第2回	水俣からの問い	1956年は現代日本社会にとって時代を画するものとなりました。「もはや戦後ではない」と経済白書が戦後復興経済の立ち上がり宣言し、同時に「奇病」が九州水俣で公式発見されたのがこの年な
第3回	社会変化のバランスシート	水俣を代表とする公害問題は「公害日本」にまでなりましたが、その背景には経済成長と便利生活を求める社会の動きがありました。その後、公害の性質が汚染から開発に転じた過程を通じても問題
第4回	現代開発論SDGs	さまざまな外的環境に働きかけて人間は文明をより強力なものにできましたが、これまでに明らかにされたようにその限界ははっきり見てとれるようになっていきます。これに対して2015年に国連が
第5回	功利主義と環境問題	日本から眼を広げてみましょう。現在の社会のあり方をこれまで方向づけてきたのは功利主義だとされています。であるとすれば、最大多数の最大幸福というその原理が地球環境問題というような人
第6回	共時性と通時性というツール	視野を広げて考えると、もはや一時的で、かつ、一地域的な性格を大きく超える問題については共時性と通時性というツールで整理することが大いに貢献します。利害が大きく傾いた問題についての
第7回	世代間責任について	共時性の観点に立つ場合は国際的な相互支援の体制づくりに行き着きますが、通時性の場合にはどうなるのでしょうか。そもそも将来世代に対する現世代の責任そのものの有無はどう議論されているの
第8回	前半中間まとめ	ここまでは人間世界の内側をいくつかのポイントを通じて考察してきました。実際の場面では現実問題の複雑さを反映して入り組んだ議論が展開してきています。この回では各回の内容よりはこれま
第9回	保全と保存という考え方	この回からは人間世界と外側について考えて行きます。「子、孫の代まで漁が続けられるように」とする意見広告を長崎県壱岐市の漁業団体が世に問うたのは一昨年のものでした。私達の回りに
第10回	共生論と共同体論	USPの初代学長であった日高先生は「自然との共生」という言葉には批判的でした。人間も自然の一部だということです。人間と自然とを別個の存在として考えることの限界を突破し、人間も自然の
第11回	自然の権利、動物の権利	人間と自然とが平等であるとすれば次の議論は必然となります。真の平等を実現するには自然の側にも人間に対して自らを守る権利があって当然だ、という考え方です。自然に、そして動物に権利は
第12回	「種の差別」という議論	すべての生き物は平等な配慮を受けて当然だとする考え方は更に分析的な様相を呈して、ヒトであるとかイヌであるとかの「種」を超えた配慮にまで及ぶこととなります。ヒトはヒト並みの、イヌは
第13回	動物の権利論と人格論	すべての生き物を平等視するならば、極限的には一本の水平直線上に配置されることとなりますが、この考え方が社会的に受け入れられるには難しさがあります。では「実質的な平等」のための条件
第14回	人格論の展開	ヒトはいつまでヒトであり、どうなったらヒトではなくなるのか。私たちは一体何を守ろうとしているのか。極めて大きな枠組である「環境」でスタートした講義が「ヒト」をめぐるピンポイントの
第15回	講義全体のまとめ	私たちはもっと周りに対する見方をソフトにし、多様化し、将来へのチョイスの幅を広げるように努めねばなりません。学んできたように成長が社会にもたらす魅力が尽きないものだとすれば、その

担当者から一言

・今後の予習課題掲載ページに注意願います。

講義名	基礎数学							担当教員	山崎 惣治郎
講義コード	1201110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM105, 112PEL101, 113ARC104, 114BRM190								

授業概要

自然科学の研究には、客観的手段として数学が必要になる。本科目は高校数学をベースにして、数学的な見方・考え方の力を身につけ、様々な分野で数学が利用されていることを学習する。
 授業概要（要約版：印刷用） 自然科学の研究には、客観的手段として数学が必要になる。本科目は高校数学をベースにして、数学的な見方・考え方の力を身につけ、様々な分野で数学が利用されていることを学習する。

到達目標

(1)漸化式が解けること。(2)数列の極限が求められること。(3)ベクトル・行列の扱いに慣れること。(4)いろいろな曲線の表し方を理解すること。(5)確率の計算・確率分布・平均・分散が求められること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	期末考査
レポート課題	30	出席を含む
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	基礎数学							担当教員	山崎 惣治郎
講義コード	1201120	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM106, 112PEL102, 113ARC105, 114BRM191								

授業概要

自然科学の研究には、客観的手段として数学が必要になる。本科目は高校数学をベースにして、直感を重視しながら数学的な見方・考え方の力を身につけ、また環境問題を扱う上でしばしば見受けられる三角関数・指数関数・対数関数を軸として、関数の微少な変化を調べてその結果を知るための微分・積分の基礎的概念を学習する。

到達目標

- (1) 三角・指数・対数関数の計算ができること。
- (2) 平均変化率・導関数の計算ができること。
- (3) 置換積分・部分積分の計算ができること。
- (4) 簡単な微分方程式が解けること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	期末考査
レポート課題	30	出席等
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	基礎統計							担当教員	金谷 健
講義コード	1201130	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112BTR201								

授業概要

統計資料の分析を進めていくため、統計学の基礎知識を学ぶ。各種の統計データの読み方やそこから作られる図表の読み方を習得し、基本的な計算やグラフの作成ができるようにする。具体的には官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワークによる論文が読め、単純集計・度数分布・代表値・クロス集計などのデータを読めるようにする。また統計をどうして学ばなければならないか、統計が社会でどのように役立つかについても、理解していく。

到達目標

- (1) 統計学における基礎的な統計概念について、説明できること。
- (2) 記述統計学における基礎的な統計量について、手計算で計算できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	定期試験の結果で評価。 到達目標(1)について、20%。 到達目標(2)について、20%。
レポート課題	20	2回の宿題の結果で評価。 到達目標(1)について、10%。 到達目標(2)について、10%。
上記以外	40	中間ふりかえりの結果で評価。 到達目標(1)について、18%。 到達目標(2)について、22%。

特段の事情（病気等）がない限り、5回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	数学嫌いのための社会統計学〔第2版〕	津島昌寛・山口洋・田邊浩編	法律文化社	4589036193
2				
3				

教科書は、初回授業から持参すること。持参を前提に、授業を実施する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	景観計画							担当教員	村上 修一
講義コード	1201160	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL307, 213ARC302, 214BRM287								

授業概要

ランドスケープは、自然と人為の関わり合いをとおして形成される場の様相である。本科目では、ランドスケープの特徴や仕組みを分析して課題を抽出し、課題の解法を創造するための計画手法を学ぶ。受講生は単に知識を得るだけでなく、未来社会にふさわしい新たなランドスケープ形成手法を習得する。

- 各回の授業は以下のように実践形式である。
- (1) 目標とワークシート課題の提示
 - (2) 課題を解くために必要な手法の講述
 - (3) ワークシートの作成と採点

到達目標

講述する手法を用いたランドスケーププランニングができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標について授業時間内に実施する13回分のワークシート課題の点数を合計し(100点/回, 1300点満点), 100点満点に換算して評点とする(100%)。ワークシートは授業時間中に座席間を移動する教員によって採点される。

授業に出席しても、居眠り等によりワークシート課題を行っていない場合は、その回の点数は0点となる。

ワークシートは、講義の内容によって、トレーシングペーパー上で地図を作成する形式や、小クイズ形式の場合などがある。

授業外学習

本科目で習得した手法を、設計演習や卒業設計における課題制作に際して、積極的に活用し、その手法を確実に身につけてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ランドスケープデザイン	佐々木葉二, 曾和治好, 村上修一, 久保田正一	昭和堂	
2	環境デザイン学 ランドスケープの保全と創造	森本幸裕, 白幡洋三郎編	朝倉書店	
3	テキスト ランドスケープデザインの歴史	武田史朗, 山崎亮, 長濱伸貴編	学芸出版社	

前提学力等

- (1) 川の課題に取り組む回があるので、人間学「川の未来学」を履修し河川計画の基本を知っておくことが望ましい。
- (2) 等高線を描く回があるので、「ランドスケープデザイン」を履修し等高線の作図法を習得しておくことが望ましい。

履修資格

講義名	経済学							担当教員	林 宰司
講義コード	1201170	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112ETC204, 114BRM195								

授業概要

現代経済学は、個別の経済活動を集計した一国経済全体を扱うマクロ経済学と、経済主体の最小単位である消費者、企業が活動を行う市場の分析を対象とするミクロ経済学に大きく分けられる。本講義では、主に後者のミクロ経済学の基礎理論を理解することを目的とする。

到達目標

- (1)消費者・生産者の経済行動の簡単な事例について、説明できるようになること。
(2)ミクロ経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、市場経済のしくみについて定性的・定量的な分析価ができるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)20%, (2)20%
レポート課題	30%	到達目標(1)15%, (2)15%
上記以外	30%	中間まとめ 到達目標(1)15%, (2)15%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

グラフ、一次方程式、確率計算、微分計算などの初歩的な数学の知識を前提とする。

履修資格

講義名	経済学（国際経済を含む）							担当教員	村上 一真
講義コード	1201180	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC201, 214BRM290, 337ILA211								

授業概要

現実のデータや実際の事象に着目し、日本や関西が抱える経済問題を、マクロ経済学の観点から理解できるようになることを目指す。講義では、マクロ経済学の標準的な理論にとどまらず、企業の生産水準や雇用状況などの様々な経済指標の読み方、日本経済や関西経済の動向・見通しなどについて、理論と実際を結びつけながら解説し、理論、経済指標、経済動向・見通しをあわせて理解することを学ぶ。

到達目標

(1)マクロ経済学の基礎概念、(2)家計、企業、政府の行動理論と現状、(3)マクロ政策の理論と現状を理解し、説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標の(1)～(3)のそれぞれについて、小テスト・レポート16.7(50/3)％、期末試験16.7(50/3)％で評価する。
レポート課題	50	到達目標の(1)～(3)のそれぞれについて、小テスト・レポート16.7(50/3)％、期末試験16.7(50/3)％で評価する。
上記以外		

授業外学習

適宜、小テスト・レポートを課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	マクロ経済学・入門(第5版)	福田慎一・照山博司	有斐閣	
2				
3				

授業中にレジメ配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	マクロ経済学(第2版)	伊藤元重	日本評論社	
2				
3				

授業中にレジメ配布

前提学力等

履修資格

講義名	経済学（国際経済を含む）						担当教員	村上 一真	
講義コード	1201180	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	212ETC201, 214BRM290, 337ILA211								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、マクロ経済学の概要	ガイダンス、マクロ経済学の概要
第2回	GDPとマクロ経済学の基礎概念	GDPとマクロ経済学の基礎概念
第3回	GDP（国内総生産）の概念と決定メカニズム	GDP（国内総生産）の概念と決定メカニズム
第4回	物価（インフレとデフレ）	物価（インフレとデフレ）
第5回	為替、景気循環	為替、景気循環
第6回	家計の消費と貯蓄行動	家計の消費と貯蓄行動
第7回	企業等の投資行動	企業等の投資行動
第8回	金融と株値	金融と株値
第9回	貨幣の需要と供給	貨幣の需要と供給
第10回	乗数理論とIS-LM分析	乗数理論とIS-LM分析
第11回	経済政策の必要性和有用性	経済政策の必要性和有用性
第12回	政府支出の課題（財政赤字と国債）	政府支出の課題（財政赤字と国債）
第13回	雇用と失業	雇用と失業
第14回	経済成長理論	経済成長理論
第15回	国際マクロ経済、まとめ	国際マクロ経済、まとめ
担当者から一言		

講義名	合意形成支援技法・演習						担当教員	金谷 健	
講義コード	1201331	単位数	3	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	212ETR304								

授業概要

廃棄物最終処分場の立地場所の選定、望ましい街づくりのありかた、などなど、環境問題では合意形成が必要な場面が非常に多い。しかし現実には、こうした合意形成が合理的になされていないことが少なくない。そこでこの授業では、関係者（市民、行政、企業など）の合意形成を支援する技法のいくつかについて、その目的や手順を理解することを、ねらいとする。対象技法は、要素抽出技法（プレ-ンスト-ミング法、プレ-ンライティング法）、代替案評価技法（衆目評価法、AHP法）および問題構造化技法（ISM法）である。

到達目標

- (1) 要素抽出技法（技法なし、プレ-ンスト-ミング法、プレ-ンライティング法）について、比較結果を論理的に説明できること。
- (2) 代替案評価技法（衆目評価法）について、代替案評価結果を論理的に導けること。
- (3) 代替案評価技法（AHP法）について、代替案評価結果を論理的に導けること。
- (4) 問題構造化技法（ISM法）について、問題構造化グラフを論理的に導けること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	91	提出レポートで評価する。 到達目標(1)について15% 到達目標(2)について15%
上記以外	9	3回の発表の際に、受講者は、他グループ発表の評価を、評価シートに記載する。その記載内容で、評価する。 到達目標(3)について6% 到達目標(4)について3%

特段の事情（病気等；病院領収書等の提示が必要）がない限り、5回以上欠席した者は、成績評価の対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は、特になし（資料配付）。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

行列、表計算の基礎知識を有すること。

履修資格

講義名	合意形成支援技法・演習						担当教員	金谷 健	
講義コード	1201331	単位数	3	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	212ETR304								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	要素抽出技法 + 代替案評価技法「衆目評価法」	ガイダンス、要素抽出技法 + 代替案評価技法「衆目評価法」の講義およびグループ演習を行なう。
第2回	要素抽出技法 + 代替案評価技法「衆目評価法」	第1回のグループ演習で得られたデータを用いて、「衆目評価法」の評価シートをグループごとに作成し、受講者に配布する。
第3回	要素抽出技法 + 代替案評価技法「衆目評価法」	第2回のグループ演習で作成した評価シートへの回答を回収し、衆目評価をグループごとに行なう。
第4回	代替案評価技法「AHP法」	代替案評価技法であるAHP法の講義及び演習を行なう。
第5回	代替案評価技法「AHP法」	AHP法のグループ演習を、身近な問題をテーマに、グループごとに行なう。
第6回	代替案評価技法「AHP法」	前回に引き続き、AHP法のグループ演習を、身近な問題をテーマに、グループごとに行なう。
第7回	代替案評価技法「AHP法」	AHP法のグループ演習（身近な問題）の、発表を行なう。
第8回	代替案評価技法「AHP法」	AHP法のグループ演習を、環境問題をテーマに、グループごとに行なう。なお、調査実施者と合意形成主体を別々とし、後者による評価はアンケート形式で行なう。
第9回	代替案評価技法「AHP法」	前回に引き続き、AHP法のグループ演習を、環境問題をテーマに、グループごとに行なう。
第10回	代替案評価技法「AHP法」	AHP法のグループ演習（環境問題）の、発表を行なう。
第11回	問題構造化技法「ISM法」	問題構造化技法であるISM法の講義及び演習を行なう。
第12回	問題構造化技法「ISM法」	ISM法のグループ演習を行なう。
第13回	問題構造化技法「ISM法」	前回に引き続き、ISM法のグループ演習を行なう。
第14回	問題構造化技法「ISM法」	ISM法のグループ演習の、発表を行なう。
第15回	まとめ	授業のまとめを行なう。
担当者から一言		

講義名	国際環境資源論							担当教員	高橋 卓也 / 林 宰司
講義コード	1201380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC305, 314BRM393								

授業概要

環境問題、資源問題は、国際的な視野のもとで解決策を考えなければ、突破口は発見できない。この講義では、森林環境政策（第1回～第8回。高橋担当）および地球温暖化防止政策（第9回～第15回。林担当）の国際的な展開過程を跡づけるとも森林環境政策および地球温暖化防止政策に伴う理論的・実際の諸問題を考える。

到達目標

- (1) 国際的な視野のもとで、環境・資源問題に応用される経済的政策手法の事例について説明できるようになる。
(2) 経済学の理論を使って、国際的な環境・資源問題について、その原因及び解決策について数式および図解により分析・説明ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	到達目標で示す(1)および(2)については、レポート課題((1)25%、(2)25%)で評価する。
上記以外	50	到達目標で示す(1)および(2)については、各回の作業課題((1)25%、(2)25%)で評価する。

授業外学習

森林環境政策及びその関連分野についてレポートをとりまとめる(高橋担当分)。「地球温暖化防止政策の課題と展望」についてレポートをとりまとめ、授業の中で発表する(林担当分)。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	国際環境資源論							担当教員	高橋 卓也 / 林 宰司
講義コード	1201380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC305, 314BRM393								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	導入	世界の森林・林業を取り巻く課題について概観する。
第2回	世界の森林資源の概要	森林育成から木材利用の流れを解説する。
第3回	世界の森林資源の概要	世界の林産物貿易のパターンを概観し、貿易がなぜ発生するのか、自由貿易の利益と問題点について論じる。
第4回	熱帯林問題： どこに問題があるのか	熱帯林問題の実態ならびに解決方法について論じる。
第5回	森林と地球環境： 地球温暖化防止への貢献	気候変動問題と森林とのかかわりについて論じる。
第6回	持続可能な森林利用： 基準と指標、森林認証	持続可能な森林利用とはどういうものかについて、森林認証制度を例にとりて論じる。
第7回	地域社会と森林	山村の持続可能性、山村振興、山村都市連携について論じる。
第8回	森林政策の将来：学生発表	世界または日本の森林政策について、学生が報告を行う。
第9回	地球温暖化問題の概要	地球温暖化が起こるしくみ、および地球温暖化をとりまく政策的課題について概観する。
第10回	化石燃料消費と温暖化：経済格差と各国の責任	温室効果ガス排出の主たる原因である化石燃料消費の格差と、各国の排出寄与度から地球温暖化問題に対する責任について考える。
第11回	途上国の持続可能な発展と温暖化防止政策	発展途上国の今後の経済発展のあり方と地球温暖化防止政策について考える。
第12回	温暖化防止政策と国際貿易：競争力、カーボン・リーケージ	地球温暖化防止政策が産業の競争力と産業立地に与える影響について検討する。
第13回	EUの地球温暖化防止政策	EUの地球温暖化防止政策を事例に、そのあり方について論じる。
第14回	日本の地球温暖化防止政策	日本の地球温暖化防止政策を事例に、そのあり方について論じる。
第15回	温暖化防止政策の将来：学生発表	国際的または日本の地球温暖化防止政策について、学生が報告を行う。

担当者から一言

講義名	コミュニティ計画論/							担当教員	芦澤 竜一
講義コード	1201410	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

現代における地球環境を考慮した持続可能な社会を構築するための建築デザインについて論じる。環境、社会と建築との関りに注目して、事例を分析し、地域特性、素材、環境制御技術と連動したデザインを考察する。日本建築から現代建築まで具体的な事例を取り上げ、建築におけるサステナブルデザインの可能性を検証する。

到達目標

- (1) 現代の環境や社会を考慮した建築のサステナブルデザインに関わる知識を身につける。
- (2) 現代の社会や環境に対して、サステナブルデザインを提案する能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	授業内容を理解し、自身の論を立てられていることを評価する。
上記以外	30	毎回の出席点

1/3以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業内容をきちんと復習し、自身で調査・考察すること。定期的に出題するレポートに意見を論述する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	住まいがたえる世界の暮らし	藤木庸介編	世界思想社	978-4-7907-1689-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜指定

前提学力等

履修資格

講義名	サステイナブルデザイン論							担当教員	芦澤 竜一
講義コード	1201465	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL303, 313ARC303								

授業概要

現代における地球環境を考慮した持続可能な社会を構築するための建築デザインについて論じる。環境、社会と建築との関りに注目して、事例を分析し、地域特性、素材、環境制御技術と連動したデザインを考察する。日本建築から現代建築まで具体的な事例を取り上げ、建築におけるサステイナブルデザインの可能性を検証する。

到達目標

- (1) 現代の環境や社会を考慮した建築のサステイナブルデザインに関わる知識を身につける。
- (2) 現代の社会や環境に対して、サステイナブルデザインを提案する能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	授業内容を理解し、自身の論を立てられていることを評価する。
上記以外	30	毎回の出席点

1/3以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業内容をきちんと復習し、自身で調査・考察すること。定期的に出題するレポートに意見を論述する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	住まいがたえる世界のくらし	藤木庸介編	世界思想社	978-4-7907-1689-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜指定

前提学力等

履修資格

講義名	サステイナブルデザイン論							担当教員	芦澤 竜一
講義コード	1201465	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL303, 313ARC303								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	講義概要説明 / 建築と社会	
第2回	モダニズムデザイン	事例を紹介しながら考察する。
第3回	日本建築のサステナビリティ	事例を紹介しながら考察する。
第4回	現代建築とサステナビリティ	事例を紹介しながら考察する。
第5回	サステイナブルエリアデザイン1	事例を紹介しながら考察する。
第6回	サステイナブルエリアデザイン2	事例を紹介しながら考察する。
第7回	自然現象と建築 (光)	事例を紹介しながら考察する。
第8回	自然現象と建築 (風)	事例を紹介しながら考察する。
第9回	素材とデザイン(木)	事例を紹介しながら考察する。
第10回	素材とデザイン (土、竹)	事例を紹介しながら考察する。
第11回	植物と建築	事例を紹介しながら考察する。
第12回	動く建築	事例を紹介しながら考察する。
第13回	リノベーション	事例を紹介しながら考察する。
第14回	弱者のためのデザイン	事例を紹介しながら考察する。
第15回	サステイナブル都市デザイン	事例を紹介しながら考察する。
担当者から一言		

講義名	資源経済学							担当教員	高橋 卓也
講義コード	1201470	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC309,314BRM390								

授業概要

資源経済学の対象は、自然界から採取し、経済過程に投入される物質・エネルギーである。効率的で、公正で、持続可能な自然資源利用を実現するための基礎となるのが資源経済学に与えられた課題である。この授業では非更新性資源の異時点間配分に関するホテリングの原則、開放漁場における地代消滅に関するゴードンの定理、森林の最適伐期齢に関するファウストマン・ルールをはじめとする資源経済学の標準理論を学び、それらを参考に、持続可能な社会における自然資源利用のあり方を考える。

到達目標

- (1)自然資源の利用に関する経済学的分析の方法を理解し、簡単な予測・評価ができるようになる。
(2)現実の自然資源利用について、資源経済学的な課題を発見できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標で示す(1)自然資源の利用に関する経済学的分析の方法を理解し、簡単な予測・評価ができるようになる、および(2)現実の自然資源利用について、資源経済学的な課題を発見できるようになる、について期末筆記試験(60%:(1)40%、(2)20%)で評価する。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標で示す(1)自然資源の利用に関する経済学的分析の方法を理解し、簡単な予測・評価ができるようになる、および(2)現実の自然資源利用について、資源経済学的な課題を発見できるようになる、について毎回課する作業課題(40%:(1)20%、(2)20%)で評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	資源と環境の経済学 ケーススタディで学ぶ	馬奈木 俊介 (編集)	昭和堂	978-4812212301
2	はじめての環境経済学	ジェフリー・ヒール	東洋経済新報社	978-4492313473
3	環境経済学をつかむ【第3版】	栗山浩一・馬奈木俊介	有斐閣	978-4641177246

授業中にプリントを配布する。

前提学力等

環境経済学入門・経済学 を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	資源経済学							担当教員	高橋 卓也
講義コード	1201470	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC309,314BRM390								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	資源経済学の課題	資源経済学が取り扱う素材、課題について概観する。
第2回	経済学の方法：所有権と外部性（1）	自然資源の所有権がどのように資源管理に影響するか、外部性の問題をどのように解決できるかについて考察する。（その1）
第3回	経済学の方法：所有権と外部性（2）	自然資源の所有権がどのように資源管理に影響するか、外部性の問題をどのように解決できるかについて考察する。（その2）
第4回	意思決定の方法：費用便益分析	自然資源利用の費用と便益をどのようにバランスさせるかについて考える。効率性指標についても、実際に算出してみる。
第5回	自然資源価値の評価方法	自然資源の多面的な便益を、市場価格が存在しない場合、どのように評価できるのかについて考える。
第6回	動的効率性と持続可能性	自然資源の利用量は時間経過とともに変化する。現在と将来をどのようにバランスさせればよいかについて簡単なモデルを利用して考える。（その1）
第7回	動的効率性と持続可能性	自然資源の利用量は時間経過とともに変化する。現在と将来をどのようにバランスさせればよいかについて簡単なモデルを利用して考える。（その2）
第8回	中間ふりかえり	小テストにより、ここまでの理解について確かめる。
第9回	応用問題 鉱業、エネルギー	鉱業、エネルギー分野での地下資源利用のあり方について資源経済学を活用して考える。
第10回	応用問題 森林資源	森林資源利用のあり方について資源経済学を活用して考える。
第11回	応用問題 水産	水産資源利用のあり方について資源経済学を活用して考える。
第12回	応用問題 水資源	水資源の利用のあり方について資源経済学を活用して考える。
第13回	応用問題 レクリエーション	レクリエーション管理について資源経済学を活用して考える。
第14回	応用問題 生物多様性	生物多様性という資源の管理について資源経済学を活用して考える。
第15回	まとめ / 質疑応答 / 資源経済学最前線	これまでの講義を振り返り、疑問点を解決する。受講生の関心のある話題について論じる。

担当者から一言

適宜、授業中に作業課題を課す。経済実験ゲームを取り入れて理論に対する理解を深める。

講義名	持続可能社会論/							担当教員	高橋 卓也 / 林 宰司
講義コード	1201510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号									

授業概要

人間社会にとっての環境問題を考察、解決するうえで、経済学的思考は強力なツールとなりえる。また、現代社会に生きる市民として、経済学は必要不可欠な一般教養でもある。本講義では、環境問題、資源問題を具体的に紹介し、経済学的思考に触れ、今後、どのような学びが必要かについて自覚してもらうことを目標とする。具体的問題としては、公害、地球温暖化、廃棄物、再生可能天然資源（森林、水産業）、非再生天然資源（鉱業）、土地利用などを取り扱う。それぞれの問題を中心の話題として講義を進める。この授業は、環境経済、環境経営系の一連の授業の導入にあたる。

到達目標

- (1)環境・資源問題に応用される経済的政策手法のうち、簡単な事例について説明できるようになる。
(2)経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、環境・資源問題について定性的・定量的な予測・評価ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標で示す(1)および(2)について、試験(50%:(1)25%,(2)25%)で評価する。
レポート課題		
上記以外	50	到達目標で示す(1)および(2)について、各回の課題作業(50%:(1)25%,(2)25%)で評価する。

授業外学習

林：課題、小テストを適宜行う。試験を実施する。
高橋：課題、小テストを適宜行う。試験を実施する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境経済学をつかむ【第3版】	栗山浩一・馬奈木俊介	有斐閣	978-4641177246
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	市民参加論							担当教員	小野 奈々
講義コード	1201550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112ETC202-C								

授業概要

今日、行政計画をはじめ行政活動とその形成実施過程への市民参加は、計画づくりの段階で行われるワークショップ、実施の段階で行われる調整など、様々な形で取り込まれつつある。
参加機会が創出される一方で、市民の意見をどのように反映し、市民と共にどのように取り組んでいくかという、参加の実効性については課題がある。
そこで本授業では、グループワークと講義、課題をつうじて市民参加の基礎的な事項を習得する。また、外部講師を招聘して、環境政策・計画、まちづくり、川づくり等における市民参加の現場の現状、先進事例等にも触れる。

到達目標

- (1) 市民参加の考え方の理解
- (2) 市民として社会参加・参画する意識・能力の獲得
- (3) 市民参加に必要なコミュニケーション・スキルの習得
- (4) 課題認識力の獲得

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	定期試験は配付資料・ノート持込可、40点満点とし、 (1)市民参加の考え方の理解 15% (2)市民として社会参加・参画する意識・能力の獲得 5%
レポート課題	16	講義期間中に2回のレポート課題を課し、 (1)市民参加に必要なスキル習得につながる課題に自主的に取り組める 8% (2)他人に理解される形式で課題を作成できる 8%
上記以外	44	毎回のワークシート3点×12回、授業内課題8点×1回を課し、 (1)個人ワークをつうじた市民参加の理解 12% (2)グループワークをつうじた社会参加・参画する意識・能力の獲得 12%

3分の1以上欠席した場合には、特別な事情がある場合を除いて、評価の対象としない。
ワークシートやレポート課題において誤字脱字、おかしい文章表現が多数見受けられる場合は減点の対象になる。
遅刻も減点の対象になる可能性がある。

授業外学習

講義期間中にレポート課題を2度課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	18歳選挙権と市民教育ハンドブック	開発教育協会	開発教育協会	
2				
3				

購入不要。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義において適宜提示または配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	市民参加論							担当教員	小野 奈々
講義コード	1201550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112ETC202-C								

授業計画								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	タイトル	概要						
第1回	ガイダンス / 「市民」になるということ	ガイダンスとグループワーク						
第2回	わたしのことばで日本国憲法	グループワーク						
第3回	20年前の社会を調べる	課題 (1)						
第4回	20年後の自分と社会	グループワーク						
第5回	参加のはしご	グループワーク						
第6回	私たちのまちづくり	グループワーク						
第7回	選挙について調べる	課題 (2)						
第8回	模擬選挙をやってみよう	グループワーク						
第9回	市民参加を促すコミュニケーション技法 (1)	外部講師による講義						
第10回	市民参加を促すコミュニケーション技法 (2)	グループワーク						
第11回	メディアへの向き合い方	グループワーク						
第12回	映像をつうじて市民参加を知る	映像鑑賞、課題 (3)						
第13回	市民参加による持続可能な社会のビジョンづくり	外部講師による講義						
第14回	市民参画による琵琶湖の将来像づくり	外部講師による講義						
第15回	私の課題と社会の課題、つなげて踏み出す、はじめの一步	外部講師による講義						

担当者から一言								
グループワークを中心とする授業になるため、積極的に参加する姿勢をもって取り組むことが求められる。								

講義名	社会学							担当教員	小野 奈々
講義コード	1201560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC306, 214BRM298								

授業概要

この授業では、社会学の発想方法と理論のエッセンスを学習します。身近なトピックなどを題材に、普段「あたりまえ」だと思っていることを問い直し、「常識」を相対化する社会的なものの考え方を習得します。授業では、身近な社会のあり方を常識と異なる視点から捉えるために、毎回グループワークを交えながら、社会的なものの見方と既存の理論について学びます。

到達目標

- (1) 社会的な考え方の理解
- (2) 社会的に物事をみる意識・能力の獲得
- (3) グループワークをつつじた社会的自己体験の掘り起こし
- (4) 課題認識力の獲得

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	定期試験は配付資料・ノート持込可、40点満点とし、 (1) 社会的な考え方の理解 5% (2) 社会的に物事をみる意識・能力の獲得 15%
レポート課題	18	講義期間中に9点満点の2回のレポート課題を課し、 (1) 社会学の考え方の習得につながる課題に自主的に取り組んだ 10% (2) 他人に理解される形式で課題を作成できた 8%
上記以外	42	毎回ワークシート3点×11回と授業内課題9点×1回を課し、 (1) 個人ワークをつつじた社会学の考え方の理解 11% (2) グループワークをつつじた社会的に物事をみる意識・能力の獲得 14%

3分の1以上欠席した場合には、特別な事情がある場合を除いて、評価の対象としない。
ワークシートやレポート課題において誤字脱字、おかしな文章表現が多数見受けられる場合は減点の対象になる。
遅刻も減点の対象になる可能性がある。

授業外学習

講義期間中に2度のレポート課題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業のための教科書を購入する必要はないが、講義期間中に課す2度のレポート課題作業ために、社会学分野の新書2冊程度、リストから選んで入手

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	社会学						担当教員	小野 奈々	
講義コード	1201560	単位数	2	開講期	前期	授業種別			講義
ナンバリング番号	212ETC306, 214BRM298								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス / 社会学に何ができるか	講義とグループワーク
第2回	行為の意味解釈と共同意識	講義とグループワーク
第3回	社会学の文献を読んでみる(1)	課題(1)
第4回	鏡に映る自己	講義とグループワーク
第5回	演技する社会	講義とグループワーク
第6回	日常における異文化遭遇と文化装置	講義とグループワーク
第7回	社会学の文献を読んでみる(2)	課題(2)
第8回	見えない権力	講義とグループワーク
第9回	家族と親密な関係性	講義とグループワーク
第10回	労働と経済生活	講義とグループワーク
第11回	グローバル化と働くこと	講義とグループワーク
第12回	都市	講義とグループワーク
第13回	メディア	講義とグループワーク
第14回	学んだことを演劇にしてみよう(1)	課題(3) テーマ決め、シナリオを構想など
第15回	学んだことを演劇にしてみよう(2)	課題(3) 練習、本番の発表
担当者から一言		
グループワークを中心とする授業になるため、積極的に参加する姿勢をもって取り組むことが求められる。		

講義名	社会システム分析設計・演習							担当教員	和田 有朗
講義コード	1201621	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	212ETR301								

授業概要

地球温暖化問題は人々の社会経済活動と暮らしに密接な関係があり、温暖化防止のために暮らしと経済活動による低炭素社会の構築が求められている。そのための一つに環境負荷の多い都市や地域における人の移動を車からより環境負荷の低いモビリティへの転換が迫られている。環境負荷軽減への配慮から車の代替手段としての都市交通手段（短距離交通手段）として自転車利用が注目されている。欧米社会では一般になっている。この授業では低炭素社会に向けて「環境配慮型の自転車利用計画」の作成をテーマに現実社会システムを対象にして、それらを構成する各アイテム、要素を抽出し、それらを関連付け、それらに関わる現実社会をモデル化する。そのモデルを用いて課題を発見し、新たな対応の方法、アイテム、要素を含めたアイデアを創出する。具体的手法には、情報を集める方法、集めた情報からアイデアを生み出す手法（発想法）、企画を立てる手法（企画法）、表現する方法（図解表現法）、提案手法（プレゼンテーション手法）、これらのプロセスを総合化する手法などを実践的に体得する。

到達目標

- (1) 様々な方法で情報を集め、アイデアを生み出すことができる（発想法）
- (2) 問題意識に基づいて企画を立てることができる（企画法）
- (3) 企画内容を図示化することができる（図解表現法）
- (4) 説得力をともなって提案を行うことができる（プレゼンテーション法）

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標(1)について25% 到達目標(2)について25% 到達目標(3)について25%

授業外学習

毎回の授業で課題提出を課す。授業中に完成しない場合は宿題となる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	発想法入門	星野匡	日本経済新聞社	978-4532110772
2	企画の立て方	星野匡	日本経済新聞社	978-4532013806
3	問題解決手法の知識	高橋誠	日本経済新聞社	978-4532013417

前提学力等

履修資格

講義名	社会システム分析設計・演習						担当教員	和田 有朗	
講義コード	1201621	単位数	3	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	212ETR301								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	システムとは	システムとは何かについて概観する
第2回	発想法1	個人で使える発想法(属性列挙法、チェックリスト法、形態(要素)分析法)
第3回	発想法2	グループで使う発想法(ブレインストーミング、ブレインライティング、その他(KJ法、NM法など))
第4回	企画法1	問題意識を掘り下げる方法
第5回	企画法2	コンセプトマップづくり
第6回	図解表現法	システム図の描き方
第7回	企画法3	システム分析について
第8回	社会システム分析1	対象決定とシステム図の作成(調査の方法)
第9回	社会システム分析2	ヒアリング調査(情報収集等)
第10回	社会システム分析3	企画立案
第11回	社会システム分析4	企画の具体化
第12回	社会システム分析5	システム図作成
第13回	プレゼンテーション1	発表準備
第14回	プレゼンテーション2	プロポーザルと評価(1) (リハーサルのやり方、プレゼンのやり方、プレゼンの話し方、プロポーザル(提案))
第15回	プレゼンテーション3	プロポーザルと評価(2) (リハーサルのやり方、プレゼンのやり方、プレゼンの話し方、プロポーザル(提案))
担当者から一言		

講義名	社会調査実習（政策）							担当教員 平山 奈央子 / 白木 裕斗 / 村上 一真 / 和田 有朗
講義コード	1201630	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習	
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320							

授業概要

本科目は、社会調査の企画から報告書の作成までを、個人もしくはグループで取り組むことによって、社会調査の全過程を理解できるように実習形式で実施する。調査の準備段階から、調査の実施、さらには調査報告書の執筆を体験することによって、実社会に出てからも社会調査に従事できるような技術を習得することを目的とする。社会調査のテーマ設定から綿密に指導し、現場での調査方法を詳しく説明する。インタビューやアンケートなどの調査手法は、調査対象者の属性の違いを踏まえて、各履修者が検討することになる。

到達目標

社会調査士の資格認定において最後の履修科目となる場合が多いので、社会調査について学べることの集大成を目指す。具体的には、(1)社会調査実施、(2)プレゼンテーション、(3)質疑応答、(4)調査報告書執筆、ができるようになることを目指す。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	80	(1)社会調査を実施し、分析・考察することができる 60% (4)調査報告書を執筆することができる 20%
上記以外	20	(2)レジュメを作成し、発表形式の報告ができる 15% (3)他の履修生の発表に対して、コメントを述べる 5%

授業外学習

授業時間以外に各自の社会調査について計画し、調査の実施および報告書の作成に従事する。調査の進行状況については随時、授業で報告してもらう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応	篠原清夫, 榎本環, 大矢根淳, 清水強志	弘文堂	
2	社会調査へのアプローチ 論理と方法 第2版	大谷信介, 後藤範章, 永野武, 木下栄二, 小松洋	ミネルヴァ書房	
3				

前提学力等

地域調査法、地域調査法演習、基礎統計、応用統計学、応用統計学を受講していなければならない。

履修資格

講義名	社会調査実習（政策）							担当教員	平山 奈央子 / 白木 裕斗 / 村上 一真 / 和田 有朗
講義コード	1201630	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習		
ナンバリング番号	312ETR301-C, 330SOC303, 335SOC320								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス（調査目的と調査倫理の説明）	ガイダンス（調査目的と調査倫理の説明）
第2回	調査方法の説明（先行研究の参照、資料の扱い方）	調査方法の説明（先行研究の参照、資料の扱い方）
第3回	調査の企画と仮説の構成	調査の企画と仮説の構成
第4回	調査の項目の選定	調査の項目の選定
第5回	調査票の作成	調査票の作成
第6回	調査対象の設定（対象者および対象地域）	調査対象の設定（対象者および対象地域）
第7回	サンプリングの方法	サンプリングの方法
第8回	データ分析の方法	データ分析の方法
第9回	分析結果の表現方法	分析結果の表現方法
第10回	調査案の報告	調査案の報告
第11回	調査案の検討	調査案の検討
第12回	調査修正案の報告	調査修正案の報告
第13回	調査修正案の検討	調査修正案の検討
第14回	調査実習のスケジュール作成	調査実習のスケジュール作成
第15回	社会調査の準備	社会調査の準備
第16回	調査の実施（調査票の完成）	調査の実施（調査票の完成）
第17回	調査の実施（調査票の配布）	調査の実施（調査票の配布）
第18回	調査の実施（調査票への質問の対応）	調査の実施（調査票への質問の対応）
第19回	調査の実施（調査票の回収）	調査の実施（調査票の回収）
第20回	関係者への聞き取り	関係者への聞き取り
第21回	聞き取り調査のまとめ方	聞き取り調査のまとめ方
第22回	調査票の集計	調査票の集計
第23回	単純集計結果の検討	単純集計結果の検討
第24回	集計結果の統計分析	集計結果の統計分析
第25回	分析結果の検討	分析結果の検討
第26回	仮説の検証	仮説の検証
第27回	調査結果のまとめ	調査結果のまとめ
第28回	調査結果の報告	調査結果の報告
第29回	報告書の提出方法	報告書の提出方法
第30回	報告書の完成	報告書の完成

担当者から一言

講義名	森林環境学							担当教員	野間 直彦
講義コード	1201790	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211STR211, 212PEL304, 214BRM283								

授業概要

森林環境を理解するために必要な基礎的な内容を講義する。地球上の気候・環境による各種森林タイプの分布、森林の構造・環境と維持機構、森林への人為の影響、森林に棲む生物とそれらの相互作用、など。

到達目標

- 1) 森林と環境の関係を理解するために必要な、現代の生態学・環境学の考え方の基本を身につける。
- 2) 気候・環境による森林の分布、森林の構造と維持機構、森林の生物とそれらの相互作用について理解する。
- 3) 森林への人為の影響について理解し、問題の解決について自らの考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	
レポート課題	25	
上記以外	25	日常のレスポンスカードの評価。

授業外学習

必要に応じて課す

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	森林生態学	日本生態学会	共立出版	ISBN978-4-320-05736-4
2	里山の自然	田端英雄	保育社	ISBN4-586-31206-8
3	森林の生態	菊沢喜八郎	共立出版	ISBN4-320-05526-8

寺島一郎ほか著『植物生態学』（朝倉書店）ISBN4-254-17119-6 など。他に適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	森林環境学							担当教員	野間 直彦
講義コード	1201790	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211STR211, 212PEL304, 214BRM283								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	森林の見かたを変える 植物と動物・微生物共生系とし	ポリネーション(送受粉): 風媒、鳥媒、哺乳類媒、ポリネーションシンドロームなどについて講義する。
第2回	森林の見かたを変える 植物と動物・微生物共生系とし	ポリネーション(送受粉): 虫媒、緩やかな送粉共生と絶対送粉共生、落とし穴花、盗蜜などについて講義する。
第3回	森林の見かたを変える 植物と動物・微生物共生系とし	果実生産と種子散布をめぐる共生系などについて講義する。
第4回	森林の見かたを変える 植物と動物・微生物共生系とし	被食防御や菌根形成などについて講義する。
第5回	森林の分布を知る1	森林の定義、陸域生態系の中の森林などについて講義する。
第6回	森林の分布を知る2	森林のさまざまな種類などについて講義する。
第7回	森林の分布を知る3	森林と気候の関係について講義する。
第8回	森林の分布を知る4	世界の気候帯と森林帯の分布について講義する。
第9回	森林のつくりとうごきを理解する1	森林の構造と環境について講義する。
第10回	森林のつくりとうごきを理解する2	生態遷移について講義する。
第11回	森林のつくりとうごきを理解する3	二次遷移、萌芽更新、二次林などについて講義する。
第12回	森林のつくりとうごきを理解する4	ギャップ動態による森林の維持機構について講義する。
第13回	森林と人間の関係を考える1	森林の伐採と減少、持続的な焼畑と破壊的な焼畑、などについて講義する。
第14回	森林と人間の関係を考える2	里山林と草原、森林と生物多様性について講義する。
第15回	森林と人間の関係を考える3	地球温暖化と森林について講義する。
担当者から一言		

講義名	政策計画演習						担当教員 学科教員/井手 慎司/小野 奈々/ 香川 雄一/金谷 健/上河原 献二/ 白木 裕斗/高橋 卓也/瀧 健太郎/ 林 宰司/平山 奈央子/村上 一真/ 和田 有朗	
講義コード	1201930	単位数	1	開講期	前期	授業種別		演習
ナンバリング番号	312BTC401							

授業概要

「問題設定の方法」では、過去の卒業論文を評価することにより、研究という様式の理解とテーマ設定について学ぶ。「研究計画の設計」では、調べて、考えて、書いて、そしてまとめる、という一連の作業でもっとも軽視されがちなこの段階をめぐり、作業目的と作業方法との関連づけを再確認する。「分析と総合化の手順」では、文献資料および基礎的データのリサーチ方法の取得、その読み込みなどを行う。「総合化と見直し」では、問題設定と結論までの直線性と幅の確保に留意する。

到達目標

- (1) 卒業研究の計画設計にむけた方法論の基礎について、積極的に学び、理解する。
- (2) 卒業研究の計画設計にむけた準備作業に取り組む。
- (3) 卒業研究の計画設計について、指導教員が指定する課題に取り組み、それを完成させる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	(2)卒業研究の計画設計にむけた準備作業に取り組む。(35%) (3)卒業研究の計画設計について、指導教員が指定する課題に取り組み、それを完成させる。(15%)
上記以外	50	(1)卒業研究の計画設計にむけた方法論の基礎について、積極的に学び、理解する。(50%)

課題への取り組み85%、課題内容15%

到達目標の

授業外学習

1クールの1つのミニレポートを提出する。演習全体が終了したのち、夏期の課題レポートを作成する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「社会調査」のウソ・リサーチ・リテラシーのすすめ	谷岡一郎	文春新書	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	政策計画演習						担当教員	学科教員 / 井手 慎司 / 小野 奈々 / 香川 雄一 / 金谷 健 / 上河原 献二 / 白木 裕斗 / 高橋 卓也 / 瀧 健太郎 / 林 宰司 / 平山 奈央子 / 村上 一真 / 和田 有朗	
講義コード	1201940	単位数	1	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	312BTC402								

授業概要

前期の6月に、学生が指導を受けたい教員を選ぶ。学生の選択にもとづき、教員1人あたり数名の学生でゼミを構成する。研究室単位で、学生は指導を受ける。学生自ら調査したことを文章化してゼミのなかで発表し、それに対するコメントを受け、それに反論、再考察するというプロセスの繰り返しを通じて、学生は自らの研究テーマを発掘していく。学期の後半になると、学外において現地調査を始める学生が増えてくる。最後に、卒論着手発表会で成果を、パワーポイントを用いて発表する。

到達目標

- (1) 卒業研究の計画設計にむけた方法論について、配属された研究室の専門分野の知識を理解し、積極的に学ぶ。
- (2) 卒業研究の着手発表会にむけた準備作業に取り組む。
- (3) 卒業研究着手発表会で、研究計画や進捗状況を発表する。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1) 卒業研究の計画設計にむけた方法論について、配属された研究室の専門分野の知識を理解し、積極的に学ぶ。(25%) (2) 卒業研究の着手発表会にむけた準備作業に取り組む。(25%)

卒論への取り組み 30% 発表形式 20% 発表内容 50%

内容の評価項目： テーマの独創性、 目的達成の可能性、 研究計画の具体性、 調査の進行度（自分の調査がなされているか）、発表の評価項目

授業外学習

ゼミでの報告と卒論着手発表会での報告

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要な参考文献は各ゼミで指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要な参考文献は各ゼミで指示する。

前提学力等

履修資格

講義名	政策計画演習						担当教員 学科教員 / 井手 慎司 / 小野 奈々 / 香川 雄一 / 金谷 健 / 上河原 献二 / 白木 裕斗 / 高橋 卓也 / 瀧 健太郎 / 林 宰司 / 平山 奈央子 / 村上 一真 / 和田 有朗	
講義コード	1201940	単位数	1	開講期	後期	授業種別		演習
ナンバリング番号	312BTC402							

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	研究室単位でプログラムを決める	研究室単位でプログラムを決める
第2回	同 上	同 上
第3回	同 上	同 上
第4回	同 上	同 上
第5回	同 上	同 上
第6回	同 上	同 上
第7回	同 上	同 上
第8回	同 上	同 上
第9回	同 上	同 上
第10回	同 上	同 上
第11回	同 上	同 上
第12回	同 上	同 上
第13回	同 上	同 上
第14回	卒論着手発表会	卒論着手発表会
第15回	卒論着手発表会	卒論着手発表会

担当者から一言

講義名	政策計画演習						担当教員	学科教員/井手 慎司/小野 奈々/ 香川 雄一/金谷 健/上河原 献二/ 白木 裕斗/高橋 卓也/瀧 健太郎/ 林 宰司/平山 奈央子/村上 一真/ 和田 有朗	
講義コード	1201950	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	412BTC401								

授業概要

研究は「問い」から始まる。それに答えることが研究に他ならない。専門的には、問いを仮説、答える行為を検証と呼んでいる。研究成果の独創性は、仮説の独創性で決まる。仮説をつましく設定して、その検証方法を示すことが研究方法の策定である。ゼミ単位で訓練を受けることにより、この作業の進め方が納得できるようになる。後半の時間で、自ら調査を進め、資料の収集、整理、解析を通して、自分の思考を開発していく。

到達目標

- 1)自分が関心をもつ課題について、調査計画を立てることができる。
- 2)仮説を解明していくために、調査等を通じて必要な資料を収集し、整理・分析することができる。
- 3)資料の整理、分析によって、自分がたてた仮説を検証することができる。
- 4)自分の仮説と検証のプロセスについて、人前で報告することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	1)自分が関心をもつ課題について、調査計画を立てることができる。15% 2)仮説を解明していくために、調査等を通じて必要な資料を収集し、整理・分析することができる。15% 3)資料の整理、分析によって、自分がたてた仮説を検証することができる。50%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各研究室で指示する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各研究室で指示する

前提学力等

履修資格

講義名	政策計画演習							担当教員 学科教員/井手 慎司/小野 奈々/ 香川 雄一/金谷 健/上河原 献二/ 白木 裕斗/高橋 卓也/瀧 健太郎/ 林 宰司/平山 奈央子/村上 一真/ 和田 有朗
講義コード	1201960	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	412BTC402							

授業概要

設定した仮説を検証するための対象・方法を選び、具体的な調査計画を立てる。また、調査によって得られた情報をどのように分析していくかについて、ゼミ単位の指導から学ぶ。これらの作業を進めることによって、自分が最初に抱いた「問い」に答えることができるだろう。それが、「結論」である。こうした、仮説から結論にいたる一連の流れを論文としてまとめあげる様式や表記方法についても学んでいく。

到達目標

策定した研究計画にもとづき、調査・分析等を実施し、研究を論文としてまとめられる。
 1)自分の発表に対する質問やコメントをもとに、当初の仮説を再検討することができる。
 2)仮説の再検討にもとづいて、必要な資料の収集・整理・分析をすることができる。
 3)資料の整理・分析によって、修正された仮説を検証することができる。
 4)仮説の設定から検証に至る研究プロセスを、論文としてまとめることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	1)自分の発表に対する質問やコメントをもとに、当初の仮説を再検討することができる。10% 2)仮説の再検討にもとづいて、必要な資料の収集・整理・分析をすることができる。10% 3)資料の整理・分析によって、修正された仮説を検証することができる。10%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各研究室で指示する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各研究室で指示する

前提学力等

履修資格

講義名	政策計画基礎演習						担当教員	学科教員 / 井手 慎司 / 小野 奈々 / 香川 雄一 / 金谷 健 / 上河原 献二 / 白木 裕斗 / 高橋 卓也 / 瀧 健太郎 / 林 宰司 / 平山 奈央子 / 村上 一真 / 和田 有朗	
講義コード	1201961	単位数	1	開講期	前期	授業種別			演習
ナンバリング番号	212BTC202								

授業概要

環境政策・計画分野では、社会との関わりの中で課題を発見し解決する力が求められる。本演習では、その基礎的な力として、文献をもとに自らの問題意識を明確化し、現場における調査に向けて問いを立てる力を養うことを目指す。この内容を通じて、社会との関わりの中にある環境政策・計画分野を体系的に把握するとともに、その調査の方法を習得し、より高度な演習や卒業研究の取り組みに向けた基礎を築く。

到達目標

- (1) 社会の現場における環境政策・計画分野の課題を把握し、問題を設定できるようになる。
- (2) 環境政策・計画分野の課題に関する文献にアクセスすることができるようになる。
- (3) 文献調査をし、レポートとしてまとめることができるようになる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	文献調査の経過報告 (60%) と最終レポート (40%) により評価する。 到達目標の(1)については経過報告 (20%) により、(2)については経過報告 (40%) により、(3)については最終レポート (40%) により、それぞれ評価する。
上記以外		

授業外学習

文献調査と経過報告の準備

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	政策計画基礎演習						担当教員 学科教員/井手 慎司/小野 奈々/ 香川 雄一/金谷 健/上河原 献二/ 白木 裕斗/高橋 卓也/瀧 健太郎/ 林 宰司/平山 奈央子/村上 一真/ 和田 有朗	
講義コード	1201962	単位数	1	開講期	後期	授業種別		演習
ナンバリング番号	212BTC203							

授業概要

本演習の目的は、卒業研究につながる問題関心を現場から発掘し、育てることである。具体的な作業としては、環境問題にかかわる2名以上の方(学外の方)にインタビュー調査を実施する。その上で、調査内容についてレポートとしてまとめ、またプレゼンテーションにより説明する。さらに、一連のプロセスにおいて、社会調査により卒業研究を実施するために必要な基礎知識を身につける。次年度の研究室配属に向けて、卒業研究につながる関心の種を各自で発掘・把握し、言語化できるようになることを目指す。

到達目標

- (1) 卒業研究につながる問題関心を発掘できるようになる。
- (2) 学外の方2名以上にアポイントを取り、インタビューできるようになる。
- (3) インタビュー内容をレポートとしてまとめられるようになる。
- (4) インタビュー内容をプレゼンテーションにより説明できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	30%	到達目標(3) : 30%
上記以外	70%	インタビュー調査の経過報告(50%) : 到達目標(1)20%, (2)30% 報告会でのプレゼンテーションと議論(20%) : 到達目標(4)20%

授業外学習

インタビュー調査と経過報告の準備

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

必要に応じて各ゼミで指示する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	政策形成・施設演習						担当教員 学科教員/井手 慎司/小野 奈々/ 香川 雄一/金谷 健/上河原 献二/ 白木 裕斗/高橋 卓也/瀧 健太郎/ 林 宰司/平山 奈央子/村上 一真/ 和田 有朗	
講義コード	1201970	単位数	2	開講期	後期	授業種別		講義
ナンバリング番号	112BTC102							

授業概要

学生が自分の進路を定めてそれを達成するために大学時代に何をなすべきか？ この命題への答えを見つけること、すなわち「自分の発見」が、この授業のねらいです。当学科の教員が1週ないし2週の演習を受け持ち、その中で教員の専門分野の最先端を講義・ディスカッションあるいは現場ツアーを通じて学生にやさしく伝達します。学生は各演習に出席した後、あらかじめ指示された課題に関するレポートを1週間以内に提出する。このような作業の繰り返しを通じて次第にアイデンティティが形成されます。

到達目標

学生は自分の進路を定め、それに必要とされる能力を身につける方法を見出す。具体的には、(1)環境政策の現場に触れ、また環境関連の職業従事者の話を聞き、その実際を理解できる、(2)環境問題とその解決方法について考え、それをレポートにまとめる能力を高める、(3)自身の進路について考え始める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0%	
レポート課題	30%	到達目標の(1)～(3)それぞれについて、 学外現場演習レポート・報告：10+10=20点満点 最終レポートA・B：5点×2=10点満点
上記以外	70%	到達目標の(1)～(3)それぞれについて、 第1～14回：各回5点満点(5点満点×14回=70点満点)

授業外学習

レポート提出(第1～14回)、学外現場演習レポート提出・報告(第15回)、最終レポート(2種類)提出。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特になし(資料配布)

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	政策形成・施設演習						担当教員	学科教員 / 井手 慎司 / 小野 奈々 / 香川 雄一 / 金谷 健 / 上河原 献二 / 白木 裕斗 / 高橋 卓也 / 瀧 健太郎 / 林 宰司 / 平山 奈央子 / 村上 一真 / 和田 有朗	
講義コード	1201970	単位数	2	開講期	後期	授業種別			講義
ナンバリング番号	112BTC102								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	講義・ディスカッション	この授業をこう利用しよう/環境政策・計画学科で何を学ぶか
第2回	地元企業で活躍するOB/OGによる講義	
第3回	環境省の仕事 / レンジャーの仕事 (京都御苑)	
第4回	びわ湖環境ビジネスメッセに各自参加	
第5回	琵琶湖研究の前線を訪ねる (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)	
第6回	シンクタンクで環境政策に携わる研究員による講義	
第7回	海外で活躍する学科OB・OGによる講義	
第8回	NPOやNGO、社会起業家、政治家などで活躍する学科OB・OGによる講義	
第9回	企業におけるゼロエミッションへの取り組み (キリンビール工場)	
第10回	公務員として活躍する学科OB・OGによる講義	
第11回	環境コンサルティング・企業などで活躍する学科OB・OGによる講義	
第12回	3年生卒業研究着手報告会の傍聴	
第13回	公害地域再生への取り組み (あおぞら財団)	
第14回	研究者・大学院生として活躍する学科OB・OGによる講義	
第15回	学外現場演習 (イベント、ボランティア参加) 報告会・全体のまとめ	
担当者から一言		

講義名	政治学							担当教員	望月 詩史
講義コード	1201980	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL301, 235LAH304								

授業概要

本講義では「政治学の世界」をテーマに、「政治」とは何であり、「政治学」とはどのような学問であるのかについて考えていきたい。そして政治学の各分野を取り上げながら、政治現象をどのような観点から分析しているのかについて詳しく見ていく。

政治というと、議員や議事を思い浮かべる人が多い。確かに政治における重要なアクターであることは事実だが、決してそれらの専有物ではない。好むと好まざるとに関わらず、政治は私たちの日常生活と密接不可分の関係にある。そこで政治に係わる時事問題も積極的に取り上げていきたい。

政治学を学ぶ上で大切なのは、第一に政治現象に対する問題意識を持つこと、第二に過去と未来への視座を含みながら現在を考えることである。本講義は、こうした問題意識や思考を養う機会としたい。

本講義の内容は、公務員試験（教養試験「社会科学（政治）」や専門試験「政治学」）にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

到達目標

- (1) 「政治」、「政治学」とはどのような現象、学問であるのかを理解することができる。
- (2) 政治現象に対する問題意識を持つことができる。
- (3) 過去と未来への視座を含みながら現在を考えることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	80	到達目標 (1) (2) (3) について、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	コメントペーパーの「内容」に基づいて評価する。コメントペーパーには、担当者が設定したテーマについて「意見をまとめる場合と配布資料を読んだ上で「(自らの)解釈・評価」をまとめる場合の二通りがある。

授業外学習

- (1) 授業内容をテキストの該当箇所を読んで復習すること。
- (2) 新聞やニュースに目を通して政治に係わる時事問題に関心を持つこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	ファンダメンタル政治学 [増補改訂版]	等松春夫監修・竹本知行、尾崎庸介編	北樹出版	9784779303678
2				
3				

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	政治学入門	阿部齊	岩波書店	978-4000260015
2	政治学への道案内	高島通敏	講談社	978-4062921107
3	政治学をつかむ	苅部直ほか	有斐閣	978-4641177154

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

前提学力等

履修資格

講義名	政治学（国際政治を含む）							担当教員	望月 詩史
講義コード	1201990	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL305, 235LAH305								

授業概要

本講義では、政治思想と国際政治を取り上げる。
 政治思想では、古代から近代までの各時代を代表する思想家や知識人に焦点を当てながら、主要な政治思想を取り上げる。「主義」という政治概念が頻りに登場するが、できる限り具体的な中身を明らかにしていきたい。なぜならば、その意味内容が時代ごとに変化するのはもちろん、同時代においても相違が見られるからである。
 国際政治では、国内政治との共通点・相違点について考えていきたい。特に後者を明らかにするために、国際政治の成り立ち（歴史）、国際社会における政治現象を分析する枠組み、そして今日的課題（テロリズム、核、環境問題など）を取り上げる。
 これらのテーマの理解度を高めるには、具体的な政治現象と関連付けて考えることが望ましい。したがって、政治に係わる時事問題も積極的に取り上げていく。
 政治学を学ぶ上で大切なのは、第一に政治現象に対する問題意識を持つこと、第二に過去と未来への視座を含みながら現在を考えることである。本講義は、こうした問題意識や思考を養う機会としたい。
 本講義の内容は、公務員試験（教養試験「社会科学（政治）」や専門試験「政治学」）にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

到達目標

- (1) 現在の価値観を前提とせず歴史的に政治思想を理解することができる。
 (2) 国際政治と国内政治の共通点・相違点を理解することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	到達目標(1)(2)について、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	コメントペーパーの「内容」に基づいて評価する。コメントペーパーには、担当者が設定したテーマについて「意見」をまとめる場合と配布資料を読んだ上で「(自らの)解釈・評価」をまとめる場合の二通りがある。

授業外学習

- (1) 授業内容をテキストの該当箇所を読んで復習すること。
 (2) 新聞やニュース等に毎日目を通して政治に係わる時事問題に関心を持つこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ファンダメンタル政治学 [増補改訂版]	等松春夫監修・竹本知行、尾崎庸介編	北樹出版	9784779303678
2				
3				

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国際政治学をつかむ 新版	村田晃嗣ほか	有斐閣	978-4641177222
2	西洋政治思想史	宇野重規	有斐閣	978-4641220010
3	近代日本思想案内	鹿野政直	岩波書店	978-4003500187

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

前提学力等

履修資格

講義名	政治学（国際政治を含む）							担当教員	望月 詩史
講義コード	1201990	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL305, 235LAH305								

授業計画		
------	--	--

回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	政治思想・国際政治の世界
第2回	古代・中世の政治思想	民主政と君主政・政治と宗教
第3回	近代の政治思想	国家主権・社会契約説
第4回	近代の政治思想	自由主義と保守主義
第5回	近代の政治思想	民主主義・社会主義・共産主義
第6回	近代の政治思想	大衆社会とファシズム、ナショナリズム
第7回	近代日本の政治思想	啓蒙思想・自由民権思想ほか
第8回	近代日本の政治思想	初期社会主義・民本主義ほか
第9回	国際政治	国際政治とは何か・アクター・安全保障ほか
第10回	国際政治	国際政治理論、国際政治の仕組み
第11回	国際政治	ウェストファリア体制～ウィーン体制
第12回	国際政治	二つの大戦
第13回	国際政治と日本	1850年代～1910年代
第14回	国際政治と日本	1920年代～2000年代
第15回	まとめ	歴史や思想を通して現代政治の今日的課題を考える。

担当者から一言

講義名	卒業研究(環境政策・計画)/							担当教員 学科教員/井手 慎司/小野 奈々/ 香川 雄一/金谷 健/上河原 献二/ 白木 裕斗/高橋 卓也/瀧 健太郎/ 林 宰司/平山 奈央子/村上 一真/ 和田 有朗
講義コード	1202440	単位数	6	開講期	通年研究	授業種別	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

卒業研究I・IIを参照してください。

到達目標

卒業研究I・IIを参照してください。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究（環境政策・計画）						担当教員 学科教員/井手 慎司/小野 奈々/ 香川 雄一/金谷 健/上河原 献二/ 白木 裕斗/高橋 卓也/瀧 健太郎/ 林 宰司/平山 奈央子/村上 一真/ 和田 有朗	
講義コード	1202441	単位数	3	開講期	前期研究	授業種別		演習
ナンバリング番号	412BTC403							

授業概要

卒業論文作成に指導教員の指導を受けつつ挑んでいく。卒業論文の評価は、オリジナリティ（新規性・独創性）、有用性（利用できるか）、論理性（論理が整然としているか）、完結性（論文として完成しているか）できる。分析方法として多変量解析やGISなどを習得する。（2015（平成27）年度より開講）

到達目標

- (1)学生が人生のある時期を環境政策・計画学科で四年間過した証＝人類の知に新たな知を追加したことを作ること
(2)学ぶとはどういうことなのか、学びの楽しさとは何かを知ること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標を卒業論文で評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各研究室で指示する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各研究室で指示する

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究（環境政策・計画）					担当教員	学科教員 / 井手 慎司 / 小野 奈々 / 香川 雄一 / 金谷 健 / 上河原 献二 / 白木 裕斗 / 高橋 卓也 / 瀧 健太郎 / 林 宰司 / 平山 奈央子 / 村上 一真 / 和田 有朗		
講義コード	1202441	単位数	3	開講期	前期研究			授業種別	演習
ナンバリング番号	412BTC403								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	研究テーマの模索	研究テーマの模索
第2回	研究仮説の検討	研究仮説の検討
第3回	調査対象の検討	調査対象の検討
第4回	関連研究の調査	関連研究の調査
第5回	検証仮説の作成	検証仮説の作成
第6回	第1回卒業研究中間発表	第1回卒業研究中間発表
第7回	修正作業	修正作業
第8回	調査実施1	調査実施1
第9回	調査実施2	調査実施2
第10回	分析実施1	分析実施1
第11回	分析実施2	分析実施2
第12回	分析結果の検討	分析結果の検討
第13回	結論の構想	結論の構想
第14回	卒業論文の目次案作成	卒業論文の目次案作成
第15回	第2回卒業研究中間発表会	第2回卒業研究中間発表会
担当者から一言		

講義名	卒業研究（環境政策・計画）							担当教員 学科教員/井手 慎司/小野 奈々/ 香川 雄一/金谷 健/上河原 献二/ 白木 裕斗/高橋 卓也/瀧 健太郎/ 林 宰司/平山 奈央子/村上 一真/ 和田 有朗
講義コード	1202442	単位数	3	開講期	後期研究	授業種別	演習	
ナンバリング番号	412BTC404							

授業概要

卒業論文作成に指導教員の指導を受けつつ挑んでいく。卒業論文の評価は、オリジナリティ（新規性・独創性）、有用性（利用できるか）、論理性（論理が整然としているか）、完結性（論文として完成しているか）できまる。分析方法として多変量解析やGISなどを習得する。（2015（平成27）年度より開講）

到達目標

- (1) 学生が人生のある時期を環境政策・計画学科で四年間過した証 = 人類の知に新たな知を追加したことを作ること
(2) 学ぶとはどういうことなのか、学びの楽しさとは何かを知ること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標を卒業論文で評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各研究室で指示する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

各研究室で指示する

前提学力等

履修資格

講義名	地域開発論							担当教員	平山 奈央子
講義コード	1202550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC303, 214BRM294								

授業概要

地域が抱える問題が深刻化し、看過できなくなった段階において公共部門による地域政策が生み出される。この地域政策に沿って実施されるのが「地域開発」である。本講義では、水資源に関する地域開発の事例について、地域を構成する場所や人の変化に着目し、その時代に着目されていた課題の整理とそれに対して地域政策が何を実施し、その結果どのような功罪があったのか、という地域開発ストーリーを紐解く。

到達目標

1. 地域開発の理論と歴史について理解できる
2. 地域開発政策の実態とその功罪を理解できる
3. 今後の地域開発のあり方について考察できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	20%	前半の琵琶湖総合開発に関する小テスト
レポート課題	40%	最終レポート
上記以外	40%	小レポート(主要な回で実施)

レポートについて、提出期限を過ぎた場合は採点しない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域開発論							担当教員	平山 奈央子
講義コード	1202550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212ETC303, 214BRM294								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	導入	地域開発とは何か
第2回	水資源開発に関する概論	現在の琵琶湖を概観する
第3回	琵琶湖総合開発1	水資源開発の視点から
第4回	琵琶湖総合開発2	淀川流域の治水の視点から
第5回	琵琶湖総合開発3	農地開発の視点から（内湖干拓）
第6回	琵琶湖総合開発4	琵琶湖訴訟
第7回	琵琶湖総合開発5	住民の運動 せっけん運動と条例制定
第8回	中間テスト	琵琶湖総合開発について理解度を確認する
第9回	農業開発1	日本の農業政策の変化
第10回	農業開発2	海外の事例
第11回	地域開発1	日本の地域政策の変化
第12回	地域開発2	日本の地域政策の功罪
第13回	地域開発3	海外の事例
第14回	住民参加に関する変化	
第15回	総括	
担当者から一言		

講義名	地域環境政策論							担当教員	香川 雄一 / 瀧 健太郎
講義コード	1202580	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM212, 212ETC304								

授業概要

環境問題は時代と地域によってさまざまなパターンで発生する。したがって過去の環境政策も具体的な問題に応じて実施されてきた。本授業ではとくに地域や時期による環境政策の違いをいくつかの具体例を紹介しながら説明していく。また環境政策の効果と課題を時代の変遷から眺めていく。具体例では国内の代表的な事例と身近な地域の事例を取り上げることにした。環境政策の理論と環境計画の現実を実際の経験から学んでもらいたい。

到達目標

- ・環境問題が発生した地域の概要を説明することができる。
- ・日本における環境問題の歴史的発生パターンを理解することができる。
- ・地域における環境政策の成果と課題について検討することができる。
- ・対象地域を設定して、環境問題の原因・発生過程・対策・課題を批判的に論述することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	・対象地域を設定して、環境問題の原因・発生過程・対策・課題を批判的に論述することができる。(50%)
上記以外	50	・環境問題が発生した地域の概要を説明することができる。(25%) ・日本における環境問題の歴史的発生パターンを理解することができる。(15%) ・地域における環境政策の成果と課題について検討することができる。(10%)

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業内容の予習に関するレポート、授業の理解度を問う課題を出すことがある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

日本の各地方における地誌を理解しておくことが望ましい。

履修資格

講義名	地域環境政策論							担当教員	香川 雄一 / 瀧 健太郎
講義コード	1202580	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM212, 212ETC304								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	地域環境政策についての諸概念	地域の環境政策を理解するために必要な概念の説明
第2回	農山村の環境政策	足尾銅山の鉱山公害問題と環境政策
第3回	大都市の環境政策	東京や大阪における都市環境問題の発生と環境政策
第4回	工業都市の環境政策(1)	川崎における工場公害問題の発生と環境政策
第5回	工業都市の環境政策(2)	四日市における工場公害問題の発生と環境政策
第6回	工業都市の環境政策(3)	倉敷における工場公害問題の発生と環境政策
第7回	自然再生と環境政策(1)	諫早湾の干潟をめぐる環境政策
第8回	自然再生と環境政策(2)	釧路湿地をめぐる環境政策
第9回	河川の環境政策	近畿圏の水資源開発と環境政策
第10回	身近な地域の環境政策(1)	琵琶湖の保全・再生をめぐる環境政策
第11回	身近な地域の環境政策(2)	滋賀県内の身近な川や水辺での環境政策
第12回	地域環境政策の展開(1)	子どもの学習と環境政策
第13回	地域環境政策の展開(2)	小さな自然再生の展開
第14回	地域環境政策の展開(3)	環境政策と住民参加
第15回	授業のまとめ	身近な地域の環境問題から環境政策を考える

担当者から一言

講義名	地域再生システム論/							担当教員	鶴飼 修 / 上田 洋平 / 萩原 和
講義コード	1202610	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112PEL205								

授業概要

地域本来の力や資源を活かした地域づくり・地域再生を実現するための考え方と手法を実践的に学ぶ。具体的な地域再生の事例を参考に、フィールドワークやワークショップの企画、実施、地域再生策の提案までの過程に主導的に取り組む。こうした実践を通して、フィールドワークやワークショップの技法、ファシリテーションの手法、地域課題の把握から解決策の提案までのノウハウを修得する。

なお、この科目は環びわ湖大学・地域コンソーシアムが提供する「おうみ学生未来塾」該当科目として、県内他大学の学生もともに受講する。

- 1) 夏期3日間の集中講義として行う(2017年度は8月18日、19日、20日を予定。フィールドワークはこのうち1日)。
- 2) 学生、院生(社会人学生含む)混成によるチームを編成し、フィールドワークやワークショップに臨む。
- 3) フィールドワーク先や課題は地域の行政等から紹介・提起を受け、ホットでリアルなフィールドや課題に挑む。
- 4) 地域住民や市民団体、地域の行政職員等、地域の方々と共に歩き、考え、具体的な企画・提案を作成する。

到達目標

- (1) 様々な地域再生事業の概要及び実施手法について理解し説明できる。
- (2) フィールドワークやワークショップによって地域の現状と課題についての確に把握し整理することができる。
- (3) 地域課題・地域再生に資する事業を企画し提案することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す(1)については中間レポート(30%)により、(2)(3)については中間・最終レポート(50%)及びプレゼンテーション(20%)により評価する。

授業外学習

フィールドワークを踏まえた地域再生提案の作成に向けて、チーム毎に相談したうえで授業時間外に作業を行う場合がある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域再生 滋賀の挑戦 エコな暮らし・コミュニティ再生・人材育成	近江環人地域再生学座編	新評論	
2	地域診断法 鳥の目、虫の目、科学の目	近江環人地域再生学座編	新評論	
3	近江楽座のススメ - 学生力で地域が変わる	近江楽座学生委員会編著	ラトルズ	

前提学力等

履修資格

講義名	地域再生システム論/							担当教員	鶴飼 修/上田 洋平/萩原 和
講義コード	1202610	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112PEL205								

授業計画

回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス(4月)	ガイダンスは4月に実施する。ガイダンスの日程は別途案内する。授業、フィールドワークは8月18日、19日、20日に実施する。
第2回	地域コミュニティの現状と課題-フィールドワーク対象地の紹介と	フィールドワーク対象地(県内4~5地域)の地域課題について紹介する。受講生の希望も勘案してチームを編成する。講義を通しての各人の目標設定を行う。
第3回	レクチャー及びWS 地域再生「10箇条」	成功事例をとおして住民主体による地域再生の取り組みに必要な要件を抽出する。
第4回	レクチャー及びWS 地域課題の分析とリサーチクエストの設	「マダラート」等の手法により、地域課題に関わる視野を広げた上で、課題の絞り込みと課題解決に向けた方向性を議論する。
第5回	レクチャー及びWS 地域課題の分析とリサーチクエストの設	「マダラート」等の手法により、地域課題に関わる視野を広げた上で、課題の絞り込みと課題解決に向けた方向性を議論する。
第6回	フィールドワークの設計	調査対象地域毎に日程の確認、フィールドワーク(チーム)の目標設定、役割分担、成果のとりまとめのイメージについて議論する。
第7回	フィールドワーク/現地講義	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地における講義
第8回	フィールドワーク/現地講義	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地における講義
第9回	フィールドワーク/現地講義	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地における講義
第10回	フィールドワーク/ワークショップ	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地のまち歩き
第11回	フィールドワーク/ワークショップ	各チームのプランに従いフィールドワーク。 ・現地のまち歩き
第12回	地域再生提案の作成	フィールドワークを踏まえた地域再生提案の作成 ・原則模造紙3枚以内でまとめる
第13回	地域再生提案の作成	フィールドワークを踏まえた地域再生提案の作成 ・原則模造紙3枚以内でまとめる
第14回	地域再生提案の作成	フィールドワークを踏まえた地域再生提案の作成 ・原則模造紙3枚以内でまとめる
第15回	特別レクチャー(一般公開)	地域再生・地域活性化の分野で全国的に活躍するゲスト講師(地域再生提案に対するコメンテーター)による特別講義。講師:未定
第16回	地域再生提案プレゼンテーションと講評(一般公開)	チーム毎に作成した地域再生提案の発表。学生による相互評価と教員、ゲスト講師による評価、講評

担当者から一言

講義名	地域システム論							担当教員	和田 有朗
講義コード	1202640	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112ETC201-C								

授業概要

地域システム論は人間や人間集団および生活や生産活動の空間、広がりを対象とするが、それらはひとつに統合された主体・広くは環境系という様々な主体間のつながりをもつシステムをなしている。人間の生活や様々な団体・組織の活動とその環境を統合して全体を地域とみなし、その成り立ちと機能を明らかにしていく。国や地方の地域の状態、地域政策のあり方、地域政策の問題点、今後の課題と方向について、事例等を交えて講義する。人間を中心とする自然的、経済的、社会的な複合体を対象とする。

到達目標

- (1)大都市圏からコミュニティに至る各空間スケールでの地域の成り立ちと機能を理解できる。
- (2)各空間スケールに対応した地域問題の性格とそれへの対応策を理解できる。
- (3)地域のカバナンスにおいて重要な役割を果たす自治体の性格と機能を説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	授業中に課すレポート 到達目標(1)について10% 到達目標(2)について20%
上記以外		

授業外学習

授業期間中にミニレポートを課す。授業中に毎回演習問題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	図説 21世紀日本の地域問題	伊藤喜栄・藤塚吉浩編	古今書院	978-4772241243
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域調査法							担当教員	香川 雄一
講義コード	1202660	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	112BTC201, 114BRM196								

授業概要

地域調査と社会調査についての基本的事項を学習する。フィールドワークのための基礎知識を習得することが目的である。社会調査についての歴史や意義を理解するとともに、調査方法の基礎と注意事項について説明する。調査の種類について質的調査と量的調査があることを学んだ後に、それぞれの具体的なデータについて例示しながら紹介していく。さらに資料やデータの収集から分析に至るまでにどのようなプロセスが必要になるのかを理解していく。

到達目標

- ・地域調査のために、適切な資料を集めることができ、それらの説明をすることができる。
- ・地域で発生する問題から、地域調査のために必要なキーワードを導き出すことができる。
- ・身近な地域について関心を持ち、調査すべき課題を見つけ出すことができる。
- ・地域調査を準備するために、具体的で実現可能性のある調査計画を作成することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	地域調査を準備するために、具体的で実現可能性のある調査計画を作成することができる。
上記以外	50	・地域調査のために、適切な資料を集めることができ、それらの説明をすることができる。(20%) ・地域で発生する問題から、地域調査のために必要なキーワードを導き出すことができる。(15%) ・身近な地域について関心を持ち、調査すべき課題を見つけ出すことができる。(15%)

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業の理解度を問う課題を出す。地形図の購入や統計書の検索を課すことがある。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ジオ・パル NEO	野間晴雄ほか編	海青社	9784860992651
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ガイドブック社会調査 第2版	森岡清志編著	日本評論社	9784535582460
2				
3				

前提学力等

調査法についての文献が読めること

履修資格

講義名	地域調査法演習							担当教員	香川 雄一
講義コード	1202670	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	112BTC202-C								

授業概要

実際に地域調査や社会調査を扱っている研究例から調査の実施方法を学んでいく。さまざまな資料やデータがどのようにして収集され、分析されているのかを具体的に解説する。先行研究例にならって、調査目的や調査方法の決め方、調査企画と調査設計の作り方について習得していく。調査方法に関しては、準備から実施、分析に至る前の過程をサンプリング方法やデータのコーディング方法にも触れつつ具体的に説明する。インタビューの仕方やフィールドノートの作成方法についても解説する。

到達目標

- ・地域調査の準備について、目的・方法・企画・地域概要の説明をすることができる。
- ・地域調査の実例を学ぶために、グループワークによって先行調査の内容を報告することができる。
- ・適切な調査対象の選択と、サンプリングの方法について理解することができる。
- ・地域調査を準備するために、具体的な対象を想定した質問調査票を作成することができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	地域調査を準備するために、具体的な対象を想定した質問調査票を作成することができる。
上記以外	50	<ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の準備について、目的・方法・企画・地域概要の説明をすることができる。(10%) ・地域調査の実例を学ぶために、グループワークによって先行調査の内容を報告することができる。(30%) ・適切な調査対象の選択と、サンプリングの方法について理解することができる。(10%)

100点満点で採点し、60点以上を合格とする。3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

調査を準備するための宿題を出す。グループ別に授業時の作業課題を出す。個人別にアンケート調査票を作成する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域調査ことはじめ	梶田 真他編	ナカニシヤ出版	9784779501326
2	新・社会調査へのアプローチ	大谷信介他編著	ミネルヴァ書房	9784623066544
3				

前提学力等

地域調査法を受講していること

履修資格

講義名	地球環境システム論							担当教員	上河原 献二
講義コード	1202710	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM213, 212ETC307, 214BRM286								

授業概要

われわれが日常生活を営む社会経済システムは自然環境や生態系と密接に結びついている。今日の環境問題は、そのような人間活動による過度な環境利用が大きな原因となっている。本講義では、現代社会の最重要課題の1つである地球環境問題とその改善のための地球環境条約等の国際協力制度につき、多面的に検証し、理解を深める。そして、地球環境問題の解決と持続可能な社会の構築に向けた方策を考えるための能力を養う。

キーワード：地球環境問題、社会経済と環境、持続可能な発展、環境政策、国際協力制度

到達目標

- (1) 地球環境問題とその対策（政策）についての基本的な知識を習得する。
- (2) 地球環境問題とその対策（政策）について、自ら情報収集・考察できるようになる。
- (3) 地球環境問題の解決（持続可能な社会）に向けた方法論を論理的に考察できるようになる。
- (4) 自ら考察した方法論を、レポートとして体系的にまとめることができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	最終レポートにより到達目標(3) (30%)と(4) (20%)を評価する。
上記以外	50%	レスポンスペーパーにより到達目標(1) (10%)を評価する。テスト(合計40%)により到達目標(1) (20%)と(2) (20%)を評価する。

欠席が4回以上になると評価対象としない(20分以上の遅刻は欠席とみなす)。なお、出席はレスポンスペーパーの提出による予定である。

授業外学習

毎回の授業でレスポンスペーパーの提出を求めるので、それを利用して授業の復習をすることが望ましい。授業中テストを実施する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	eco検定公式テキスト	東京商工会議所	日本能率協会マネジメントセンター	978-4-8207-4924-0
2				
3				

必要に応じて授業中に紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	動物生態学							担当教員	高倉 耕一
講義コード	1202750	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL305, 214BRM262								

授業概要

生物社会における個体・個体群・群集の各階層における現象を取り扱う行動生態学・個体群生態学・群集生態学を概観し、生態現象をもたらす維持しているメカニズムとそのプロセスについて講義する。生物群集の成立要因として議論されている仮説について、最近の論争を含めて紹介する。

到達目標

- (1) 進化的な視点から、動物の行動およびその他の形質の適応進化をもたらすメカニズムについて理解し、それにもとづいて生物現象を説明したり仮説を立てたりすることができる。
- (2) 個体群生態学における基本的な数理モデルについて理解し、それらの性質および解析法について説明することができる。また、現実の現象との関連についても説明することができる。
- (3) 群集生態学における基本的な数理モデルについて理解し、それらの性質および解析法について説明することができる。また、現実の現象との関連、および最新の仮説についても説明することができる。
- (4) 動物生態学における研究法・調査法の基礎について理解し、それぞれの適用可能性と限界について説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	与えられた課題に対して、適切な資料を検索・引用できる能力、それを読み解き説得力のある議論を展開できる能力を問う。
上記以外	50	5～6回のミニテストを行い、前回、前々回講義の理解度を問う。

授業外学習

レポート課題を課す

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	生態学 個体から生態系へ	Begonほか	京都大学学術出版会	9784876985791
2	動物生態学	嶋田 正和ほか	海游舎	9784905930464
3				

前提学力等

履修資格

講義名	廃棄物管理論							担当教員	金谷 健
講義コード	1202950	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC301								

授業概要

この授業では、廃棄物管理についての基礎知識、具体的には、廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の法律、廃棄物のリサイクル、廃棄物の処理、処理施設への住民意識、処理コストなどについて講義する。次に受講生は、各自が興味あるテーマについて調査し発表・レポートする(グループまたは個人)。このように、講義を聴くことと、自分で調べて発表・質疑すること、この両面を行うことで廃棄物管理についての理解をより深めることを、ねらいとしている。

到達目標

- (1) 廃棄物を適正に管理するために必要な基礎的事項を、説明できること。
- (2) 廃棄物管理において各自が興味あるテーマについて、調査目的・調査方法・調査結果および考察・結論を明確にした、調査・発表・質疑をできること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標(1)については、中間ふりかえりの結果で評価する(50%)。 到達目標(2)については、調査・発表・質疑を前提として、質疑での指摘(教員+受講者)への対応表、修正パワーポイントの事情(病気等)がない限り、5回以上欠席した者は、評価対象としない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ごみ問題の総合的理解のために	松藤敏彦	技報堂出版	4765534235
2				
3				

初回から、教科書を持っていることを前提に授業を行う。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特にないが、後半の学生発表は、パワーポイントで行う。

履修資格

講義名	ファシリテーション技法・演習						担当教員	平山 奈央子	
講義コード	1203061	単位数	3	開講期	後期	授業種別			演習
ナンバリング番号	112ETR201-C								

授業概要

ファシリテーションとは、集団による問題解決、アイデア創造などの現場において、それらの話し合いをスムーズにそして創造的に進むように意見や想いの交通整理をすることを意味する。このファシリテーションの方法によって、話し合いから生み出される成果や参加者の納得度・満足度が大きく異なる。そのため、ファシリテーションには技（技術）と頭（思考）と心（心構え）が必要である。

この授業では、前半は、「場のデザインのスキル」「対人関係のスキル」「構造化のスキル」を段階的に学び、意見を引出し、収束させるまでのファシリテーションについて実践できる状態にする。

後半は、より難易度の高い「合意形成のスキル」について、模擬的に設定された対立の「場」で実践的に学ぶ。本講義で身に付けたファシリテーションの基礎を独自のスキルとして確立することで、行政の計画作りや地域課題解決のための様々な活動において多様な主体の参画のために応用することができる。

到達目標

- (1) ワークショップを企画することができる（場のデザインのスキル）30%
- (2) 意見を引出し、自分の言葉で整理することができる（対人関係のスキル）30%
- (3) 話し合いの内容を可視化することができる（構造化のスキル）30%
- (4) コンフリクトを調整することができる（合意形成のスキル）10%

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30	ファシリテーションスキル
レポート課題	20	課題
上記以外	50	ワークの取り組み

授業外学習

ファシリテーションが必要な現場は多くあります。自分自身の活動の中から積極的に現場を探し、実践することを勧めます。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	法学概論（国際法を含む）							担当教員	坂田 雅夫
講義コード	1203110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL302, 235LAH303, 137ILA103								

授業概要

この授業では法律に関する基本知識を講義します。隣の人が自分の家の壁を壊した。怒って訪問しても、のりくらりとして、金を払うどころか、謝りさえしない。訴えてやりたいけど、どうすれば良いのか。ある朝、家にいきなり警察が来て、心当たりがないことで、逮捕された、自分はどうかになってしまうのか。こういった、本当は余り身近に来てほしくないけど、運が悪ければいつかやってくる厄介ごと。皆さんが思い浮かべる法律とは、こうした問題にからむものばかりでしょう。もちろん、こういう問題もこの授業では取り上げます。それ以外にも法律は、皆さんの日常生活にいろいろと深く結びついています。ニュース、街角、そして日常生活でみるいろいろな問題や単語が法律と結びついているんだと理解してもらえるのがこの授業の目標です。

到達目標

- (1) ニュースで出てくる法律関係の用語を理解できるようになる。
- (2) 公務員試験の法律・政治学関係の問題への基礎的知識を習得する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

初回講義時に指示

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『判例法学〔第5版〕』	西村健一郎、西井正弘	有斐閣	9784641184046
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	水環境政策論							担当教員	井手 慎司
講義コード	1203150	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM208, 212ETC308, 214BRM296								

授業概要

琵琶湖や日本における水環境問題の現状や課題、歴史、保全に取り組んできた行政施策と住民運動の変遷を中心に解説しながら、琵琶湖および国内、世界的な水環境問題の今後の解決にむけた方途について考えていく。毎回、質問標を配付・回収し、講義に関する質問や疑問について翌週に答えていく予定である。

到達目標

- (1) 琵琶湖における水環境問題の現状や課題、歴史を説明できる。
- (2) 日本における水環境に関する行政施策の変遷を説明できる。
- (3) 琵琶湖や日本における水環境の保全に関する住民運動の変遷を説明できる。
- (4) 琵琶湖および国内外の水環境問題の今後の解決にむけた方途について自らの考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	35	到達目標で示す(1)(2)(3)については定期試験(30%:(1)10%、(2)10%、(3)10%)、(4)については定期試験(5%)で評価する。
レポート課題		
上記以外	65	到達目標で示す(1)(2)(3)については、小テスト(45%:(1)15%、(2)15%、(3)15%)と課題(15%:(1)5%、(2)5%、(3)5%)、(4)については、課題(5%)で評価する。

課題を2回出す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

毎回プリントを配付

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	エネルギー変換工学							担当教員	河崎 澄
講義コード	1300040	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL306, 322THE303								

授業概要

環境負荷低減と省エネルギーのためのエネルギー変換工学に関わる基礎知識と現状を理解することを目的とする。このために、エネルギー形態、変換システム、資源や将来の見通し、風力、太陽光、バイオマスなどの新エネルギーや地球温暖化ガスによる温暖化メカニズムやその低減方法に関して理解を深め、ライフサイクルを考慮したエネルギー変換システムの考え方を習得する。

キーワード：エネルギー変換，熱機関，原子力，燃料電池，新エネルギー

到達目標

- (1) 利用可能なエネルギー資源の種類と特徴およびエネルギー変換経路を説明できる。
- (2) 移動用・発電用機関の種類と動作原理を説明できる。
- (3) 分散型エネルギー供給システムの構成とその導入メリットを説明できる。
- (4) 各種新エネルギー利用技術を説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(1)～(4)を期末筆記試験により評価する。その割合は(1)10%, (2)～(4)各20%とする。
レポート課題	30	到達目標(1)～(4)を、講義中に行う10回程度のミニレポートにより評価する。その割合は各7.5%×4項目=30%とする。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	エネルギー変換工学	柳父・西川	東京電機大学出版局	
2				
3				

前提学力等

「機械システム工学概論」「熱力学」の単位を修得していることを前提に講義を行う。

履修資格

